

55

72

醫學博士生録造講演

近世
トホノ講話
全



文明館發售

55-72

醫學博士 荻生録造 講演

近世トラホーム講話

明文館書店發售

明治
44. 6. 14
丙寅

緒言

「トラホーム」問題の須臾も閑却すべからざるは、吾人の言を俟ちて後初めて知るべきに非ず。従て之れに關する著譯書汗牛充棟も啻ならず。雖未以て社會全般に通ずべきもの多からざるに似たり。千葉醫學專門學校長荻生博士斯科に造詣深し。亦に甚だ本病の蔓延を憂え數年來屢次其の蘊蓄を傾倒して各地に講演を試み衆庶を警醒す。言議剴切眞個「トラホーム」講話の精粹たらずんばあらず。會々明文館主の懇請するあり。乃ち該草稿を提げ博士の

校閲を得て上梓す若し夫れ此の書に因て「トヲホ」ムに
關する知識を涵養し濟生の資となすことを得ば編者の
喜び何者か之れに如かんや。

明治四十四年五月

波翠山人 林 角吉 識

近世トヲホム講話

目次

名稱ト沿革	一
定義	八
結膜	一〇
症候	一三
病理	二五
傳染	三〇
性質	三五
診断	三八
豫後及經過	六〇

目次

一

二

附録

學校教員ニ「トラホーム」治療ヲ托スルノ可否……………九六

豫防法……………一〇〇

近世トラホーム講話目次終

近世トラホーム講話

醫學博士 荻生 錄 造 講演

名稱ト沿革

名稱

現今汎ク用ヒラル、トラホームナル名稱ハ希臘語ノ「ト、ラ、キ、ス」即チ粗糲ト云フ文字デ本病ノ症候ノ一ツヲ示スノデアアル、此名稱ヲ主ニ用ヒタノハ西曆前世紀ノ始ラデローザス、アルト、ベンツ諸氏ニ依ルノデアアル然シソノ實此名稱ハ遙カ遠イ時代カラ用ヒラレタノデ只氏等ニ依テ再度呼ヒ起サレタトイフ迄デアアル、

「トラホーム」ハ余程古代カラ存在シテ居ツタノデアアル、最近ノ調査ニヨルニ今ヨリ三千五六百年前ニ於テ泰西ノ最古開化國デアアル埃及ニ本病ガアツタト云フ事ガ確實デハナイガ察セラレルノデアアル、西曆千八百七十二年今ヨリ四十年程前ニ於テ英國人ジョージ、エペルストイフ人ガ企テ

名稱ト沿革

パヒルスエ
ルス

印度亞刺比
希臘羅馬

羅馬
テス
コリス
ズス
スエル

セウエール
ス

ガレオン

アエチウス

中古

名稱沿革

第二回ノ埃及探險ニ於テ後ニ「パヒルス、エベルス」ト名付ケタ醫書ヲ
發見シタ此書ハ泰西醫學ノ鼻祖ト稱セラレルヒポクラテスヨリ約千
年前ニ成ツタモノデ此書類ノ殆ント拾分一ハ眼病ノ療法ヲ書イテオル
其ノ内ニヒルシユベルク氏ノ説デハ「トラホーム」ノ事ガ記載シテアルト
云フノデアアル然シ最古ノ開明國即印度亞刺比亞希臘ニハ確カニソレト
思フ名稱ノ病ハナイガ症候又ハ療法ニ依ツテ夫レト察セラレル病ガア
ルノデアアル降ツテ羅馬時代ノデラスコリーデスツエルズスニ依テモ本
病ノ存在ハ察セラレルモ記載物ニ確カニコレト云フモノハ見エヌノデ
アル兩氏ハ耶蘇降誕前後ノ人デアアル本病ノ症候療法等ニ就テ確實ナル
事ハ始メテセウエールスニ依テ説カレタ其時代ハ明カナラザレド今ヨ
リ大凡千七百年前ニ當ルノデアアル夫レヨリ後ニガレオン降ツテアエチ
ウス(西曆五百四十年)ニ至ツテハ既ニ本病ノ詳細ナル症候論ガアル、パウ
ルス、フオン、エーギナニ至ツテハ既ニ局所ニ對シ巧ニ器械的療法ヲ行フ
程ニ進歩シテ居タノデアアル、

中古時代ニハ本病ノ研究モ一般醫學ト共ニ涉々敷キ進運ニ向ハナカッ

那翁

伊太利

英、埃、獨、普

タ、歐羅巴ニ於テ「トラホーム」ニ就テ始メテ深キ注意ヲ惹キ起シタノハ當
時ボナバルト將軍後ノ那翁一世ガ三萬五千ノ兵ヲ率イテ埃及遠征ヲヤ
ツタ後デアアルコレハ西曆一千七百九十八年ヨリ一千八百〇一年ニ亘ル
三ケ年間デアアル即チ同軍ハ埃及在陣中激シキ敵ノ抵抗ハナカッタガ「ペ
スト」「コレラ」「チフス」赤痢及「ビスコルブ」ト等ノ傳染病ノ爲メ非常ニ苦シ
メラレタノデアアル又或ル一種ノ眼病ガ甚敷ク害ヲ加ヘタノデアアル此眼
病ニハ將卒ノ大半ハ侵サレタト云フ事デ千八百〇一年同軍ガ歸陣ノ途
始メテ上陸シタ伊太利ノエルバ島及ピリウオルノ一市ヲ始メトシ西沿
岸ノ地ヨリシテ同國至ル所ニ此眼病ノ大流行ヲ來シタノデアアル爾來交
戰ニ依ツテ英、埃、獨、普等ノ軍隊ヲ始メトシ國內ニ於テ大流行ヲ來シタノ
デアアル此眼病ハ嘗テ唱ヘラレタ如ク決シテ「トラホーム」バカリデハナイ
又軍隊ニ於ケル此種ノ眼病ノ流行ハ那翁遠征前ニ於テモ諸所ニアツタ
事實ハ確カデアアル彼ノ時ニ流行シタ眼病中ニハ無論「トラホーム」モ其一
部分ヲ占メテ居ツタノデアアロウガ他ノ傳染性眼炎即チ膿漏性結膜炎コ
ホ、ウ、ク、菌、肺炎菌等ニ因ル急性結膜炎杯却ツテ大部分ヲ占メテ居

名稱沿革

ツタ事ハ當時ニ於ケル症候經過ノ記載ヲ見テモ明ラカデアアル實扶埜利
 亞性結膜炎モ其ノ内ニ這入ツテ居ツタト云フ事デアアル故ニ此流行傳搬
 ハ全然那翁遠征ノ罪デハナイ然シ此時以來流行性結膜炎ノ事ニ就テハ
 諸國ニ於テ大ナル注意ガ拂ハレテ來タト共ニ「トラホーム」モ爾來其ノ症
 候ニ病理ニ療法ニ深ク考究サレタ又殆ンド忘レテ居ツタ古代ノ事モ再
 ビ記憶ニ呼ビ起サレタノデアアル即チ其當時ノ大流行ハ後ノ研究ノ原因
 ヲ爲シタニ相違ナイノデアアル

流行性加答兒
 埃及眼炎
 膿漏性結膜炎
 平人眼炎

當時那翁ノ埃及遠征ニヨリ歐洲諸國ニ傳搬セラレタリト稱スル眼炎ニ
 ハ流行性加答兒埃及眼炎古代既ニ用ヒタル名稱慢性膿漏性結膜炎軍人
 眼炎ノ如キ種々ノ名稱ヲ附セラレタ是レハ疑モナク前記諸種ノ結膜炎
 ト「トラホーム」トヲ混同シタル名稱デアアル

「グラマロー
 セ」
 「トラコーマ」

純然タル「トラホーム」ニ對シテハ千八百〇七年ウエツチ氏ガ始メテ顆粒
 狀結膜炎ナル名稱ヲ用ヒマツケンジ「ゼーミッ」シユ氏モ亦之ヲ用ヒタ
 ノデアアル東普魯刺デハ單ニ「グラマロー」ト「顆粒肉芽」ト云フテ居ツタベ
 ル氏ハ「トラコーマ」無花果ノ意ニヨリ無花果眼炎トモ命名シタノデアアル

アルト
 ローズ
 ベンツ

支那日本

始メテアルト、ローズ、ベンツ(前世期ノ上半)等ニ依リ「トラホーム」ノ名ハ
 再ビ呼ビ起サレ且ツ廣ク使用セラル、様ニナツタノデアアル其外近代ニ
 起ツタ名稱ハ澤山アルガ茲ニハ省ク

東洋ト云フテ茲ニハ支那及日本ニ於ケル「トラホーム」ニ就イテ少シク述
 ベテ見ヨウナラ支那醫學ノ一部ハ印度ヨリ渡來シタモノデ其ノ點ハ西
 洋醫學ト同ジ事デアアル「トラホーム」ガ此古キ開明國ノ支那ニハ太古ヨリ
 存在シタ事ハ今日ノ擴ガリヲ見テモ想像セラルルノデアアル日本ニ於テ
 モ同様デアアルガ支那及日本醫學ノ沿革ニ就イテハ近時眼科學會雜誌ニ
 載セラレタル大西博士ノ調査ト小川博士ノ眼科小史ガ最モ詳シキモノ
 デアルカラ夫ニ依リテ大要ヲ述ヤウ

隨經傷寒
 內經金匱
 論中藏經
 脈訣
 諸病源候
 證治要訣
 千金方(孫思
 邈著)
 外臺秘要
 (王焜著)
 肉赤肉

支那太古ノ醫書ニハ本病ノ記載ハ更ニ無イ中古隨ヨリ唐ノ中程迄ノ時
 代ニ現ハレタ書類ニモ確カニ夫レト認ムベキモノハ無イ今ヲ去ル千三
 百年ノ著作ナル諸病原候論ニ息肉陷膚ノ語ガアル降ツテ唐時代ニ現ハ
 レタ千金方ノ中ニ「目中生息肉」ノ句ガアル又同時代ノ外臺秘要ニ於テハ
 「療眼風熱生赤肉」「險爛生瘡」或ハ「多赤生瘡」ノ句ガアル息肉ト云ヒ赤肉又ハ

「トラホーム」ノ流行ガ本邦ニ於テ國家的問題トナツタノハ何時カラト確
 カニ云フ事ハ出來ヌガ近々十數年以來デアアル私ノ記憶ニハ今ヨリ二十
 年程前東京府下ノ青梅ト云フ所ノ小學校デ當時「トラホーム」ト唱ヘラレ
 タ疾病ガ大流行ヲ來シテ夫レガ動機デ東京デ騒ギ始メタモノト思フ爾
 來陸海軍壯丁検査小學校生徒ノ體格検査等ニ依ツテ多數ノ流行ヲ認め
 テ遂ニ今日ノ如キ重要問題トナルニ至ツタノデアアル

定義

「トラホーム」ハ多クハ慢性ニ經過スル傳染性疾患デ病竈ハ主トシテ結膜
 腺狀層ニアツテ經過中腺結膜及穹窿部ニ於テ濾胞ノ現出ト癍痕ノ形成
 ヲ呈スルモノデアアルガ其本體ニ就テハ古來隨分種々ノ説ガ出タモノデ
 或ハ結膜粘液腺ノ疾患デアルトカ乳嚙體ノ退化變化デアルトカ或ハ肉
 腫ノ一種又ハ息肉(疣)デアルトカ其外種々ノ説ガアツテ實ニ混沌タルモ
 ノデアツタ然ルニ西曆千八百五十八年ニ於テベンツ氏ニ依ツテ始メテ
 今日ノ見解ニ近キ定義ヲ得タノデアアル氏ハ「トラホーム」ハ結膜乳嚙ノ腫

アルト

ステルワグ

セーミッシュ

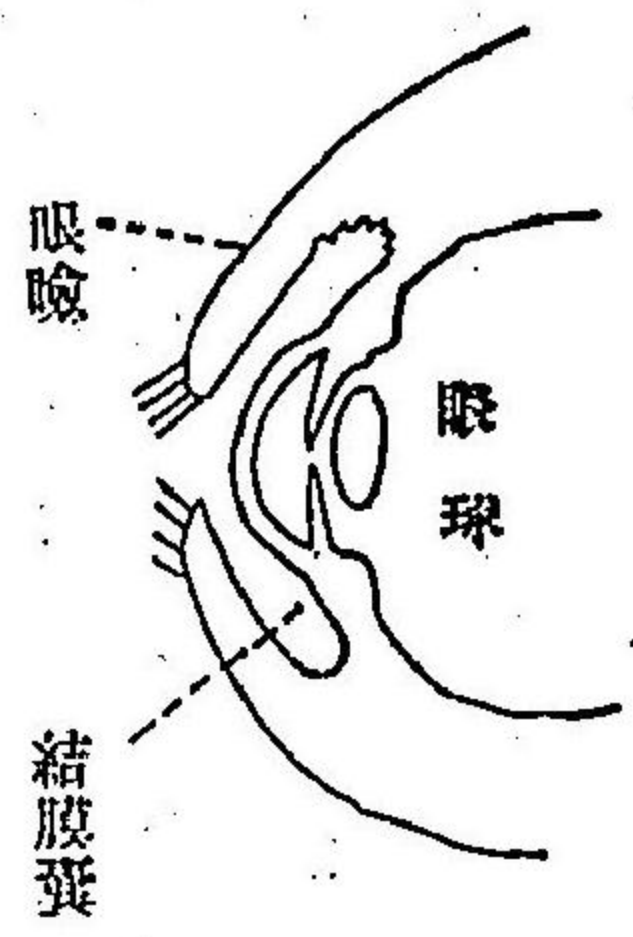
張及腸粘膜炎ニ在ル夫レト類似セル濾胞ノ發生ニヨリ肉芽面ヲ呈スルモ
 ノト説イタ次デアルト氏ハ在來ノ説ヲ打破シテ「トラホーム」ヲ一種特別
 ノ疾患トシテ全然傳染性埃及眼炎トハ區分シタガ後ニ再ビ慢性膿漏性
 炎ノ内ヘ混入シテ仕舞フタステルワグ氏ハ始メテ「トラホーム」ヲ分ツ
 テ(1)純顆粒性(2)乳嚙性(3)混合性即チ顆粒乳嚙體ノ肥大共ニ現ハル、モ
 ノ(4)瀰蔓性及膠樣「トラホーム」即チ多數ノ顆粒ガ密着混同シテ大ナル斑
 ヲ呈シ又半透明硝子樣ニ見ユルモノ、四種トシタ此區別ハ今猶多ク用
 ヒラレテ居ルガ多數ノ説デハ純乳嚙性即チ乳嚙ノ肥大ノミニテ顆粒ノ
 ナキ「トラホーム」ハナイ只肥大ノ爲メ顆粒ハ掩ハレテ現ハレヌノデ乳嚙
 ノ肥大ガ去レバ必ス現出スルノダト云フコトニナツテ居ル又「セーミッ
 シユ」氏ハ始メテ顆粒ヲ生スル結膜炎ニ良性ノモノト惡性ノモノヲ區分
 シテ甲ヲ濾胞性ト云ヒ乙ヲ顆粒性結膜炎即チ「トラホーム」ト名付ケタノ
 デアル

「トラホーム」ノ定義ニ就イテハ猶數多ノ説ガアルガ一々之ヲ擧クル事ハ
 到底繁ニ堪ヘナイ

結膜

「トラホーム」ノ症候、病理等ヲ講述スル前ニ結膜ノ造構ニ就テ極メテ簡單ニ一ト通り説イテ置コウ之レハ只順序トシテ私ノ用ユル用語ヲ紹介スル迄デアル、

第一圖



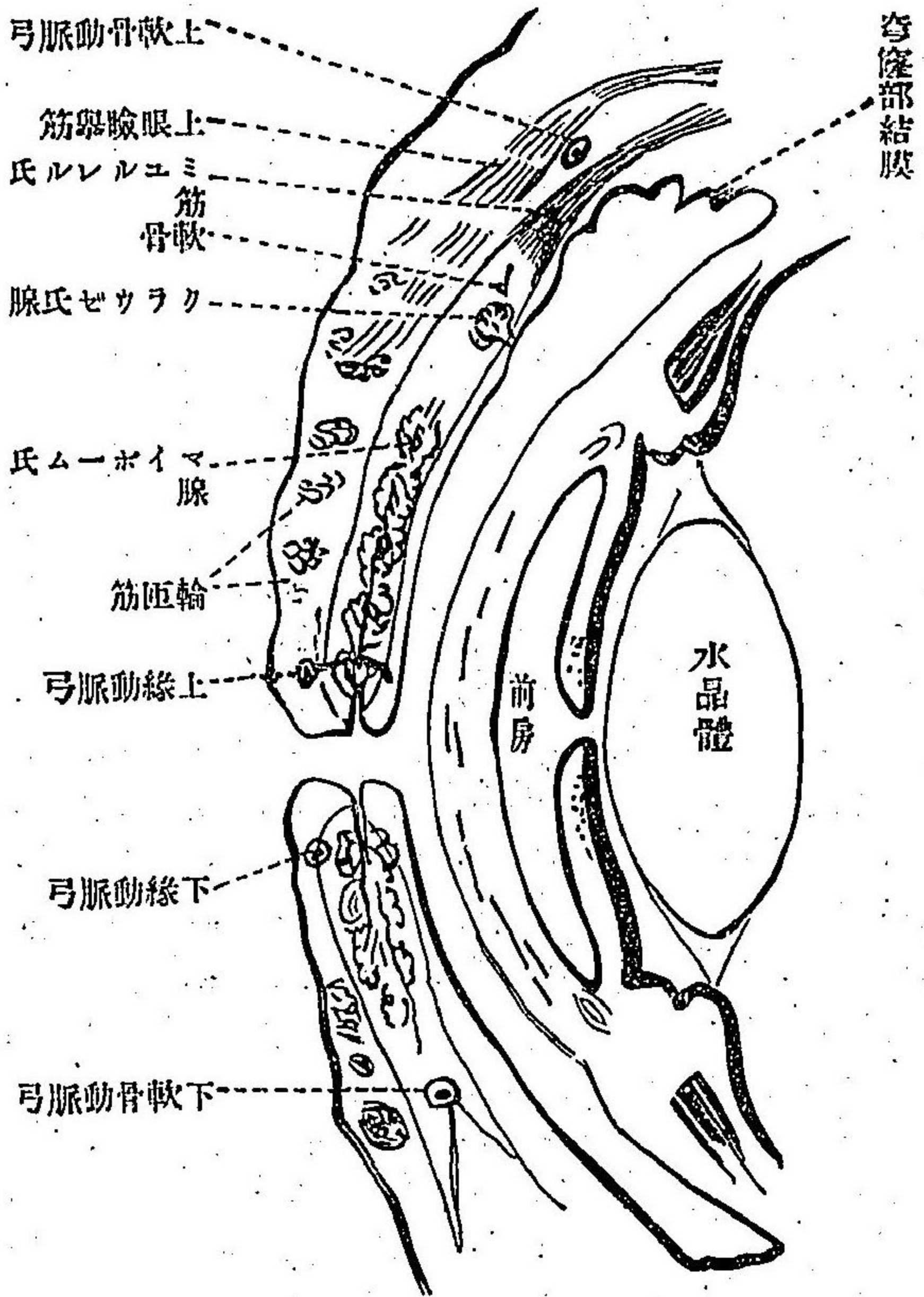
結膜ハ眼瞼ノ裏面ト眼球前面ヲ被フテオ
ル粘液膜ノ囊デ横カラ見レバ圖ノ如キ形
デアル、

眼球ヲ被ヘル部ハ角膜ヲ除クカラ恰モ底

抜ケ囊デアアル、眼瞼裏面ヲ被フテ居ル結膜ヲ險、結膜、眼球ヲ被ヘル部ヲ球、結膜、兩膜相合スル部ヲ結膜穹窿部、或ハ移行部ト唱ヘ、猶内皆ト球結膜ノ間ノ上下ノ險結膜ガ相合スル所特ニ赤色ニ隆起セル部ヲ半月狀皺襞、或ハ第三結膜ト云フ、

結膜ハ各部其造構ガ略ホ同一デアアルガ多少異ナル所ガアル、第一ニ上皮ガ違フ險結膜及穹窿部ハ重層柱狀、上皮ヲ以テ被ハレ、球結膜ハ重層扁平

第二圖



上皮ヲ以テ被ハレテ居ル、險結膜ニ於テハ生後二三ヶ月ニ漸次上皮下ニ
鬆疎ナル結締織ガ發生スルト共ニ乳嘴體ガ生ジテ所謂腺、様、組織ヲ形成
スルノデアアルガ緊張ノ堅ク軟骨ト密着シテ居ル只疾病ノ結果トシテ軟
骨トノ連合ガ緩クナル事ガアル、穹窿部ニ於テハ結膜ハ弛緩シテ小皺襞

ニ富ミ組織ハ鬆粗デ彈力纖維ガ豊富デアアル、乳嘴體ハ缺如スルガ小皺襞ノ爲メニ之ト同様ノ觀ヲ成シテオル、球結膜モ緩ク鞏膜ト結合シテ只角膜縁部ニ於テノミ固ク附着シテ居ル、故ニ眼球ヲ固定セント欲セバ必ズ角膜ニ密接シテ摺マネバナラヌノデアアル、腺ハ球結膜ニ於テハ僅カノ單管狀腺ナルマンツ氏腺ヲ見ルノミデアアルガ他ノ結膜デハ柱狀上皮細胞間ニ單腺杯狀細胞ノ外ニ分枝セル復管狀腺ナルクラウゼ氏腺及僅少ノ單管狀腺ノ三種ガアル、何レモ泌液腺デ爲ニ險結膜及穹窿部ニ於テ充分ニ濕潤シテオル、加之穹窿部ノ顚顚側ニ於テハ數箇ノ險淚腺ハ開口ヲ見ルノデアアル、血管ハ上眼險ニ在ツテハ二種ニテ、一ツハ險縁ノ近ク二三密迷ヲ去リ之レニ沿フテ外面ヨリ軟骨ヲ貫ヌキ結膜面ニ分布スルノデ、其穿貫部ハ淺溝ニヨツテ現ハレテオル、他ハ軟骨ノ上縁ニアル血管叢デ軟骨凸縁ヨリ整然ト併行シテオル、又下眼險ニアツテハ只軟骨凸縁ヨリ眼險縁ニ向フテ走行スル血管叢ノ一ツニヨツテ養ハル、モノデアアル、球結膜ハ前述軟骨凸縁ニ在ル血管叢ノ一部ガ下又ハ上走シテ養ハル、モノデアアル、其外角膜ノ周圍ニハ深部ヨリ發スル毛様血管叢ガアルモ健

康時ニハ見ル事ヲ得ヌノデアアル、(第一表第一圖參照)

結膜ハ滑澤透明ノ薄イ膜デ險結膜及穹窿部ハ黄色デ紅味ヲ帶ビ球結膜ハ白ク見ユル、眼險縁部ニ於テハ縁ヨリ上又ハ下走セル數多マイボーム氏腺ガ透見シ得ラレ、又球結膜ノ險裂部ニ於テ帶黄色又ハ灰白ノ混濁部ヲ見ル、之レハ所謂脂肪疹ト稱シ様々ノ刺戟ニ依ツテ出來ルモノデ、球結膜ノ硝子様變荒デアアル故ニ老人又ハ平素眼ニ小刺激ヲ受クル職業ノ者ニハ殊ニ著シイノデアアル、

症候

急慢性區別

「トラホーム」ノ症狀ニ就テ述ベンニ本病ハ急性慢性ノ二症ニ別ツコトガ出來ル、元來「トラホーム」ナル疾病ハ性質慢性ノモノデ所謂急性症ナルモノハ長キ經過中僅微ノ刺戟ニ因リ發炎シタルカ、別種ノ結膜炎ノ合併セルカ、或ハ全ク異種ノ急性結膜炎ナリトテ急性症ノ存在ヲ根本的疑フ人モアルガ、現今内外ノ諸説ハ急性症ナルモノハ比較的稀デアアルガ實在スルトイウ事ニ一致シテオルノデアアルガ、私ノ經驗カラ見ルトコロデモ、確

急性症候
他覺症候

カニ夫レト認ムベキモノガアル、即チ片眼ニ於テ純然タル慢性トラホー
ムガアツテ久敷ク治療スル内全ク健康ナリシ他眼ガ俄カニ急性炎ノ症
狀ト共ニ數多ノ顆粒ヲ生シ病體タル所謂急性結膜炎菌ヲ發見セザルモ
ノヲ見ルノデ之レハ急性症ノ存在ニ疑ヲ容レザルモノデアラウ、如此ハ
亦實地家ノ常ニ實驗スル所ナラント信スルノデアアル

急性症 (第一表參照) 劇甚ナル結膜加多兒ハ恰モ輕度ノ膿漏眼ノ如ク眼
險ハ輕度ニ發赤腫脹シ流淚甚シク始メ漿液性分泌物アリテ忽チ粘液ヲ
混ジ、遂ニ粘液、膿性トナル、球結膜ニハ周擁充血ヲ呈シ屢々輕度ノ堤狀腫
起ヲ見ル、上下險結膜及穹窿部ハ高度ニ充血腫脹ヲ現ハシ、乳嘴ハ肥大シ
テ殊ニ外眥内眥ニ甚タシク暗赤色トナリ、天鵞絨狀又凹凸不平面ヲ呈シ
穹窿部ハ許多ノ皺襞ニ依ツテ不平ニナルノデアアル、而シテ先ツ眼險結膜
特ニ外眥部及穹窿部ニ於テ小帽針頭大ニシテ灰白或ハ後ニ黃色ヲ帶ヘ
ル小斑點ヲ見ル、之レヲ特ニ原發顆粒ト唱ヘル人ガアル、此小顆粒ハ數日
又ハ二三週ニシテ漸次發育増大シ、而モ隆起シテ黃色ヲ加ヘテ來ル、然シ
特ニ乳嘴ノ肥大ガ著シクシテ顆粒ヲ破ヒ判然セザルカ或ハ全ク見ヘ難

自覺症候

顆粒ノ轉機

合併症

慢性症

症候

一五

キモノモアル、此時結膜ニ小壓ヲ加ヘ血液ヲ幾分退ケルカ又ハアドレナ
リン水點眼ニヨツテ之ヲ發見シ得ル事ガアル、或ハ數週ノ經過後ニ腫脹
充血消散シテカラ始メテ之ヲ發見シ得ル事モアル、
自覺的症候トシテハ急性結膜炎ト同シ事デ羞明、灼熱、異物ノ感デアアル、特
ニ角膜ニ合併症アル時ニハ輕度ノ毛様神經痛ヲ發スルモノデアアル、
顆粒ハ炎症ノ減退ト共ニ全ク吸收セラレ結膜ハ健康狀態ニ復スルカ、又
ハ結膜ニ癍痕ヲ貽スモ極メテ輕微デアアル、療法攝生當ヲ得テ治癒速ナル
片ハ癍痕尠ナク、經過長クレバ常ニ慢性症ノ楷梯トナル、即チ急性炎症狀
ハ減退スルモ顆粒ハ乳嘴體ノ肥大ト共ニ益々發育増殖スルニ至ルノデ
アル、

合併症トシテハ角膜邊緣ニ生ズル小潰瘍ガ最も多ク主ニ角膜ノ上縁ニ
出來ル、次ニ「パンヌス」モ起ルガ概シテ慢性症ニ比シテ遙カニ尠ナイ、

慢性症 急性症ヨリ移行シテ發生スルモアルガ、之ハ至極少數デ多クハ
最初ヨリ慢性ニ經過スルモノデアアル、此慢性トラホームハ吾人ガ單ニ「ト
ラホーム」ト稱スルモノデ之レヲ顆粒性、乳嘴性、混合性、瀰蔓性ニ區別スル

レールマン氏

モノモ多クアルガ實際上不完全ノ區分法デアアル又現時本邦ニ於テハ便宜上輕中重ノ三症ニ別ツテ居ルガ之レモ其區域カ頗ル明瞭ヲ缺イテ居ルカラ私ハ主ニ病理的變狀ニ基キタルレールマン氏ノ區分法ニ替スルノデ即チ「トラホーム」ヲ三期ニ分チ第一ヲ顆粒(濾胞)ノ發生期第二ヲ其崩壞期第三ヲ癍痕形成期トス

顆粒發生期

第一期 (第一表圖參照)其ノ始ハ外部ヨリ見ルニ眼ニ於テ少シモ變狀ナク患者亦タ心付カザル間ニ上眼險結膜ニ於テ灰白又ハ灰黄色ノ小斑點(原發顆粒)カ現ハレテ上眼險結膜ノ外眥部或ハ内眥部穹窿部或ハ軟骨部ニ始マリ罕レニハ第三結膜ヨリスルモノモアル而シテ顆粒ハ一局部ニ集

簇シテ居ル事モアレバ散在スルモアルガ概シテ其數ガ多クナイ大小不同デ險結膜ノ充血ハ至ツテ輕微デ腫脹モ初期ニハ殆ンド認メル事ガ出來ヌ程デアアル結膜面ハ滑澤デアアルガ既ニ輕度ノ乳嘴肥大ヲ見ル事モアル

疾病ハ始メ一眼ニ起リ數週數月ノ後他眼ニ發生スルモ罕ニハ數年ヲ經テ始メテ兩眼ニ現ハルアリ又稀ニハ終世偏眼ニ止マル事モアル

分泌物

自覺症狀

顆粒ハ徐々ニ發育シテ其大キサヲ増スト共ニ結膜面ヨリ隆起スルニ至ル又同時ニ其數ヲ増シ發育ノ度及部位ニヨリ大小不同デアアルガ概シテ險結膜ニ在ルハ小ニシテ穹窿部ニ近クナルニ從ヒ大クナルモノデアアル帽針頭大粟粒大或ハ米粒大トナル形狀ハ穹窿部ニ在ツテハ屢々隋圓形ヲ呈スルモ一般ニ圓形デアアル(第一表第二圖參照)顆粒ノ増數ト共ニ乳嘴ハ肥大ヲ起シテ來ル特ニ内外眥部及穹窿部ニ於テハ著シクナル即チ暗赤色ノ小隆ガ密生シテ始ハ天鵝絨狀ヲ呈シ後ニハ鷄冠樣又ハ覆盆子樣トナルノデアアル穹窿部ノ如キハ膨隆シテ許多ノ皺襞ヲ現ハシ其裡ニ屢々連珠狀蛙卵狀ニ排列セル大顆粒ヲ見ルノデアアル顆粒ノ數ハ漸次増シテ上眼險ハ穹窿部ヨリ險緣ニ至ル迄密生シ下眼險ニモ穹窿部内外眥ヨリ始メテ他部ニ波及シテ現ハルノデアアル罕レニ第三結膜又ハ球結膜ニモ二三ノ顆粒ヲ見ル極メテ罕レニハ顆粒ハ最初第三結膜ニ發スル事ガアルトモ云フ病期ガ進行シタ時ニハ粘性ノ分泌物ガアルガ至ツテ少ナイ乳嘴ノ肥大ガ甚シキ時ハ其量ガ増シテ來ル

自覺的病狀ハ始ハ殆ンド皆無デ漸次加ツテ灼熱羞明異物ノ感毎朝險緣

膠着、流淚等デアアル、進行期ニハ疼痛合併症及羞明ノ爲メ視力ノ障害ヲ訴フル事モアル、

定型性「パン
クス」

此期ニ於テ既ニ角膜ニ合併症ヲ來ス事ガ屢々アル、其最モ多キハ角膜「パンクス」デアアル、罕レニ角膜「ブリクテ」トシ、又ハ淺在性ノ潰瘍トシテ現ハレル、定型性「パンクス」第一表第六圖參照ニ於テハ初メ角膜ノ上縁ガ鎌狀ニ隆起シテ來リ上方球結膜ヨリ少許ノ血管ガ進入シテ、忽チニ其數ヲ増シ互ニ並行且分岐ヲナス角膜上皮ハ血管進入部ニ於テ點々剝離シテ粗糙ニナル、血管發生部ハ一般ニ微ニ潤濁ノ内ニ許多ノ小浸潤及小潰瘍ヲ作り、特ニ血管ノ先端ニ於テ小浸潤及小潰瘍ガ澤山ニ生ジ自然ニ健康部トノ境界線ヲナシテ居ル、血管ガ漸次下方ニ進ムト共ニ潤濁浸潤潰瘍ハ之レニ伴ツテ出來テ行クノデアアルガ、進ンデ角膜全面ヲ侵ス事ハ初期ニ於テハ極メテ稀有デ、稍々角膜ノ中央險裂ノ上縁即チ上眼險ガ被フテ居ル部デ止マツテ仕舞フモノデアアル、其ノ以前ニモ治療ニヨリ又ハ自然ニ結膜ノ炎症ニ伴テ「パンクス」モ進行ヲ止メ、血管ハ漸次消退シテ角膜面モ滑澤ニ潤濁モ薄クナルノデアアル、之以上ノ變化ハ多ク第二期及三期ニ於テ

經過

顆粒內容
崩壞期
他覺症狀

現ハレテ來ル、
角膜ニ合併症ヲ來ス時ハ、自覺的ニ刺戟症狀即チ灼熱、流淚、疼痛等ハ一層烈シイ、
此顆粒發生期ハ數週或ハ數月持續スルノデ、罕レニハ數年此時期ニ止ツテ直チニ第三期ノ癍痕形成期ニ遷リ行クガ、第二期ノ變質期ヲ經テ癍痕ヲ結フニ至ルノデアアル、

第二期 (第一表第三圖參照)ニ於テハ一面ニハ顆粒ノ新生ヲ見、一面ニハ既成ノ顆粒ガ其大サヲ増シ且ツ軟ラカクナツテ再ビ隆起ヲ減ジ、其色ガ稍々透明ニ穢灰白色ニ變ジ、又ハ汚黃色トナリ、且ツ互ニ密接シテ二三連合シテ大ナル斑點ヲ呈スルニ至ル、此時ニ於テ周圍ニ壓ヲ加ヘル時ハ屢々灰白色脂肪様ノ内容物ガ漏レテ跡ニ赤色小陷凹ガ出來ル、即チ小結膜潰瘍トナル、此ノ如キヲ膠様トシ、ト唱ヘルノデ時ニハ險結膜及穹窿部ノ大部分ガ此變質ヲ來シテ半透明硝子様ニ見ヘル、コレヲ瀰蔓性トシ、ト名附ケル、此期ニ於テハ結膜組織ハ全般ニ亘リ強ク侵サレルノミデナク、炎症ハ眼險軟骨ニ波及シ眼險ハ全體膨脹シテ眼險ヲ翻轉ス

レバ結膜面ハ暗赤色ニ膨脹シテ居ル、特ニ穹窿部ニ於テ著シイノデア
 ル、
 角膜ニ合併症ヲ起ス事ハ第一期ニ於ケルヨリモ一層甚シク、且ツ屢々ア
 ル、此時期ニモ「パンヌス」ガ最多イガ潰瘍、フリ、ク、テ、ン、モアル、其外ニ眼瞼縁
 ノ靡爛又ハ涙囊炎等ヲ起ス事モ決シテ尠クハナイ、
 自覺的症狀モ第一期ニ於ケルト異ナル所ハナイ、ガ只一層劇シイノデ分
 泌物ハ多ク粘液膿性デアアル、

自覺症狀

癥痕形成期

第三期 癥痕形成期ニハ第二期即チ「トラホーム」極盛期トモ云フベキ時
 期ヲ經テ漸次移行スルガ第一期ノ顆粒發生期ヨリ直チニ移行スルモア
 ル、癥痕組織ハ「トラホーム」顆粒ガ軟化崩壞シテ潰瘍トナツテ形成スルカ、
 左ナクモ顆粒ノ周圍ニ漸次結締織ガ新生シテ出來ルモノデ、次ノ場合ガ
 實際ニ於テ遙カニ多クアルノデアアル、癥痕形成ハ第二期ノ現象顆粒ノ軟化
 ト共ニ來ル事ガ屢々デアアル、癥痕形成ハ種々デ最モ輕キ時ニハ結膜ノ一
 部殊ニ穹窿部ニ於テ粗糙ナル帶青灰白色ノ部分ヲ見ルノデ、其狀恰モ結
 膜上ニ牛乳ヲ流シタ如クデアアル、又不正斑點狀線狀網羅狀灰白色ノモノ

癥痕「トラホ
ム」

續發症

角膜「パンヌ
ス」ノ原因

顆粒刺戟

毒素

症候

トシテ現ハル重症ニアツテハ眼結膜及穹窿部ノ大部分若クハ全部ガ緊
 張シタル光澤アル灰白又ハ黄灰白色ノ癥痕組織ニ變スルノデアアル、
 此癥痕期ニ於テハ結膜ハ貧血シテ分泌物少ナク、僅カニ絲狀ニ凝固シタ
 ルモノ又ハ内眥部ニ泡沫様ノモノガアルニ止マル、蓋シ此期ニ至ルモ始
 メハ未ダ其一部ニハ膠様變化ノタメ汚灰色ノ軟キ所ガアルカ又ハ癥痕
 ノ間ニ猶新シキ顆粒又ハ乳嘴ノ肥大セル部ヲ見ル、如此ヲ癥痕「トラホ
 ム」ト名付クルノデアアル(第一表第五圖參照)
 此第三期ヲ以テ「トラホーム」其モノ、進行ハ終局ヲ告クルノデアアルガ續
 發症ハ尙ホ益々劇シキヲ加ヘルノデ「トラホーム」ノ經過中現ハル、處ノ
 續發症ヲコ、ニ列舉スレバ
 一角膜「パンヌス」最モ多キ合併症デ何レノ期ニ於テモ出來ル、其發生形
 成等ニ就イテハ既ニ症候ノ第一期ニ於テ盡シタカラ茲ニハ唯其ノ發
 生ノ原因ニ就イテ述ベヨウ
 a 險結膜及穹窿部ニ出來タル顆粒カ器械的刺戟トナツテ起ル
 b 顆粒ハ一種不明ノ毒素ヲ分泌シテ角膜ヲ侵ス、

内眼症
亂生症

症候

二二

c 後章ニ於テ述ブル所ノ内、翻症又ハ睫毛亂生症ヲ起シ其ノ器械的刺戟
カラ起ル

瘰癧
腺口閉塞

d 險結膜及穹窿部ニ形成セル瘰癧ニヨル器械的ノ刺戟カラ起ル

顆粒發生

e 結膜荒蕪ノ爲メ諸腺及涙腺ノ開口ハ破潰セラレテ結膜ハ滑澤ヲ失シ
テ角膜ガ刺戟ヲ受ケル爲メ

f 球結膜及角膜ニ於テモ險結膜及穹窿部ニ於ケルト同様ノ顆粒ガ發生
シテ起ル

「バンス」ト
「トラホーム」ト
輕重ノ關係

以上數ケノ原因ハ想像シ得ルノデアアルガ單ニ一ツノ原因ニ引寄セル事
ハ出來ヌト思フ、而シテ「バンス」ノ發現及其度ハ決シテ「トラホーム」ノ輕
重顆粒發生數ニ關スルモノデナイ、輕症デ僅々數個ノ顆粒ノアル時ニモ
「バンス」ヲ起ス事ガアル、反之高度ノ「トラホーム」デ顆粒ハ密生シ高度ノ
瘰癧ヲ結ブモ角膜ハ全ク透明ニ止マル事ガアル、隨ツテ(d)ノ毒素說ナト
ガ起ル譯デアアル、

角膜小潰瘍及
「フリクテン」

二角膜小潰瘍及水泡、刺戟及局所ノ榮養障害ニ依ツテ出來ルノデアアル
以下ノ合併症ハ多ク第三期ニ於テ見ル

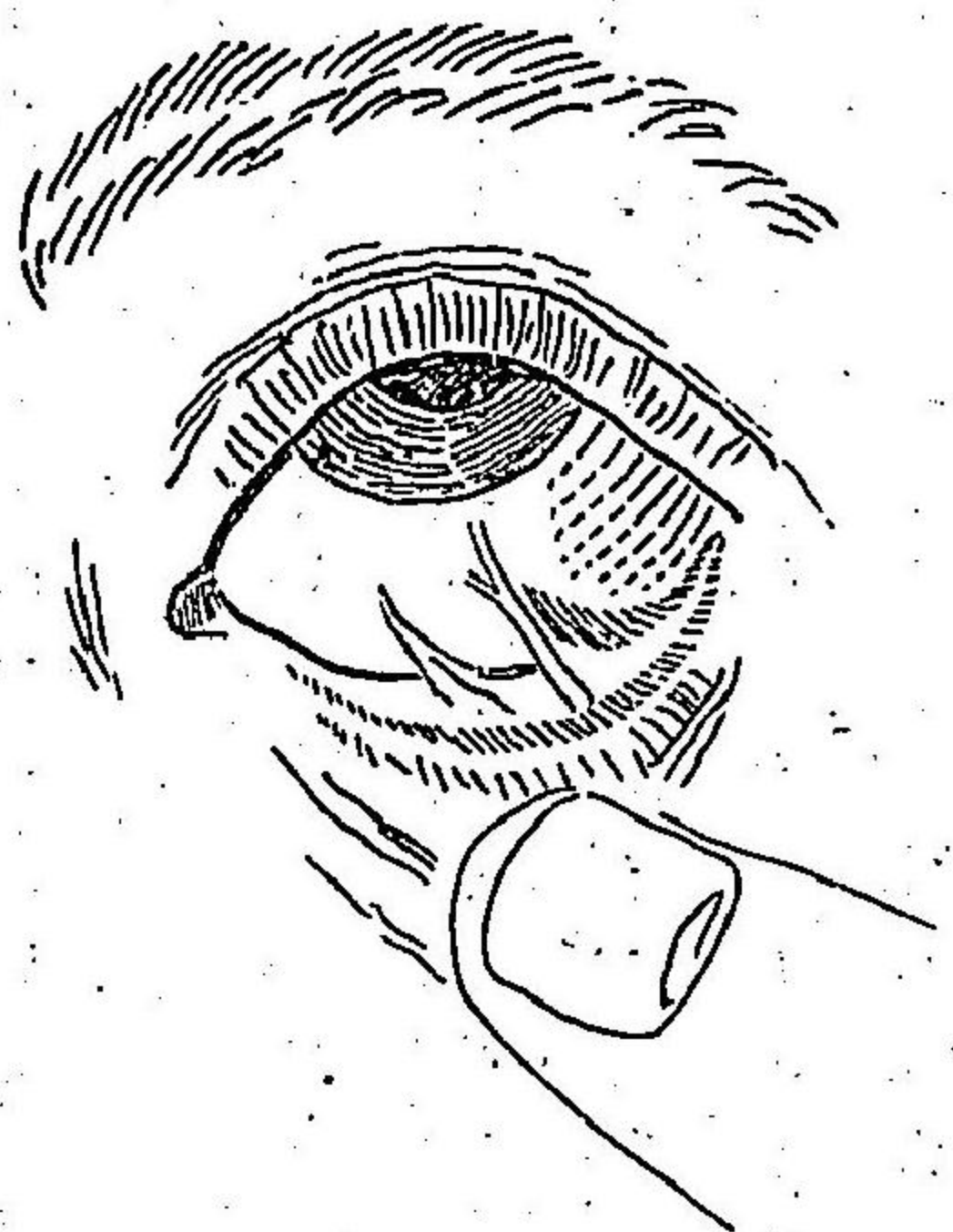
險球瘰癧

三險球瘰癧着症、罕レニ瘰癧形成ノ爲メ下險穹窿部ノ消失ヲ見ル、多クハ
下眼險ニ於ケル限局性險球瘰癧着症ニシテ屢々劇シキ手術後ノ不注意
ヨリ起ル事ガアル

内眼症

四眼險内翻症、(第一表第六圖
参照)上眼險ニ廣ク結膜ト共
ニ軟骨ガ侵サレ瘰癧收縮ニ
依テ生ズルモノデ、眼險皮膚
ノ弛緩ハ之ヲ援クルノデア
ル、其結果トシテ不絶角膜ヲ
刺戟シテ「バンス」潰瘍等ノ

第三圖



險球瘰癧着症

原因トナル

眼險緣炎

五慢性眼險緣炎、慢性結膜炎ノ刺戟ニ依テ頑固ノ眼險緣炎ヲ起シ、反覆
シテ容易ニ治ニ至ラサルモノデアアル、

睫毛亂生症

六睫毛亂生症、(第一表第六圖参照前症ノ結果トシテ逆毛ヲ生ジ角膜及球
結膜ヲ刺戟シテ角膜「バンス」潰瘍ノ原因トナル、睫毛ハ不規則ニ或ハ

症候

二三

險裂狹小

異常ニ強ク或ハ消耗シテ綿埃ノ如クナツテ其ノ刺戟ハ患者ニ非常ノ苦痛ヲ與フルノデアアル、

兔眼症

七、險裂狹小、(第一表第六圖参照)慢性眼險線炎ノ結果上下眼險線ハ常ニ外皆ニ於テ癒着ヲ來シ、險裂著シク狹小トナル、
八、兔眼症、險球癒着甚シク遂ニ眼險ヲ閉ス事能ハズシテ本症ヲ起スノデ、幸ニ如此烈シキ續發症ハ單純ノ「トラホーム」ニハ常ニ遭遇セザルモノデアアル、

乾燥眼

九、乾燥眼、甚タシキ榮養障害ノ爲メ或ハ閉鎖不完全ニヨリ保護ヲ缺ク爲メ角膜球結膜共ニ乾燥シテ光澤ヲ失シ粗糙トナリ遂ニ角膜溷濁シ失明シ、又ハ癆ニ陥ルモノデアアル、(八)(九)二症ノ如キハ我國ノ「トラホーム」ニハ殆ンド見ヌト云フテモヨイ位デアアルガ、歐羅巴人ノ或ル統計表ヲ見ルニ、乾燥眼ハ癍痕形成期ニ於テハ百人中八人迄ニ起ツテ失明ヲ來スト云フコトデアアル、

淚點異常

十、小淚點ノ位置、變常、及淚道、狹窄、小淚點ガ外翻スル爲メ淚液ハ流出シテ險線ニ刺戟ヲ與ヘ靡爛ヲ來シ進ンデハ慢性淚囊炎ヲ起スモノデ、ト

テホーム」ノ第二期第三期ニ於テ、内眥部ノ皮膚ヲ鼻梁ニ向ツテ壓迫スル時ニ淚點ヨリ膿液ノ流出スル事ハ決シテ稀レデハナイ、
以上ノ續發症ノ爲メ角膜ハ溷濁ヲ生ジ、又ハ穹窿異常ニ依リ多少ノ視力障害ヲ起スノデアアル、トラホーム」ノ末期ニ尙ホ完全ノ視力ヲ備エテ居ル者ハ殆ンド皆無ト云フテモヨイノデアアル、

病理

實地醫家ニハ「トラホーム」病理論ハ直接ノ關係ガ少ナイノ下、又研究センニハ到底一朝夕ノ談ニハ盡セヌコトデアアルカラ極メテ簡單ニ述ベンニ先ヅ晩近迄「トラホーム」ノ特徴トシタル「顆粒」即チ濾胞トハ如何ナルモノカト云フニ、顆粒ハ主モニ腺樣組織中ニ發生シ發育ニ連レテ漸次表面ニ現ハレテ來ルノデアアル、顆粒ノ大サハ〇・八ヨリ四・四ミリメートル直徑デ、コレヲ組織スルモノハ三種ノ細胞トソレヲ支ユル結締組織ト養フ所ノ僅カノ毛細血管デアアル、三種ノ細胞中多數ニ主トシテ顆粒ノ周邊ニ在ルハ單核小圓形細胞、デ所謂淋巴細胞デアアル、此細胞ハ「ヘマトキシリン」

上皮様細胞

「フアゴチー
テン」或ハレ
「ベル氏小體
細胞」

ニ依ツテ濃ク染マル顆粒ノ中央ニ至ルニ從フテ同ジク單核又ハ數個分
離セル核ヲ有シテ前者ニ比スレバ尙ホ大ナル細胞ガ増加ノ來ル之レハ
其性質ガ白血球ニ似テ上皮様細胞ト唱ヘラル、モノニテ「ヘマトキシリ
ン」ニ依ツテ薄ク染マルノデアアル、以上二種ノ細胞ガ大部分ヲ占メテ其他
ノ一種ハ極メテ少數デアアル(第三表參照)コレハ「レール氏」ノ發見セルモ
ノデアアル、様運動ヲ呈スル大細胞デ大ナル核ハ體ノ縁側ニ在リ、其外大
小數個ノ顆粒ヲ藏シ形ハ常ニ不正形デアアル之ヲ「ウイラルド氏」ハ「フアゴチ
ー」ト名付ケタ、此所謂「レール氏」小體細胞ナルモノハ彼ノ「レール
氏」ノ説デ「ト」ラ「ホーム」ニ對シテ何等カノ關係ガアルダロウト云フノデ
アル、此ノ三種細胞ノ外ニ尙異形ノモノガ五六種アルガ悉ク前三者ノ發
育及退行變化ニ於ケル副生物ト認ムベキモノデ、又其内ニハ結締織系ニ
屬スルモノモ混ジテ居ル、

顆粒ノ發育

顆粒ノ發育増大ハ周圍ヨリ淋巴細胞ノ加ハルト顆粒内ニ於テ上皮様細
胞ガ分體作用ニヨツテ繁殖スルトニ依ル、而シテ周圍ノ細胞ハ漸次扁平
鎌狀トナリ遂ニ結締織纖維ニ化シ集ツテ被膜ヲ形成スルモアル、膜ハ多

顆粒ノ營養
及癥痕

ク古キ顆粒ニ存スルモ必スシモ然リトハ云ヘス、
顆粒ハ外ハ周圍ノ淋巴液ニ依リ、内ハ僅カノ血管ニテ養ハル、ガ此僅カ
ノ小血管ハ往々顆粒ヲ養フニ足ラズシテ内容ガ乾酪様變質ヲ來シ顆粒
狀物ト成リ、周圍ノ上皮層ガ破レテ外ニ洩レ跡ハ小潰瘍トナツテ遂ニ癥
痕ヲ結ブノデアアル、又タ此ノ如キ轉機ヲ取ラズシテ顆粒及其周圍組織中
ニ結締織ノ新生ヲ起シテ癥痕組織ヲ生ズルノモアル、又タ顆粒ハ痕跡ナ
ク吸收セラレ些ノ癥痕ヲモ貽サ、ル稀ナル轉機モアル、

顆粒ノ位置

如此顆粒ハ必ス險結膜、穹窿部或ハ罕レニ第三結膜ニ發生スルカ、又ハ各
部共ニ生スルモノデアアル、球結膜、角膜ニモ出來ルト云フ、人モアルガ茲ニ
ハ詳シクハ述ブルニハ及バヌ

顆粒ト「ト」ラ
「ホーム」トノ
關係

然ラバ顆粒ナルモノガ本症ニ固有ノモノデアアルカト云フニソウデナイ、「ト」ラ「ホ
ーム」ニ最モ多ク最モ著明ニ出來ルガ、他ノ結膜疾病ニモ顆粒ハ現ハレル者
デアアル、後ニ詳細ニ述フル如ク濾胞、性結膜、炎、結膜、結核、結膜、黴毒、「アト」ロ「ビ
ン」結膜、炎、等多クノ疾病ニ現ハレルモノデアアル、ギンズベルグ氏云ラク「顆
粒」ナ「キ」ト「ラ」ホ「ーム」ナシ、然シナガラ、顆粒、其者ハ「ト」ラ「ホ」ー「ム」ニ特有ナルモ

集族性浸潤

ハ、ニアラズ、ト一言以テ盡シ得タリト云フベキデアアル、晩近ノ諸説ハ結局顆粒ハ蔓性ノ結膜刺戟ニ因ツテ出來ル所ノ集族性淋巴細胞ハ、浸潤ニ外ナラズト云フ事ニ歸着シタノデアアル、然シ顆粒ノ發生ガ「トラホーム」ニ特有デナイトシテモ之レガ最モ著シイ必發ノ徵候トシテ現ハル、以上又他ニ「トラホーム」特有ノ徵候ヲ見出シ得ヌ以上ハ「トラホーム」ヲ診斷スルニ當ツテ須ク顆粒ニ重キヲ置イテ宜シイノデアアル、

顆粒發生以外ニハ結膜腺様組織内ニ於ケル瀰蔓性淋巴細胞ノ浸潤デアアル殊ニ顆粒ノ周圍ニ於テ著シイノデ之レハ一般ノ炎症現象ニ外ナラヌノデ、膿漏性結膜炎其他殊ニ激シイ慢性炎症ニ於テ著シク現ハル、變狀デアアル、

瀰蔓性浸潤

集族性及瀰蔓性細胞浸潤ノ度ハ元ヨリ病症ノ輕重時期ノ如何ニ依ツテ異ナルノデ、例バ瀰蔓性「トラホーム」ニアツテハ結膜ノ大部分ニ淋巴球ノ集族ヲ見、其ノ一部分ガ變質崩壞ノ潰瘍ヲ呈スルノデアアル、浸潤ハ重症「トラホーム」ニアツテハ結膜ノミニ止ラズ軟骨ニモ著シク現ハル、ガ然シ軟骨ニハ集族性ノモノ即チ顆粒ノ發生ハ決シテ見ヘナイ、唯ダ瀰蔓性ノ浸潤

軟骨内浸潤

プロワツエツク小體

ト因テ來ル所ノ組織ノ肥大及結締織變化ヲ現ハスノミデアアル、

茲ニ病原體トシテ舉グルハ所謂プロワツエツク氏小體デアアル即チプロワツエツク及ハルベルステッテルノ二氏ハ西曆一千九百六年南洋ニ於テ所謂クラ、ミドツ、オ、ナル小體ヲ「トラホーム」患者ノ結膜ヲ擦過シ得タル上皮細胞内ニ見出シタノデアアル、此ノ小體ヲ含ヌル擦過上皮ヲ人ノ眼又ハ高等猿類ノ眼ニ觸種セシムル時ハ「トラホーム」ヲ起ストノ事デアアル、(第二表第三圖参照)又翌年一千九百〇七年伯林ニ於テモグレッフ、フオン、フロッシュ、及クラウゼン、三氏ハプロワツエツク小體ト同一ノモノヲ上皮細胞若クハ分泌物中カラモ、又ハ膿球及深クレーベル氏小體細胞ノ内ニモ發見シテ、是ヲ又人及高等猿類ニ觸接試験ヲ行ツテ陽性ノ成績ヲ得タト云フノデアアル、即チ試験眼ニハ觸接後一週ヲ經テ急性ノ結膜炎ヲ起シ其結膜上皮中ニハ同シ小體ヲ發見スル、而シテ疾病ガ急性デ分泌物カ盛ンニ出ル時ニ於テハ小體ヲ檢出スル事ハ容易デアアルガ炎症ガ減退シテ分泌物ノ止ム頃ニハ見出ス事ガ出來ヌト云フノデアアル、普通人體ノ結膜ニ於テモ極ク新鮮ノ「トラホーム」ニアツテハ屢々見ルガ、陳舊ノモノカ左ナクモ暫ラク銅ヤ銀劑ヲ

小體發育ノ時期

グレッフ、フオン、フロッシュ、クラウゼン

以テ處置シタル結膜カラハ此小體ヲ見出ス事ガ容易デナイ、近時ノ研究ニ依レバ人ノ「トラホーム」ハ高等猿猴々ノミナラズ下等ノ猿ニモ感受スルガ、猿カラ猿ヘト殖ヘ繼ケル事ハ出來ヌノデ、此ノ移殖「トラホーム」ニアツテハ狸々ニハ「ブ」氏小體ヲ檢出スル事ガ出來ルガ、下等ノ猿ニハ立派ニ「トラホーム」顆粒ガ見ヘテ居ルニモ拘ハラズ「ブ」氏小體ノ檢出ハ全ク陰性デアルトノ事デアアル、而シテ此小體ハ切片標本ニ於テ深ク組織内ニ見ルハ困難デアアルガ、上皮細胞ノ内ニハ見ル事モ出來ル、上皮内以外ニハ見ル事ハ出來ヌト思フ

切片

傳染

「トラホーム」ガ傳染性疾患デアルト云フ事ハ今日既ニ疑ヲ容ル、所ハナイノデ、諸說一致シテオオルノデ、諸種ノ實驗ヨリシテ傳染病ト云ハレテ居ル、然シ未ダ確實ナル傳染ノ媒介物ヲ見出シタ譯デハナイ、「プロフツエック」氏小體ノ價值「ブ」氏ノ小體ノ如キ、晚近大イニ名聲ヲ得ツ、アルモ、未ダ之レヲ純粹培養シ得ナイノミナラズ、少數ノ急性又ハ新鮮ナル「トラホーム」ニ發見スルモ、大多

「プロフツエック」氏小體ノ價值

數ヲ占ムル慢性症ニハ之ヲ見出シ得ナイ、而モ「トラホーム」ハ駭々乎トシテ病勢ヲ増進スルノデアアル、加之近時同一小體ヲ他ノ急性結膜炎、殊ニ初生兒膿漏ニ往々見ル事ガ出來ルノデアアル、顆粒ハ「トラホーム」ニ必發ノ者ニアラズトノ說ニ依レバ、不思議デハナイ、又此「ブ」氏小體ヲ有スル結膜炎ノ分泌物ニ依ツテ健康眼ニ顆粒ノ生ズル結膜炎ヲ起ス事ガアルモ、必ずシモ「トラホーム」ナリト診斷スル事ハ出來ヌ、顆粒ハ「トラホーム」以外ノ結膜炎ニモ發生スルノデアアル故ニ、「ブ」氏小體ノ價值ハ目今學者ノ間ニハ大ニ疑ハレテ居ルノデ、其他嘗テ病原體ト唱ヘラレタル「ザットレル」及「ミッヘル」氏重球菌「ミユルレル」氏ノ球菌、其他ノモノハ無論信ゼラレヌ、最近奥山伸達藤芳藏兩氏ハ「トラホーム」病原體トシテ發見セル一種ノ變形桿菌ヲ主張シテ居ル、コレハ今私ノ教室デモ試驗中ダカラ、今ハ批評ハ出來ナイ、如此未ダ傳染體ガ不確實デアアルカ故ニ、極メテ少數デアアルガ、今猶ホ「トラホーム」非傳染說ヲ唱ヘルモノガアル、其故ハ稀レニ多數ノ「トラホーム」患者ニ長日月同居シテ居ツテモ傳染セヌ人ガアル、又片眼ニ數年月來「トラホーム」ガアツテ他眼ハ健康デアアル人モアルカラ、然シ之レ等ノ少數ノ例ヲ

非傳染說

傳染ノ媒介者
分泌物

空氣、塵埃、土
地水蠅

以テ傳染ヲ非認スルコトハ不條理デアアルトラホーム傳染ニモ他ノ傳染病ト同様感受素質ナルモノガ具備シテオラ子バナラス、此素質ヲ持タヌ眼或ハ體質ハ如何ニ接觸スルモ感染セヌノデアロウ

傳染ノ媒介者ハ勿論同病ノ分泌物ニアルノデ直接又ハ間接ニ結膜囊内ニ這入ツテ發病スル事ハ疑ヲ容レヌ所デアアルモ、近キ頃而モ大家ノ内ニモ空氣傳染又ハ塵埃傳染說ガ唱ヘラレタノデアアル、又耕作者ニ於ケル實驗カラ土地ガ媒介ヲナシタト云フ人モアツタ、日本ノ古ヒ俗說ナレドモ甚シキハ只病眼ヲ見タ斗リデ傳染スルト云フタ位デアアル

分泌物觸接ノ媒介ヲナスハ主ニ洗面器、洗面水、巾等デアロウカラ傳染ハ主トシテ家庭ニ於テスルモノデアアル、所謂學校傳染說ハ今日否認セラレ家庭傳染說ガ勢力ヲ得テ來タノデアアル、主ニ教育ニ乏シイ下等社會ニ於テアルノデアアル、清潔ヲ重ンゼズ病ノ恐ルベキモ知ラズ、狹隘ナル家屋ニ群居シテ洗面器ハ勿論手拭、寢具等總ベテ之ヲ共用スルナド、衛生上ノ缺點カ原因トナルノデアアル、元ヨリ上中等社會ノ人ト雖モ頑迷無智ニシ

人種

氣候

土地高低

テ不衛生的ノ所業ヲ敢テスル時ハ容易ニ此病ノ犯ス所トナルハ云フ迄モナイ事デアアル、或ハ云フ下等社會ノ人ハ適宜ノ運動及滋養ノ欠亡ヨリ榮養不良ノ状態ニ在ルヲ以テ本病ニ犯サレ易イノデアアルト、是或ハ歐洲ニ於テハ然ル事モアラムガ我邦ニ於テハ尠ナクモ從來ハ正反對ノ觀ヲ呈スル事ガアルカラ、一概ニハ云ハレヌ

本病ノ感受素因ニ就イテ屢々傳ヘラル、ハ人種、黒奴ハ本病ニ對シ不感性デアルトノ說ハ信ジ難イ、國土開明ノ度ニ從ヒ相互交通ノ盛ナルト否トニ因ルモノニシテ人種ニハ關係ナキモノデアアル

氣候、暖國ニ多クシテ寒國ニ尠ナシト云フ說モ是又否デアアル、現ニ日本國內ニ於テモ最近兩三年ニ於ケル壯丁検査ノ成績ニ依ルニ北海道及青森岩手等ニ於テハ宮崎、鹿兒嶋ヨリ遙カニ多數ノ患者ヲ見ルノデアアル、高低、高燥ノ地ニ少ナク、低地ニ多シト云テオルガ概シテ高燥ノ地ハ清潔健康地ナルモ、低地ハ不潔陰濕ナル事多シ、故ニ他ノ傳染病ト共ニ本病モ多イ筈、又低地ノ多クハ交通盛ナルノ地デ下層社會ノ貧民モ多數ニ

居住スルモノタカラ、多クノ患者ヲモ見ル理デアアル、隨分高層ノ山間僻村ニ於テ全村民「トラホーム」ニ罹ツテオル所モアル、畢竟土地ノ高低ヨリモ交通ノ如何住民ノ貧富ノ度ガ關係スルモノデアアル、

年齡

實際統計上「トラホーム」ハ二〇—三〇歳ノ人ニ最モ多ク、一〇—二〇歳之レニ次ギ三〇—四〇歳猶尠ナク、以上著シク減少スルモノダ、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

榮養全身局所

此ノ外専ラ唱ヘラレルモノハ全身及局所ノ榮養狀態デアアル、全身榮養不良ノ者即チ腺病、結核性、體質ノ者貧血、セル者ハ一般組織ト共ニ結膜腺樣組織ガ弛緩シテ抵抗力ガ減少シテ居ルカラ、淋巴細胞ノ浸潤カ容易ニナルカラデアアル、然シテ全身ノ榮養ハ佳良ナルモ局所即チ結膜ノ弛緩ヲ來シ、感受質ヲ増スニ至ルノデアアル例ハ塵埃、風煙、光熱、不良ノ空

氣、睡眠不足等ニ依リ、結膜ガ長期間刺戟ヲ受ケタ時デアアル、又職業上ニ如、此刺戟ヲ受クル所ノモノハ同ジク本病ニ罹リ易イ、殊ニ嘗テ一度本病ニ罹リタル者ハ病竈ノ進行早シトハ一理アルノ説ナレド、全身又ハ局所ノ榮養ニ障害ナキ時ハ本病ヲ患ヘナイト云ヒ、或ハ「トラホーム」患者ハ必ス腺病者デアルト云ヘル極端ノ説ニハ元ヨリ左袒スル事ハ出來ヌ、又タ事實ハ往々相違ノ全ク健康ナルモノ、多數ガ本病ニカ、リ反之極メテ榮養不良ナル者ガ却テ健全ナル結膜ヲ持ツテルコトモ決シテ尠ナクハナイ

性質

「トラホーム」ノ性質ハ其ノ流行スル國、又ハ土地ニ依ツテ多少ノ差異アル事ハ何レノ方面ヨリモ是認セラレテ居ル、例之歐羅巴ニ於テモ露西亞ノト、普魯西亞ニ流行セルモノトハ、甲ノ方ガ遙カニ難症デアルト云フ事ハ確カデアアル、日本ノ「トラホーム」ハ諸君ノ知レル通り比較的惡性質ヲ持ツテ居ラス、

茲ニ詳細ナル統計表ヤ人名ヲ列記スルハ必要ノコトデモ無イカ單ニ一

例ヲ擧ゲテ置コウ、
 甲表ハゲルマン氏カ魯國ドルバート市ニ於テ作りタルモノ乙表ハ之ニ
 匹敵スベキ表ヲ本邦ニ於テ得ラレヌヲ以テ二三ノ統計表ヲ集メテ平均
 數ヲ取り作成シタモノデアアル

(甲 表)

	一期	二期	三期	平均
眼瞼疾患	29%	61%	60%	53%
涙道疾患	17%	61%	64%	47%
角膜疾患	63%	98%	98%	86%
驗球癒着	0	13%	20%	11%
乾燥眼	0	0	8%	3.7%
視力減少	55%	90%	94%	80%

(乙 表)

角膜バンヌス	27.6	} 39.19% (角膜疾患)
角膜潰瘍	3.94	
フリクテン	7.65	} 9.65%
亂生症	6.12	
内障症	3.53	
涙道狭窄	1.82%	

視力障害
失明

西洋諸家ハ本病ノ爲メニ視力障害ヲ殘ス者ガ九〇%ト云ヒ、日本ニ於テ
 中泉氏ニヨレバ三三%ト云フ又タ本病ノ殆ンド八%ニ於テハ全ク失明

日本ノ「トラ
ホーム」

スト云フ、桑原氏ハ兩眼盲トナリシ者ハ一%片眼ヲ失ヘル者〇三%ナリ
 ト云フタ、其ノ他ノ統計家モ略コレニ類スルモノヲ發表シテオル私モ二
 十五年間ノ實驗デ年平均二千ノ患者ト見積ルニ「トラホーム」患者ハ其ノ
 三分ノ一ヲ下ラナイ、サレバ總數ハ一萬五千餘ニナル而シテ其ノ内失明
 デ確カニ「トラホーム」ニ因リテ失明シタト思フ者ハ僅カニ五十七人シカ
 見ナイ、其ノ外後チニ角膜潰瘍其他ノ疾病ヲ起シ失明スル者モアロウガ
 兎ニ角八%ナゾト云フ多數ハ思ヒモヨラヌ事デアアル、乾燥症ノ如キモ甚
 ダ少ナイ、確カナ調査ハ種々ノ障害ノ爲メニ出來ヌガ前患者數中五〇ト
 ハナイ、私ハ日本ノ「トラホーム」ハ餘程良性デアルト信メ居ル然シ昨年夏
 季ニ四五日ノ閑ヲ得テ房洲沿岸ニ徒歩旅行ヲシタガ、茲ニハ確カニ「トラ
 ホーム」ト思ハル、眼ノ片眼失明或ハ角膜濃翳ノアル者ガ多數ニ路傍ニ
 勞働シテ居ルノニ驚イタ、一寸外部ヨリ見タノデアアルカラ其ノ内詳シク
 取り調ヘヨウト思フテ居ルガ未ダ其ノ實行ヲ果サヌ劇シク流行スル土
 地ヲモ見タ上デナクバ確カナル話シハ出來ヌガ、日本ノ「トラホーム」ハ露
 西亞杯ニ流行スル者ヨリモ遙カニ性質ガ善良デアルト思フ、凡テ傳染病

的ノ疾患ハ流行ノ年月ガ古クナルニ從ツテ其性質ガ輕クナル者デ加之
療法モ次第ニ巧ニモナリ、注意モ届イテ來ヨウ、其他ニモ原因ガアルニ相
違ナイ、住民ノ感受性ガ減スル如キ其一デアラウ、此說ヨリモ長ク流行ス
ルト劇シキ感受性ヲ持ツモノハ悉ク本病ニ罹リ、他ハ素質ナキ或ハ輕キ
モノノミトナルト云フ說ガ眞ニ近イト思フ、果シテ此說ヲ眞ナリトセバ
日本ノ如キ本病ノ良性デアル國ハ流行ノ古キヲ示スモノデアルト云ハ
ネバナラス、

診 断

本病ノ診斷ニハ頗ル議論ガ多イ、本病ニ對シテ確診ナルモノハ屢々不可
能ノコトデアアル、又々顯微鏡的ニモ化學的試驗ニモコレガ特徴ヲ見出
シ得ヌノデアアル、氏小體ガマダ大分聲價ヲ得テ居ルガ、之レハ急性
又ハ未ダ曾テ治愈ヲ施シタ事ナキ新鮮ノモノニ於テ容易ニ證明シウル
ノデ、トラホームノ本性タル、慢性症又ハ種々處置シタル後ニハ却ツテ見
出シ得ヌカラ診斷上ノ價值ハ至ツテ渺ナイノデアアル、私ノ診察所デ昨年

ヨリ本年春ニ互ツテ患者二百餘名ニ就テノ検査成績デハ僅カニ五、六
%ニ於テ確實ニ小體ヲ見ル事ガ出來タト云フ位デアアル、近時初生兒膿漏
ノ如キ全クトラホームト關係ナキ疾病ニ同小體ト同一ノモノヲ見タト
云フ人モアル、又ハ膿漏眼ノ分泌物ヲ以テ猿ノ一種ニ結膜炎ヲ起サシメ、
其ノ分泌中ニ、氏小體ト同様ノモノヲ檢出シタト云フニ至ツテハ益々
其聲價ヲ弱ムル次第デアアル故ニ、疑惑ナク本病ヲ診斷シ得ルハ只

- 一 結膜ニ顆粒ガ出來テ、癢痕ヲ形成シツ、アルカ、或ハ既ニ形成シテ、
居ル場合、
- 二 顆粒ガアツテ、固有ハ、ハンス、呈セル場合、或ハ三者ハ具備セル
場合、

デアアル而モ此僅々二者ニ於テモ尙多クノ注意ヲ要スルノデアアル即チ先
ツ
癢痕ニ就テハ

外傷、外傷性ト區別スルニハ嘗テ、外傷殊ニ湯傷、化學的損傷、腐蝕藥
竄入如何ヲ訊サネハナラス、外傷性癢痕ノ内ニハ隨分トラホーム性癢

痕ト識別出来ヌノガアル、然シ外傷性癩痕ハ既往症ニ於テ判明シ、常ニ角膜球結膜ガ共ニ侵サル、ニ依ツテ鑑別ニハ難カラヌノデアアル、實布的里亞性結膜炎、此癩痕ハ常ニ廣大デアツテ、且強ク深ク組織ヲ侵シテ、屢大ナル險球癒着兎眼症等ヲ併發シテ、角膜ハ萎縮シテ居ル、左ナクモ高度ノ白斑ヲ呈シテ居ル、膿漏性結膜炎、本病カラ癩痕ヲ殘ス事ハ罕デアアル、癩痕ハ極メテ表在性デ薄ク險結膜及穹窿部一般ニ現ハレルカ、或ハ多クハ穹窿部ニ限ラレテ居ル、

天疱瘡之ハ極メテ稀有ナル疾病デ結膜ニ現ハル、時ハ他ノ部ノ粘膜及顔面ノ皮膚ニモ生シテ、極テ高度ノ深イ癩痕ヲ呈スル、又眼險眼球共ニ非常ナル高度ノ變形ヲ呈スルモノデアアル、慢性結膜炎及慢性眼險綠炎、此等ハ外翻症ヲ併發セル時ニ於テ特ニ下眼險ニ於テ險緣ニ近接セル結膜ニ輕度ノ癩痕ヲ見ル事ガアル、ガトトラホームニ因ルモノトハ全然異ナルモノデアアル、其他稀ニ結核性及微毒性ノ潰瘍ノ後ニ結膜ニ癩痕ヲ結ブ事ガアル

顆粒下乳
嘴肥大

乳嘴

モ癩痕ハ限局シテ深ク且他部ニ或ハ全身ニ原病ノ症狀ヲ存スルヲ以テ敢テ診断ニ困難ハナイ、

顆粒ノ「トラホーム」ニ於ケルモノト他ノ結膜疾患ニ現ハル、モノトノ區別ニ就イテハ重複スルカラ後章へ譲リ茲ニハ先ヅ顆粒ト乳嘴ノ肥大トヲ區別セテバナラヌ、

乳嘴ハ腺様組織ノ表皮面ニ向フ突起デアツテ、血管ニ富ンデ居ルカラ暗紅色肉様不透明デ極メテ小サク、其形ハ尖銳巨頭棍棒狀或ハ扁平デ、相互及眼球ニ依リテ相互壓排セラレテ稜角形トナリ、恰モ敷石ノ如クニ互ニ深キ溝ヲ以テ分界サレル事モアル、尖銳ナル小乳嘴肥大ガ瀾蔓シテ現ハル、時ハ其ノ内部ガ天鵞絨狀ヲ呈シ、甚シク増生シテ來ル時ハ數個ノ乳嘴ハ相合シテ稍大ナル肉塊様物ヲ呈シ、相集ツテ覆盆子様又ハ鷄冠狀ヲナスノデアアル、顆粒ハ小ナルハ帽針頭大、大ナルハ米粒大ニテ、色ハ灰白色又ハ黄色デ不透明デアアル、然ラザルモ周圍ノ組織ニ指壓ヲ加フレバ半透明トシテ現ハル、形狀ハ圓形若クハ隨圓形デ、小ナルモノハ隆起シナイガ大ナルモノハ丘狀ニ隆起シ、時ニ壓ニ依リ灰白色ノ栓子ヲ排出シ、面疱

パンス

ノ様ナ觀ヲ爲ス、顆粒ハ不規則ニ散在シ又ハ連球狀ニ排列シテ居ル、次ニ「パンス」ニ就イテ注意スベキハ「トラホーム性」パンス「デ」之ハ前ニ述タル如ク一種ノ表在性角膜炎、之レニ伴フ血管ハ同シク組織ノ表層ニ位シテ穹窿部若シクハ球結膜カラ連續シテ必ズ角膜上縁カラ進入シ分岐シテ居ルノデアアル、是ト區別ヲ要スルモノハ

角膜實質炎

角膜、實質、炎ニ發生スル血管、此症ニアツテハ角膜

ハ實質ニ於テ溷濁シ血管

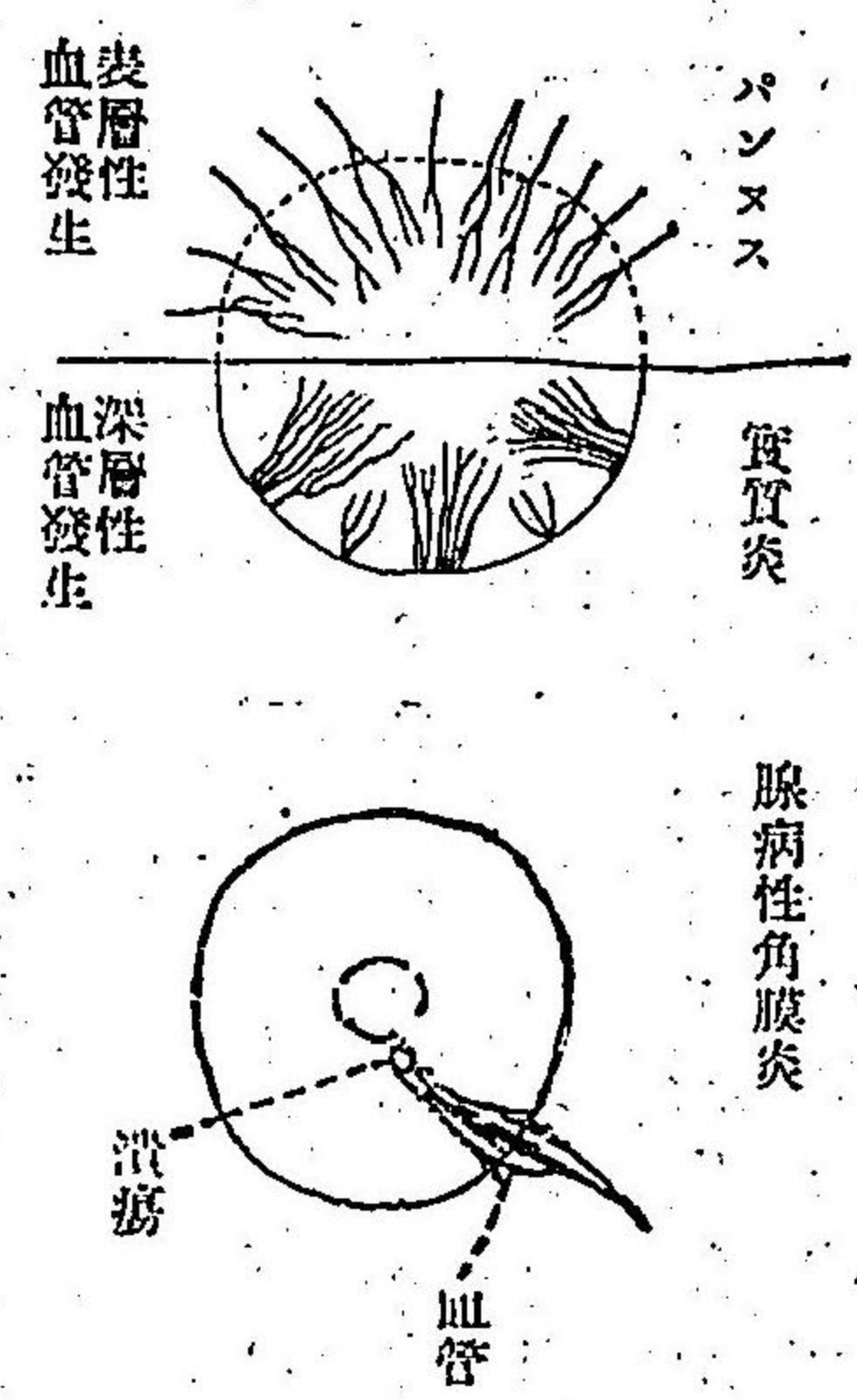
ハ何レノ方面カラモ這入

ツテ來ル、血管ハ突如トシ

テ角膜縁ニ起リ深部ニ進

入シ其狀恰モ毛筆ヲ廣ゲ

第四圖



腺病性角膜炎

タ様デアアル、其ノ部ノ角膜ハ時ニ煉瓦紅色ニ見ユルモノモアル、腺病性角膜炎、血管ガ角膜周圍カラ何レノ部ヨリモ進入シテ多クハ相集ツテ束狀ヲナシテ進行ス、其尖端ニハ浸潤水泡又ハ潰瘍ヲ見ル之ガ進

睫毛乳生症
内翻症

吸收パンス

行スルト共ト血管束ガ隨伴シ中央ニ進行スルノデアアル、各方面カラ二三個同時ニ發生スル事モアル、血管束ハ廣ク或ハ束ヲナサズ不規則ニ多數ノ血管ガ發生スル事ガアル、而モ角膜上部ニ在ル時ハ「パンス」ト誤診スル事ガアル、加之本症ハ刺戟症狀甚クシキモノニテ、殊ニ不柔順ナル小兒ニアツテハ往々確診ノ出來ヌ事ガアル、如此時ハ暫ク「アトロピン」點眼、甘汞散布、黃降汞軟膏ノ點入ヲ試ムレバ羞明去リ果シテ腺病性ノモノナレバ血管ノ消失ヲ見ルニ至ル、屢々顔面頭部ニ濕疹ヲ見ル、腺病ノモノニアツテハ逆毛又ハ内翻症ノ刺戟ニ依ツテ起ル血管ハ診斷ニ困難デアアルトラホーム性「パンス」モ同シク刺戟ニ依ル角膜ノ變狀、原因ガ異リ位置モ屢々上方ニアル、止ムヲ得サル場合ニハ内翻又ハ亂生症ニ對スル手術ヲ行フテ後チ經過ヲ見ルノデアアル、
吸收血管、角膜潰瘍又ハ浸潤ガ吸收セラル、ノ時ニ當リ、球結膜ヨリ血管ノ進入ヲ見ル事ガアル、所謂吸收血管、デ大切ニ保護スベキデアアル、血管ハ僅ニ一二條、デ太ク角膜内ニ於テ分岐シテ居ル、又發生方面モ種々デア

レブラ性紅斑

ヒルシユベル
グ氏

急性トラホー
ムノ診斷

稀レニ見ル所ノ「レブラ」ニ發スル角膜紅斑ガ上方ニ現ハル、時ハ殆ンド鑑別ニ苦シムノデアアルガ然シ位置ニ定規ガナク、多クハ虹彩炎症甚ダシキ後癒着及全身症候ニ基テ鑑別スル事ガ出來ル、慢性「トラホーム」ハ既ニ癍痕又ハ「パンヌス」ノ發生シタ場合ニハ以上述べタ僅カノ注意デ確診ガ出來ル、然シ「パンヌス」及癍痕ハ勿論長ク經過ヲシタ後デナクテハ現ハレヌヒルシユベルグ氏ハ「トラホーム」ヲ癍痕ニ依ツテ診斷スルハ灰ヲ見テ火事ヲ知ル如キモノタト云ヘルハ如何ニモ警句デアアル、急性「トラホーム」或ハ慢性症ノ初期ニ於テハ單ニ顆粒及乳嘴ノ肥大ニ基イテ診斷スルノ外ハナイ、急性「トラホーム」ニアツテハ屢々乳嘴ノ肥大ガ著シキ爲メニ、小ニシテ僅數ノ顆粒ハ之レニ被ハレテ見ル事ガ出來ヌ、指壓ヲ加ヘテ結膜ノ貧血ヲ起シテ見出ス事モアルガ消炎療法ヲ施シテ幾分炎症ノ去ルヲ待ツテ診斷セテバナラヌ場合ガ多イ、初期ニ於テハ細心注意シテ次ノ疾病ト鑑別スルガ宜シイ、急性結膜炎、眼瞼皮膚ハ腫脹潮紅ノ球結膜ハ輕度ノ堤狀腫起ヲ呈シ險

コッホウキ
ク氏菌

球結膜共ニ高度ニ充血シ險結膜ハ一般ニ暗赤色トナリ、乳頭ノ肥大著シク翻轉ノ際ニ穹窿部ハ膨隆突出スルニ至ル、分泌物ハ多量デ粘液膿性デアアル、險縁ハ朝起膠着スルニ至ル、溫暖ノ時期ニアツテ時ニ小流行ヲ爲スコトガアル、屢々結膜ノ膨脹眼瞼ノ腫脹高度ナルタメ膨脹加多兒ノ名ガアル、本症ニ於テ分泌物中ニ屢々コッホウキ氏菌第二表第四圖參照ヲ發見スル事ガアル、之ハ小桿菌デインフルエンザ菌ニ酷似シテ居ルグラム氏法ニ依ツテ脱色ス又肺炎菌第二表第六圖參照ニ源因スル事カアル是又時ニ流行ヲ爲スモノデ、急性ニ現ハレ多クハ一定ノ時期ヲ經過スレバ俄カニ輕快シ、屢々結膜面ニ薄キ義膜ヲ作ル此二菌ニヨル結膜炎ノ流行ヲ見テ屢々急性「トラホーム」ノ流行ト誤ル事ガアルガ前者ニアツテハ菌ノ發見顆粒ノ欠如ニ依ツテ診斷スルトハ云ヘ、往々消炎療法ヲ施シ暫ラク經過ヲ見タ上ナラデハ確診シガタキ場合ガ屢々アル、

モラー、アクセンフェルド氏菌性結膜炎(第二表第五圖參照)ハ亞急性ノ經過ヲ取り時々急性ノ發作ヲ起ス結膜炎デアアル、刺戟渺ナク分泌物少量ニ

シテ屢々外眥部ニ局限セル結膜炎ヲ起スモノデアアル、病原菌ハ太ク短カキ重桿菌デグラーム氏法ニ依ツテ脱色ス外傷性刺戟殊ニ穀物ノ殻小木片昆虫ハ屢々烈シキ穹窿部ノ充血腫脹ヲ來シ急性トラホームノ如キ觀ヲ呈ス、而シテ異物ハ多クハ臉結膜軟骨部ニ附着シ稀レニ穹窿部内ニ停ルノデ、コレヲ除去シテ結膜炎ノ療法ヲ施セバ速カニ治スルノデアアル、
「ヒステリ」家又ハ徵兵避忌其他或ル目的ノ爲メニ故意ニ異物ヲ眼内ニ入レ、之ヲ摩擦シタル結果時ニ急性トラホームニ酷似シテ居ルモノヲ見ル事ガアル、

膿漏性結膜炎
初期

其他膿漏性結膜炎ハ初期ニ於テハ鑑別シ難キモノナレモ、暫時經過スレバ總ベテノ刺戟症狀ノ甚ダシキコト、分泌物ガ純膿性デ多量ナルトコニヨツテ容易ニ鑑別ガ出來ル、又ナイセル氏ノ重球菌第二表第七圖參照ハ容易ニ顯微鏡下ニ證明スル事ガ出來ル、

顆粒存在

慢性症診斷

結膜ニ炎症ナク或ハ之アルモ、輕度デ臉結膜又ハ穹窿部ニ顆粒ヲ見ル時ニハ普通直チニ慢性トラホームト診斷スルコトガアルガ甚ダ早計デア
ル、殊ニ顆粒ハ少ク發育不完全ナル時ハ大ニ疑ヲ容レネバナラヌ、以下顆

非トラホーム
性ノ結膜顆粒

粒若クハ類似物ガアツテ而モ非トラホームナルモノヲ舉レバ

- (a) 稀ナレドモ全ク健康或ハ極メテ僅カノ充血ガアル結膜ノ多クハ下
眼窩穹窿部ニ二三ノ小顆粒ヲ見ル事ガアル、時トシテ顆粒ノ數ガ多
イ時ハ往々慢性トラホームノ初期ト誤診スル事ガアル、コレハ無害
ノモノデ捨テ置ケハ跡ナク消失スル、此顆粒様物ハ近距離ニ於テ烈
シク眼ヲ使用スル學生杯ニ見ル所ノモノデアアル、
又普通ノ結膜炎或ハ水泡性結膜炎ニアツテ、下眼窩穹窿部及外眥部
ニ於テ小顆粒或ハ水泡ヲ見ル事ガアルガ、之ハ原病ト共ニ消散ス
ルモノデアアル、

濾胞性結膜炎

(b) 濾胞性結膜炎(第二表第一圖參照)顆粒ト濾胞或ハ「トラホーム」ニ於
ケル濾胞ト濾胞性結膜炎ニ於ケル濾胞トノ病理解剖的鑑別ハ不可
能デアアル、兩者ハ全ク同一ノ造構ヲ有シテ膜ノ有無ニ依テ區別スル
ト云ヘル人モアルガ不可能デアアル、未タ人間ノ健康結膜ニ濾胞ナル
モノガ存在セルヤ否ヤノ問題サヘ今猶ホ諸說紛々デ判明セヌノデ
アル「トラホーム」ト濾胞性結膜炎トノ鑑別ハ只種々ナル臨床的症候

二元説
一元説

ヲ綜合シテ判定スルノデアアルカラ、實ニ至難ノ業ト云ハチバナラヌ、然シ臨床的ニ經過豫後ノ上カラハ如何ニモ區別ノ必要ガアル、二病ヲ全ク別種ノモノトシテ論スルヲ二元説ト云ヒ、其ノ反對論者即チ一元説ヲ唱ヘルモノハ兩者ハ同一ノ疾病デアツテ、濾胞性結膜炎ハ「トラホーム」ノ善性ノ者ナリトイフ此ノ説モ可ナリ優勢デアアルガ、我々實地家ニハ二元論ガ適シテ居ルカラ須ク二元論ニヨツテ述ブルコトニスル、

今「トラホーム」ト濾胞性結膜炎トニツキテ委シク其症候ヲ區別スルハナカナカ面倒デ之ヲ表示セバ、

「トラホーム」

- 結膜肥大ス(腺狀層内浸潤ニヨル)
- 結膜ハ潤濁シ結膜下組織ノ透見ヲ妨クルニ至ル經過中時々充血而不平穹窿部ハ肥大ヲ呈ス
- 顆粒ハ圓ク大ニシテ灰白黄色半透明

濾胞性結膜炎

- 結膜肥大セズ
- 長キ經過ヲ取ル時ト雖モ結膜ハ潤濁セズ透明ナリ微カニ充血スル事アリ、面ハ滑澤ニシテ穹窿面異狀ナシ、
- 濾胞ハ圓形、橢圓形、小ニシテ透明、琥珀

ニシテ周圍ノ境界明ラカナラズ、突隆僅微ナリ深ク腺狀層ニアリ主トシテ散在ス

- 顆粒ハ常ニ上眼瞼軟骨部及穹窿部ニ在リ、下眼瞼ニ少ナク末期ニ現ハル、モ上眼瞼ニ比シテ少數ナリ
- 顆粒ハ自然ニ吸收セラレル事ハ極メテ罕ナリ

- 細胞浸潤ハ軟骨ニ及ホス事アリ、
- 癥痕ヲ形成スルヲ常トス
- 角膜ヲ犯ス事屢ナリ、
- 悪性ノ續發症アリ、
- 乳嚙ハ肥大ハ急性症ニハ初期ニ慢性症ニハ後期ニ見ル、
- 此ノ疾病ハ何レノ年齢ニモ現ハル、

- 經過極メテ慢性豫後不良、
- 傳染性ナリ、

診斷

狀ノ觀ヲ呈シ周圍トノ境界判然タリ、結膜上ニ坐スルヲ以テ高ク隆起ス屢捻珠狀ニ排列ス

- 自然ニ吸收サル、ガ常ナリ
- 決シテナシ、
- 放置スルモ癥痕ヲ形成セズ、
- 決シテナシ、
- 決シテナシ、
- 普通ハ之ヲ見ス慢性ノ者ニ微カニ之ヲ見ル事アリ、
- 五六歳ヨリ十四、五歳即チ小學兒童ニ最モ多シ
- 經過慢性豫後佳良
- 傳染性ヲ有セズ

以上述べタル鑑別徴候ニ依テ殊ニ顆粒ノ形狀位置後ニハ合併症續發症ノ有無及癍痕形成ニ依テ容易ニ診斷セラル、様デアルガ往々ニシテ如何ナル熟練家モ判然區別シ能ハザル事ガアル、即チ暫ラク經過ヲ見テ決スルヨリ外ハナイ場合ガアル、兩者ニ於テ分ル、所ハ主トシテ症候デナク豫後ニアルノデ濾胞性炎ハ腺病性貧血性ノ小兒ニ多ク換氣不良ノ學校育兒院等ニ於テ多數ニ見ルモノデアル、

春期加答兒

(c)春期加答兒第二表第二圖參照稀ナル病デ二十歳前後ノ多クハ榮養不良ノ者ニ來ル險結膜及ビ穹窿部ニ於テ一般ニ大小不同ノ富稜形ノ隆起ガ密生スルノデ之ハ乳嘴ノ肥大相集テ大隆起ヲナシ、眼球ノタメニ壓迫セラレテ扁平石垣狀ヲ呈スルノデ色ハ帶白紅色デ其狀恰モ牛乳ヲ流シタル如クデアル、之ハ上皮細胞ノ増殖肥厚ニ基ク者デ又屢々同時ニ球結膜角膜周縁ニ於テ同ジク上皮細胞ノ増殖ニ依ツテ汚穢灰褐色デ不規則ノ隆起體ヲ見ル特ニ險裂部ニ多イノデア、此疾病ハ慢性ノ經過ヲ取テ春夏ノ期即チ溫暖ノ候ニ此症候ガ現ハレ僅カニ輕度ノ瘙痒羞明異物ノ感ヲ呈シ冬期ニ至レバ自他覺症

球結膜

慢性膿漏性結膜炎

慢性眼瞼緣炎

睫毛亂生症

アトロピン性結膜炎

エセリン、亞鉛劑

狀共ニ輕減或ハ消失スルノデア、依ツテ此名稱ガアル所以デア、此ノ症ニシテ眼球結膜ノ變狀ヲ缺キ、險結膜ノ夫レモ著シカラサル時ハ「ト」ラホーム「ト」誤診スル事ガ往々アルモノデア、又陳舊ノモノニアツテハ溫暖ノ時期ニ至ルモ結膜ノ變狀ハ消失セヌ故ニ診斷ガ困難デア、

(d)膿漏性結膜炎ノ急性症、經過後或ハ慢性膿漏性結膜炎、コレハ二三十年前迄ハ歐州大家デモ「ト」ラホーム「ト」混同シテ論シタ位デア、顆粒除去ト顯微鏡的検査上ナイセル氏重球菌ノ存在(第二表第七圖參照)トニ依ツテ判別スルノデア、

其外少數ニシテ大ナラザル顆粒ハ前述ノ如ク多クノ結膜刺戟殊ニ慢性刺戟ニ依リ發生スルノデア、カ、ラ、(c)慢性眼瞼緣炎、逆毛發生等ニ依リ結膜ノ充血、乳嘴肥大ト共ニ僅カノ顆粒ヲ見ル事ガアル、

(f)腐敗セル或ハ不良ノ「ア」トロピン劑、エセリン劑、亞鉛劑等ノ使用、就中持長シテ點眼シタ時ニ結膜ノ炎症ト共ニ濾胞ノ腫脹ヲ生スル事ガ

ハリノ一氏結膜炎

アル、アト、ロ、ビ、ン、最、モ、甚、ダ、シ、ク、所、謂、ア、ト、ロ、ビ、ン、性、結、膜、炎、ハ、之、デ、アル、之、ニ、ハ、良、劑、ヲ、用、ヒ、防、腐、藥、ヲ、加、ヘ、或、ハ、一、時、使、用、ヲ、中、止、ス、レ、バ、容、易、ニ、治、シ、顆、粒、ハ、全、ク、消、失、ス、ル、

結核

(g)ハリノ一氏、結、膜、炎、ハ、近、代、發、見、セ、ル、疾、病、デ、必、ス、發、熱、同、側、水、脈、腺、耳、前、耳、後、頭、部、頸、部、等、ノ、腫、脹、疼、痛、ヲ、發、シ、險、結、膜、ニ、散、在、性、又、ハ、集、合、性、ニ、大、小、不、同、デ、且、ツ、概、シ、テ、小、ナ、ル、黃、色、顆、粒、ヲ、見、ル、私、ノ、嘗、テ、實、驗、シ、タル、モ、ノ、ハ、顆、粒、ガ、僅、カ、ニ、隆、起、ス、ル、モ、ト、ラ、ホ、ー、ム、ニ、見、ル、ガ、如、キ、著、シ、キ、モ、ノ、デ、ハ、ナ、カ、ツ、タ、諸、症、狀、ト、共、ニ、顆、粒、ハ、癩、痕、ヲ、結、バ、ズ、ニ、消、失、ス、ル、ノ、デ、アル、(h)結、膜、ノ、結、核、ハ、罕、ニ、見、ル、所、ノ、病、デ、常、ニ、一、面、ニ、ハ、著、シ、キ、潰、瘍、ヲ、生、ジ、進、行、シ、其、ノ、周、圍、ニ、類、似、ノ、顆、粒、ヲ、生、ス、ル、ノ、デ、多、ク、ハ、一、眼、ニ、止、マ、ル、且、他、ニ、結、核、症、狀、ガ、アル、疑、ハ、シ、キ、場、合、ニ、ハ、顯、微、鏡、的、檢、査、及、カ、ル、メ、ット、液、點、眼、或、ハ、ツ、ベ、ル、ク、リ、ン、注、射、ヲ、試、ム、ル、カ、ガ、良、イ、

微毒

(i)微、毒、ハ、第、二、期、ニ、來、リ、多、ク、下、眼、瞼、穹、窿、部、ニ、罕、ニ、上、眼、瞼、ニ、黃、色、顆、粒、ヲ、生、シ、克、ク、膠、樣、ト、ラ、ホ、ー、ム、ニ、似、タ、リ、ト、云、フ、モ、普、通、ト、ラ、ホ、ー、ム、ノ、顆、粒、ニ、酷、似、セ、ル、事、ガ、アル、多、ク、ハ、片、眼、ニ、現、ハ、レ、鏡、檢、上、コ、ン、ヂ、ロ、ー、ム、ニ、類、

二例

白血病

診斷

似、ス、ル、私、ハ、近、頃、二、患、者、ヲ、見、タ、一、ツ、ハ、急、性、症、ニ、シ、テ、結、膜、殊、ニ、穹、窿、部、ノ、烈、シ、キ、充、血、腫、脹、乳、嘴、ノ、肥、大、ト、共、ニ、僅、カ、ノ、顆、粒、發、生、ヲ、呈、シ、浸、潤、ガ、角、膜、上、緣、寧、口、實、質、ニ、迄、デ、及、ホ、ジ、バ、ン、ヌ、ス、ヲ、起、シ、タ、ト、ラ、ホ、ー、ム、及、バ、ン、ヌ、ス、ニ、對、ス、ル、療、法、ヲ、施、シ、タ、レ、モ、病、勢、益、増、進、シ、治、癒、ノ、模、樣、ハ、ナ、キ、ニ、依、ツ、テ、疑、ヲ、起、シ、試、ミ、ニ、ワ、ッ、セ、ル、マ、ン、氏、反、應、試、驗、ヲ、施、シ、テ、明、ラ、カ、ニ、微、毒、ヲ、證、明、シ、タ、他、ノ、患、者、ハ、炎、症、輕、度、ノ、上、眼、瞼、結、膜、ニ、僅、カ、ノ、充、血、ガ、ア、リ、テ、滑、澤、ナ、ル、モ、ノ、ニ、大、小、不、同、ノ、黃、色、顆、粒、ガ、上、下、眼、瞼、穹、窿、部、ノ、中、央、ヨ、リ、軟、骨、部、ニ、涉、ツ、テ、出、來、タ、表、面、ニ、ハ、隆、起、セ、ス、何、ント、ナ、ク、其、ノ、狀、ガ、普、通、ノ、ト、ラ、ホ、ー、ム、顆、粒、ト、異、ツ、テ、居、ツ、タ、ノ、デ、ワ、ッ、セ、ル、マ、ン、氏、反、應、試、驗、ヲ、施、シ、テ、之、モ、微、毒、ヲ、證、明、シ、タ、兩、者、共、驅、微、毒、法、ニ、依、ツ、テ、顆、粒、炎、症、共、ニ、數、日、ニ、シ、テ、全、ク、消、失、シ、タ、甲、ハ、二、十、四、五、歲、ノ、男、乙、ハ、十、七、歲、ノ、女、子、デ、乙、ハ、微、毒、ヲ、絶、對、的、否、認、シ、テ、居、ツ、タ、ト、ラ、ホ、ー、ム、ノ、疑、ハ、シ、キ、場、合、ニ、ワ、ッ、セ、ル、マ、ン、氏、ノ、反、應、試、驗、ヲ、行、ツ、テ、見、タ、ラ、案、外、ニ、微、毒、性、ノ、顆、粒、ハ、多、イ、モ、ノ、デ、ア、ロ、ウ、ト、思、ハ、レ、ル、(j)白、血、病、及、假、性、白、血、病、ニ、於、テ、僅、少、ノ、顆、粒、物、ヲ、見、ル、事、ガ、アル、ガ、結、膜、ハ、

些ノ異常モ呈シナイ、

以上列記セル如ク「トラホーム」ニハ之レト鑑別ヲ要スル疾病ガ許多アツテ未タ確タル顯微鏡的及化學的診斷ナク其ノ確徵モ特有ノモノニアラザルヲ以テ容易ニ診斷シカタキ場合ガ深山ニアル實驗ヲ積ムニ從フテ疑ハシキ場合ガ多クナルノデ勢ヒ疑似症ナルモノヲ置クノ必要カ生ジテ來ル若シ「トラホーム」ヲ誤ツテ他ノ疾病ト診斷シテ豫防法ヲ講ゼザレハ本症ノ如キ確カニ傳染性ト認メラレタルモノ故危險此ノ上モナギ事デ若シ又無害ニシテ豫後良ナル疾病ヲ「トラホーム」トシテ患者及家族ニ其ノ危險ナル事ヲ説イテ恐怖ヲ懷カシメタ曉ニ之ガ治療只數日又ハ全ク治療ヲ施サスシテ全治シタラム時ニハ大ニ醫師タルモノ、信用ヲ傷ケ且ツ患者ハ大イニ安心シテ「トラホーム」ヲ輕々視スルニ至ル譯デ是又豫防治療上大ナル障害ヲナスデアラウ本症診斷上疑似症ヲ置カナクテハナラヌハ實地家ノ普ク認ムル所デ一例ヲアグレバ「グレック」氏ノ如キハ西曆一千八百九十六年中西部普魯西亞ニテ本病ガ流行シタ時或一部落三千二十五人ノ住民中二百九十九人ハ「トラホーム」ト診定シ二百九十

疑似症

一例グレック氏

假性トラホーム

實驗

人ハ類似症ニ算入シタ其ノ内ノ七症ニ於テハ四回ノ診斷ヲ重ヌルモ猶之ヲ確メ得ナカツタトノ事デアアル其他内外諸家モ疑似症又ハ類似症又ハ假性「トラホーム」等ノ名稱ハ異ナルモ之ヲ存置スル必要ヲ説イテ居ル私モ確カニ學校生徒ニ於テ初メ「トラホーム」疑似症ト診定シテ次回ニ全治シ又ハ眞性ノモノトナリ或ハ少シモ變化ナキヲ見テ居ル茲ニ一ツ私ノ實驗ヲ述ベテ注意ヲ促ガシタイ事ガアルソレハ或小都會ノ高等女學校デ生徒ニ「トラホーム」ノ數ガ非常ニ多イト云フノデ私ガ依頼セラレテ検査シタ事ガアル二三百ノ生徒デアツタガ眞ノ「トラホーム」ト見ルベキモノハ普通千葉縣ニ於ケル中學以上ノ%數ト著シキ變ハリハナカツタガ不思議ニモ生徒ノ半數以上ニ於テ穹窿部及險結膜ニ輕度ノ乳嘴肥大ガアツテ天鵝絨狀ヲ呈シ上穹窿部軟骨緣ノ部ニ於テハ屢々乳嘴ハ密着シテ稍々大ナル顆粒トナツテ赤色不透明デ恰モ眞ノ顆粒ノ如ク見ヘテ居ルノデアアル結膜ノ充血ハ全ク缺除シテオルカ又ハ微カニアル恐ラクハ之ヲ「トラホーム」ニ算入サレタモノト思フ此顆粒類似物ニ就イテハ以前注意シテ居ツテ他校男女生徒ニ於テモ時々同様物ヲ見タ

ガ此ノ學校ニ於ケル程多數デハナイノデアアル此等ノ生徒ハ一部分ハ寄宿舎ニ住ツテ一部分ハ市街ニ住シ他ノ一部而モ大部分ハ市街ヲ離ル、事一乃至二三里ノ海岸地ヨリ通學スルトノ事デアツタ類似顆粒ノ多數ハ即チ此ノ種ノ通學生ニ最モ多數ニ見タノデアアル寒熱風塵ニ犯サレ遠路ノ通學ニヨル慢性ノ刺戟カ原因デアツタト思ハレル、

前述ノ次第デアルカラ壯丁學生ノ「トラホーム」検査上ニヒルシュペルグ及グレップ氏ノ區分法ハ大イニ參考トナルベキモノト思フカラ次ニ掲グ

ヒルシュペル
グレップ
氏ノ區分法

第一種 疑症 長時觀察シタ後チニ診斷ヲ確定スヘキ必要ノアルモノ
第二種 輕症 結膜ノ肥大中等度ニシテ穹窿部ニ少許ノ顆粒アリ軟骨部ハ之ヲ免レ分泌物ナキモノ、

第三種 中等症 多數ノ顆粒ハ兩眼險殊ニ上眼險結膜ニ發生シ上眼險穹窿部ハ強ク充血腫脹シ分泌物アルモノ、

第四種 重症 既ニ續發症狀即チ「バンヌス」内翻症睫毛亂生症等ヲ來セルモノ、

壯丁及學生ノ檢診上「トラホーム」ヲ輕中重ノ三症ニ區分スルハ本邦ニ於テモ汎ク用ヒテ居ツタガ其ノ程度ニ就イテハ一昨年名古屋市ノ醫師會ガ決議シテ市長へ上申シタノガ嚆矢デアロウソレカラ各縣デ任意ニ規定シテ居ルカラ各地方マチマチデアアル陸軍ノ壯丁検査ニ於テハ「トラホーム」ニハ大約次ノ如キ標準ヲ立テテ居ルソウデアアル

輕症「トラホーム」

中症「トラホーム」

- 一、病變上眼險結膜穹窿部ノミニ限局セルモノ
- 二、病變上下眼險結膜穹窿部ノミニ限局セルモノ
或ハ眼險軟骨部結膜ノ骨部ニノミ限局セルモノ
- 三、上眼險軟骨結膜ニ陳久ナル癢痕アレ小ニシテ軟骨ニ變化ナク毫モ分泌物ヲ存セザルモノ
- 一、膠様期ニシテ潰瘍及癢痕ヲ形成セントスルモノ
- 二、顆粒ノ發育著シク上眼險軟骨部結膜ニ汎布セルモノ
- 一、角膜ニ「バンヌス」浸潤潰瘍表面不平翳等ノ續發

重症トラホーム

變化アルモノ

一、軟骨變化ノ爲メ眼瞼内翻症睫毛亂生症ヲ續發セルモノ

普魯西亞國ニ於テ最近發布セル兵役ニ關スル結膜疾患ノ診查方針ト云ヘルモノ、大要ハ次ノ如クデアル

注意 眼瞼結膜ノ検査ニハ眼瞼ヲ翻轉スベシ殊ニトラホーム流行地ニ於テハ常ニ上眼瞼ヲ翻轉スベシ

一 不合格トスベキモノ

イ、トラホームト確診シタル各症(顆粒性結膜炎、顆粒病、結膜ハ發赤腫脹、肉狀ヲ呈シ且ツ表面不平ニシテ溷濁セル赤灰色ノ顆粒アルモノ)(殊ニ穹窿部ニ於テ)

角膜上部ハ屢々共ニ犯サレ、溷濁樹枝狀血管發生(バンヌス)末期ニ於テハ結膜ニ帶青色線狀若クハ斑點狀ノ癍痕ヲ呈シ、眼瞼ノ癍痕、收縮、眼瞼緣ノ内轉アルモノ

ロ、重症結膜疾患(トラホーム)ノ徵候ナキ及ビ其續發狀態ニシテ深在

組織ニ及ボス變常、若クハ組織ノ崩壞アルモノ

二 合格スベキモノ

イ、トラホーム類似疾患

ロ、トラホームノ特徵ヲ有セザル結膜ノ濾胞腫大ニシテ加答兒ヲ有シ、或ハ有セザルモノ

之ニハ健全ナルカ又ハ僅カニ變常シテ滑澤ナル結膜ヲ有スル下眼穹窿部ノ上表ニ於テ透明ナル小水疱様物ノ隆起スルモノハ、表層ノミヲ犯ス非トラホーム性ノ急性及慢性結膜疾患

又一八九三年度ニ發布セルモノ、大要ヲ參考ニ掲レバ

一 不合格トスベキモノ

イ、重症慢性結膜炎ニシテ高度ノ穹窿部腫脹及ビ多量ノ分泌物ヲ有シ、顆粒ノ無キモノ

ロ、急性及慢性膿漏性結膜炎(實扶的里及淋毒性結膜炎)ハ重症顆粒狀結膜炎 之ニ屬スルモノハ

a' 主トシテ上眼瞼穹窿部及上眼瞼結膜ニ顆粒發生アルモノ

b. 上下兩眼瞼ニ於テ數多ノ顆粒アルモノ、結膜高度ニ腫脹シ著シク透明度ヲ減ジ或ハ透明ヲ失ヒ結膜上層ガ不規則ニ剝離シ分泌物過多ナルモノ
 c. 既ニ眼瞼結膜、角膜等ニ變狀ヲ來セルモノ(癩痕、乳嘴肥大、眼瞼彎曲、內翻症、パンヌス、潰瘍、滲潤、膨隆、翳)

一 合格スベキモノ

イ、急性結膜炎

ロ、輕症慢性結膜炎ニシテ分泌物少ナク穹窿部腫脹輕度ノモノ

ハ、フリクテーション性結膜炎

ニ、濾胞性結膜炎

之ニ屬スベキモノハ顆粒ガ健康或ハ僅カニ充血腫脹セル下眼瞼

結膜穹窿部ニ限局スルカ或ハ主トシテ該部ニ發生シ上眼瞼結膜

ハ全ク健康ナルカ或ハ僅カニ加答兒ヲ有スルモノ

豫後及經過

豫後及經過

「トラホーム」ノ豫後ガ日本ニ於テハ比較的ニ良好デアアル事ハ前ニモ述べ

タ通りデアアル、然シ本病ノ初期ニ於テ適當ノ治療ヲ施サル場合ニハ惡性ノ續發症ヲ起シテ視力ノ障害、眼瞼ノ内翻、睫毛ノ逆生、結膜ノ作用不能等高度ノ弊害ヲ貽スモノデアアル、甚ダシキハ乾燥眼、兔眼等ヲ起シ全盲ニナル事ガアル、要スルニ罕ニ見ル急性症ヲ除ケバ經過ハ頗ル慢性ヲ放置スレバ數年、數十年ノ經過ヲ取り其ノ間一進一退患者ヲ苦マシムル事ガ容易ナラヌ疾病デアアル、全然失明ヲ來スガ如キハ多數デハナイガ實際國ノ生産力ニ及ボス損害ハ實ニ莫大ナルモノデ假ニ一例ヲ舉ゲテ見レバ、玆ニ一家十二人ノ家族ガアルト假定スルニ其中ニ一人ノ盲者ガアル事ハ一村一町中デモ先ツ罕デアアル、然シ同數ノ家族中ニ六人ノ「トラホーム」患者ノアル事ハ本邦デハ決シテ珍ラシイ事デナイ、此六人ガ多クハ初夏晩秋所謂草先キ草枯レノ時期ニ發作ヲ起シテ作業ニ從事スル事ガ出來ナクナル假ニ一ヶ月宛休業シテ醫療ヲ受クルトセバ年二回デ一ヶ月宛六人デアアルカラ丁度十二ヶ月即チ滿一ケ年間ノ作業ハ出來ヌ、即チ生産力ノ上ニ一人ノ盲者アルト同一デアアル而モ一人ノ盲者ハ夫デ終ツテ仕舞フノデ他人ニ害ヲ及ボサナイ、又多クノ盲者ハ殊ニ下等社會ニ在ツテ

ハ相應ノ作業ヲ習ツテ幾分ノ所得ガアルカ或ハ眼ハ見ヘズトモ視力以外ノ感覺ガ非常ニ鋭敏ニナツテ相應ニ家事ノ助ケニナルカ左ナクモ只仕事ヲセスト云フ丈デアルガ之ニ反シテ六人ノ「トラホーム」患者ハ家族親戚ハ勿論知友近隣ノ者ニモ同病ヲ傳搬スル恐ガアル又發作時ニハ醫療ヲ受ケ多ク金錢ヲ消費シテ其間多少苦痛ヲセチバナラヌ而シテ終局ハ矢張り失明デ殆ンド盲者同様トナルノデアル實際ニ盲者自身ハ案外樂天家ニナツテ周圍デ考フル程ノ苦痛ヲ感ズル事ハ少ナイノミナラズ周圍ノ人ガ同情ヲ持ツテ呉レル然ルニ「トラホーム」患者ハ苦ンデ金錢ヲ消費シ其上傳染ノ恐ガアル故周圍ノ人カラ嫌厭サレツ、結局ハ殆ンド盲者同様ニナルノデアル如此ハ少シク極端ノ話デハアルガ敢テ不當デハナイト思フ此疾病ハ本邦ニ於テ到ル所極メテ多數ノ人ヲ惱マシテ生産力ヲ減弱シテ居ルカラ國家ノ富強ニ及ボス影響ハ決シテ僅少デナイ此點ヨリ云フモ本病ハ甚ダ豫後不良ノ疾病デ此病ノ撲滅ガ今日ノ如ク國家問題トナリタルハ誠ニ當然ノ事デアル

療法

目的

「トラホーム」ノ療法上ニ於テ治癒ノ標準ニ置カル、顆粒ガ全ク消失シテ結膜ガ健康狀態ニ復セバ本病ハ全治シタノデアル然シ多少ノ癍痕遺殘ハ常ニ免レ得ザルモノデアル近來ノ說デハ「トラホーム」ニ對スル顆粒ノ價值ハ大ニ減ジテ本病ニ固有ナルモノニ非サルノミナラズ顆粒ノ形成ナク只腺樣組織ノ浸潤ヲ起スモノアリトノ說モアルガ多數ノ說デハ顆粒ハ固有ノモノニハアラザルモ最モ多ク最モ著明ニ現ハル、モノトシテアル治療上之ヲ目標トスルモ決シテ無理デナイ且今日他ニ標準トスベキ確カナ徵候ガナイカラ之モ止ムヲ得ナイ事ト考ヘル夫故我々ハ療法トシテハ可成速ニ顆粒ヲ除キ炎症ノ消失ヲ謀ラネバナラヌ而モ可成顆粒部外ノ結膜ヲ傷ケヌ様僅微ノ淺イ癍痕ヲ以テ治スル様ニ務メネバナラヌノデアル療法ヲ分テバ先藥治的療法ト機械的(手術的)療法トノ二ツデアル

療法

其ノ外光線療法及「イオン」療法ヲモ併セテ左ニ附記セウ

藥治的療法

冷療法
食鹽水、井水

硼酸水、昇汞水

酸化青酸水、銀水、鉛糖水

「ブロー」氏液

「クロー」氏液

「クロー」氏液

「クロー」氏液

療法

藥治的療法、目的ハ炎症劇甚デ充血孔嘴ノ肥大著シク分泌ノ盛ナル時ニハ消炎法ガ肝要ナレトモ然シ亦炎症ガ一程度ニ下リタル時又ハ初メヨリ甚ダシカラザルカ或ハ全ク無キ時ハ之ヲ保持シ或ハスコシク催進スルノデアル經驗上一程度ノ炎症々狀ノアツタ方ガ却ツテ顆粒及ビ浸出物が容易ニ吸收サレルノデアル消炎ノ目的ニハ冷療法ヲ用ウル之ニハ〇、五%ノ食鹽水、善良ノ井水、デモヨイガ通例收斂性且防腐殺菌ノ効アルモノヲ用ウルノデアル人々好ミモアルガ普通用ヒラル、モノハ二、三%ノ硼酸水、三、千、一、萬倍ノ昇汞水、二、千、一、三、千倍ノ酸化青酸水、銀水、一%鉛糖水、稀薄ブロー氏液、ブロー氏液、水二、五、藥用、クロー、ル、水等デアアル鉛糖水、ブロー氏液ヲ持長スレバ角膜ニ潰瘍ガアル場合ニハ不知不識ノ間ニ白色ノ沈着ヲ殘ス恐ガアルカラ注意ヲ要スルノデアル、冷療法ヲ行フニ最モ良イノハ脱脂ガーゼノ一片ヲ四六折ニ折り重ネテ液ニ浸シ之ヲピンセット又ハ新ラシキ箸デ狹ンデ仰臥セル患者ノ眼部ニ載セオキ屢交換スルノデアアル、然シ患者ハ普通坐位デ自ラ行フモノデアアルガ茲ニ注意セテバナラヌ事ハ此際患者ハ坐ッテ居ッテ藥液ノ容器ヲ壘ノ上

ニオキ體軀ヲ屈メテ療法スル事デアアル之ハ頭部ニ鬱血ヲ起シテ甚ダ宜シクナイ可成容器ヲ適宜ノ高イ所ニ置キテ體軀ヲ強ク屈メズニ行フ様ニ注意セネバナラヌ、又容器ハ金屬ノモノハ昇汞、硼酸等ニ依リ侵サレルカラ陶器、玻璃器ガ良イガ同時ニ溫療法ニモ使用ガ出來ル様土鍋又ハセト引器ガヨロシイ、私ハ從來療法ニ脱脂ガーゼヲ用ヒテ居ッタガ日本人ノ習慣トシテ勿體ナガツテ一二回使用シタガーゼヲ捨テ仕舞フ事ガ出來ナイデ随分汚レテ穢ナクナッタモノヲ長ク用ヒテ居ル、入院患者杯ニハ給與シタ新シキガーゼ片ハ澤山ニ傍ニ積ンデ置キナガラ古イノヲ使ウト云フ惡風ガアルカラ二、三、年來脱脂綿ノミ使用セシメテ居ル、即チ療法劑ヲ與フル時ハ必ず小袋入ノ脱脂綿ヲ付ケテ與ヘ其一片ヲ取り一回ノ療法後又ハ拭除後ハ直チニ捨テヨト堅ク命ズルノデアアル綿ナレバ患者モ一回使用ノ後容易ク捨テ、呉レルノミナラズ何レノ藥舖ニモ販賣スルカラ一層都合ガヨイ、又分泌物ガ眼内ニ蓄積スレバ刺戟トナッテ炎症ヲ増進スルカラ療法ヲ行フ間ニハ屢々眼險縁ヲ拭除スルガ良イ、即チ療法液ヲ脱脂綿ニ浸シテ拭フノデアアルガ多クハ眼險縁ヲ内眥カラ外眥

療法

ニ向フテ撫デルノハ間違ッテ居ル必ズ外皆カラ内皆ニ向ッテセバ眼内ノ分泌物ガ能ク排泄セラレヌ、其他醫者ノ手ガアレバ屢々眼瞼ヲ翻轉シテ筆、スポイト、「イ」ルリガートルヲ以テ洗滌スルモ勿論宜イガ素人ニ之ヲ行ハセルハ甚ダ危険デアル、又「ト」ラホームニ罹ッテ居ル結膜面ニハ假令眼ニ見ヘヌ様デモ多少ノ分泌物ガ被フテオノデアルカラ翳法ハ必ズ與ヘルガ良イ、ソシテ患者ハ翳法ヲ行ウタ跡ヘ點眼藥ヲ用ウル様ニセネバナラヌ

硝酸銀

硝酸銀之ハ容易ニ水ニ溶解スル結晶體デ一—二%ノ液トシテ用ウ光線ニヨツテ分解スルカラ暗色曇ニ貯ヘテ置クガヨイ此濃度ノ液デ充分ナレモ昔ハ好ンデ濃厚ナル液五—二〇%位ヲ用ヒタガ夫レ程ノ必要ハナイ、上下眼瞼ヲ充分ニ穹窿部マデ翻轉スル様強ク押ヘテ此液ヲ上眼瞼縁ニ二三滴々下スルカ筆ヲ以テ塗布シ食鹽水デ中和シ後チ水又ハ硼酸水デ洗滌スルノデアル殊ニ眼球結膜ニ塗布スル必要ハナイ、稀薄ノ液モ使用法デ隨分強ク働ラク例之滴下後暫ク中和セズニ置クカ又ハ使用前結膜面ヲ綿ヲ以テ拭フ時ハ一層其働ヲ強クスルモノデアル昔ハ硝酸銀

硝酸銀桿

銀劑

桿、硝酸銀一、硝酸加里二ヲ以テ結膜ヲ腐蝕シタガ其ノ働ガ劇烈デ且ッ不平均デアルカラ今日ハ捨テラレテ居ルガ只或一部分ヲ腐蝕スル爲メニ用ヒテオル、濃厚銀液ヲ用ウル時ハ結膜面ニ薄イ灰白ノ痂皮ガ出來ル此ノ痂皮ノ存スル間ハ再ビ銀液ヲ使用スル事ハ宜シクナイ、結膜ハ赤色肉芽面ヲ呈スルニ至ッテ次回ノ腐蝕ヲ行フノデアル痂皮ハ使用後二十四時間ノ後ニハ大抵取レテ仕舞フ故一日一回ノ使用ガ通例デアル日々患者ヲ診察スル事ノ出來ヌ場合ニハ稀薄ノ硝酸銀水(〇三—〇五%)ヲ患者自身ニ點眼セシムルノデアルガ長ク持續スルト所謂銀病ヲ起ス嫌ガアルガ敢テ大害ハ無イガ見惡イモノデアルカラ注意深イ人ハ行ハヌ硝酸銀ノ使用ハ角膜ニ變狀ガアルトモ一向差支ナイ使用後ノ刺戟モ暫クニシテ止ムガ若シ甚ダシケレバ冷翳法及硝酸コカイン水ノ點眼ニ依テ容易ニ去ルモノデアル、概シテ奏効顯著デ殊ニ分泌物膿性デ多量ニアル時ニハ炎症ハ一日ト消散スルカラスカル場合ニハ最モ適當スルモノデアル

硫酸銅

硫酸銅「ト」ラホームガ無炎症、或ハ慢性炎症トナッテ暗赤色ヲ呈シ乳嘴、肥、大、ガ著シイ時ニ用ウルノデアル、銅鹽類ハ既ニヒボクラテス時代

尙ソレ以前ニ於テモ用ヒテオル硫酸銅ノ最モ適切ノ使用法トシテハ結晶ノ滑澤ナル面ヲ以テ翻轉セル結晶面ヲ穹窿部迄二三回撫スルノデ摩擦デハナイガ觸接デモナイ二三回平等ニ殘リナク撫スルノデアアル坊間普通販賣ノ硫酸銅デハ形ノ大ナル結晶ハ少ナイガ可成大キナ格好ノ善イモノヲ採ッテ一面及尖銳ナル部ヲ滑澤ニシテ指デ摘ンデ用ウルガ宜シイ小サクナッタラ結晶挾ヲ用ヒテモ宜イガ萬遍ナク平等ノ壓ヲ加ヘルト云フニハ直接ニ指デ持ツ方ガ都合ガ宜シイ近頃獨逸ノメルク會社カラ楔狀紡維形或ハ球頭棍棒狀ニ磨キ付ケタ大結晶ヲ販賣シテ居ル然シ隨分鄭重ニシテ來ルガ運搬中ニ兎角壞レ易イ又普通ノ硫酸銅ハ殆ンド價格ノナイ程デアアルガメルク會社製ハ本邦ノ取次所デハ目方十瓦ノモノガ八十錢デ六瓦ノモノガ六十五錢ト云フ高價デアアル價ハ兎ニ角舶來スル品モ其質ガ追々粗惡ニ傾クカラ可成透明ノ色ニ不平均ヤ溷濁ノナイモノヲ擇テバ直キニ折レテ困ル少シ餘暇ノアル人ハ硫酸銅ノ水液カラ大結晶ヲ作ツテ滑澤ニ磨イテ用ウルモ宜シイ偕テ硫酸銅結晶ヲ用ヒタラバ直チニ洗滌スルガヨイ使用後ハ普通刺戟ガハゲシイモノデ始メ

使用ノ處置

テ用ヒタ時ハ罕デハアルガ半日位疼痛ノ去ラヌ人ガアル斯様ナ患者ニハ此使用ヲ一時見合セタ方ガヨロシイ普通ハ三十分乃至二時間位ノ刺戟デアアル度々用ウルバ刺戟ハ追々ニ減ル疼痛ノ激シイ時ハ冷罌法ニコカイン水ノ點眼デ緩解ス又タ結晶ハ使用後直チニ乾燥布片デ克ク拭ツテ常ニ乾燥シテ置カネバナラヌ然ラサレバ其ノ面ガ不滑澤ニナル尖端又ハ角ノ部ガ壞レル事モ屢アルカラ紙紙デ磨イタ後チ濕ッタ布片デ拭ツテ滑澤ニシテ用ウルノデアアル硫酸銅結晶ノ使用ハ隔日三日或ハ一週一回デアアル結晶使用ノ外硫酸銅ハ點眼液トシ又ハ軟膏トシテ用ヒラレル或ハ水トグリセリン等分ノ液ニ溶解シテ用ウル事モアルガ奏効ハ確實デナイ結晶使用ニ劣ル事ハ確カデアアル然シ私ハ極ク慢性症デ他ノ療法デハ炎症ノ去ラヌモノニ一%ノ軟膏ヲ一日二回持長點眼シテ消散セシムル事ガ屢々アル角膜ニ潰瘍ガアル時ハ硫酸銅使用ヲ禁スル人ガアルガ私ノ實驗デハ結晶ノ使用ハ高度ノ潰瘍デナケレバ決シテ障害ハ無イト思フ硝酸銀及硫酸銅ノ二藥ハ古來現時ニ至ル迄不絶費用セラレタルモノデ

此以外ノ收斂劑、殺菌劑、或ハ他ノ銀劑、銅劑モ許多アルガ何レモ此二者ニ劣ル事數等デ他ノ銀及銅劑ハ特別ノ場合ニ於テ使用セラル、モノデア

ル故ニ此處ニハ先ツ以テ此ノ二藥ヲ舉ゲタ次第デア、硝酸銀以外ノ銀劑ハ近時續々發見サレテ居ルカラ普通ニ賞用セラル、

「プロタルゴール」

モノヲ列舉スレバ

「プロタルゴール」塗布液トシテハ五—三〇%ノ濃水溶液、點眼液トシテハ五%ノ水溶液ヲ用ウ刺戟少ナクシテ收斂及殺菌作用ハ硝酸銀ニ等シ

「アルギロー」

イト云フノデア、私ハ小兒又ハ感シ易キ人ニ使用シテ居ル

「コルラルゴール」

「アルギロー」刺戟極メテ少ナク銀含量多キ故効力モ大ナリトテ賞用スル人ガアル五—二五%ノ水溶液ヲ點眼藥トシテ用ウ

「アルコニン」

「コルラルゴール」クレード氏ガ軟膏トシテ賞用スルモ他ニ使用スル人ハ少ナイ

「アルゲンタニン」

「アルコニン」

「イヒタルガン」

「アルゲンタニン」〇五—三〇%ノ水溶液トシテ點眼料ニ用ウ刺戟少ナク

銀毒ヲ起サズ其働キハ寧ロ硝酸銀ニ優ルト云フ

「ラルギン」

「ラルギン」三—五%ノ液

「シルゴール」

「シルゴール」之ハ最近發賣ノ銀劑デア

枸橼酸銅

枸橼酸銅 水ニ難溶性ダカラ軟膏ト用ウアルト氏ハ五—一〇%ノ軟膏ト用ヒテオル、點眼後直チニ眼ヲ閉サセ半分間眼瞼上ヨリ按摩スル

ガ良シイ疼痛ナク小兒ニ用ウル事ヲ得且ツ患者ガ自宅ニ於テトラホ

ムノ治療ヲ行フ事ガ出來ルカラ大イニ便利トシテ賞用スルモノガアル

角膜ニ潰瘍アルモノヤ沃度劑ヲ内服又ハ外用スル者ニハ禁忌デア

醋酸銅

醋酸銅 罕ニ軟膏トシテ用ヒテオルガ

上記銀銅鹽類以外ノ藥劑ニテ多ク使用セラル、モノハ

明礬

明礬 作用ハ硫酸銅ト同一デ刺戟ハ少ナイガ働キモ弱イノデア、硫酸銅ト同ク結晶ヲ用ウ使用法其他ハ硫酸銅ト同様デ多ク其代用ヲナスモ

ノデア

昇汞

昇汞 三千—五千倍ノ液又ハ軟膏トシテ使用ス私ハ殊ニ好ンデ軟膏ト

シテ用ウ炎症ノ程度ガ輕ク又分泌物ガ凝固シテ絲狀ヲナセル時ニハ最

酸化青酸水銀

モ適合ス、又タ末期デ既ニ癩痕ヲ形成シツ、アル時ニモ害ガナクテ能ク奏効スルト思フ、昇秉軟膏ヲ製スルニハ飽和液ヲ用ユルガ宜シイ然ラサレバ屢々濃淡ガ一樣ニ行カヌ爲メ往々點眼後ニ非常ニ強イ刺戟ヲ來ス事ガアル

「チルトフォルム」
「イヒチチガール」

沃度

「チルトフォルム」一〇%ノ軟膏トシテ用ウ
「イヒチチガール」三〇—五〇%ノ「グリセリン」水液ヲ結膜面ニ塗布シテ後チ洗滌ス刺戟少ナク急性症ニハ効アルト云フ
沃度、子スナモフ氏始メテ使用以來一二ノ賞用者ガアッタガ今日デハ無効ト見做サレテ居ル然ルニ先年大阪デドクトル河野氏ガ小學校生徒ニ用ヒテ著効ヲ見タト云フ事デ學校ノ報告トシテ官報ニ掲載サレタノデ一時大イニ流行シタガ自分ノ經驗デハ更ラニ効ガナイト思フ同藥ハ

黃降承軟膏

「ゲチニン」

「アドレナリン」

「アトロピン」

「ゲエクイリチー」

「ゲエクイリチー」

「グリセリン」溶液又ハ軟膏トシテ用ヒ或ハ流動性「ワゼリン」(ワゼリン油)ニ一五—三〇%ノ割合デ溶解シテ筆ヲ以ツテ結膜面ニ塗布スルノデア

黃降承、之ハ軟膏(一—二%)トシテ「バンヌス」ノアル時ニ用ウ

「ゲチニン」(三—一〇%)モ又「バンヌス」潰瘍虹彩刺戟等アリテ疼痛アル時

ニ水液軟膏或ハ散布藥トシテ用ウル

「アドレナリン」液、(千倍液〇—一水一〇〇)ヲ數回點眼シテ「バンヌス」ヲ去ラセル効力ガアルト云フ

「アトロピン」一—二%ノ水溶液或ハ軟膏トシテ虹彩刺戟炎症アル時ニ用ウ

「ゲエクイリチー」デ「ウエッケル」氏ノ唱導ニヨツテ高度ノ「バンヌス」及ビ角膜翳アル時ニ用ウルノデ氏ハ三—五%ノ水浸液ヲ用ヒテ卓効ガアルト云フタ其ノ後諸家ノ實驗ニヨリ時ニ烈シイ格魯布性炎症ヲ起シ角膜ノ膿潰壞疔眼險ノ壞疽脱落等ヲ起シタ事ガアルノデ使用スルモノガナクナツタ然ルニ「レーム」氏ハ「ゲエクイリチー」及ビ「ゲエクイリチー」血

「ヂェクイリ
トール血清」

清ヲ製作シテカラ再ビ用ウルモノモ出來タ

「ヂェクイリチ」ナルモノハ主トシテ南米ニ産スル植物ニシテ豈科ニ
屬シ「アブルス、ブレカト、リウス」ト云フ亞弗利加、亞刺比亞、臺灣ニモ産シ
支那名ヲ相思樹ト云フモノ、實デ其ノ有毒成分ニ就テハ種々論争アリ
シモ結局一種ノ毒性蛋白質「アブリシ」ニ歸シテ居ル「ヂェクイリトール」ナ
ルモノハ此「アブリシ」ヲ「グリセリン」ニ溶解シタモノデ其ノ濃度ニ依リ一
號ヨリ四號迄アル「ヂェクイリトール」血清ハペーリング氏ノ實扶的里血
清製法ノ規則ニ隨ヒ「アブリシ」ノ皮下注射ニヨリ動物ヲ免疫シ血清ヲ採
ルノデ共ニ獨逸ノメルク會社ガ販賣シテ居ル其ノ使用法ハ一號ヨリ三
號迄ヲ漸次一二滴點眼シテ二十四時間注視シテ炎症ノ發生シタ時ニ止
メル若シ餘リ激シキ炎症ノ起ツタ時ハ直チニ同血清ヲ點眼シテ炎症ヲ
去ラシムルノデアル炎症消散後ニ「パンヌス」ハ治癒シ角膜翳ハ減少スル
ト云フノデアル

「カフシトール」

「カフシトール」二三年前藤野ト云フ人ガ創製シタモノデ一號ヨリ三號
迄ノ液デアル其用法目的ハ「ヂェクイリトール」ト同一デ之ハ蕃菽カラ作

鰻ノ血液

ラレタモノデアルガ私ハ暫ク其ノ用法通り用ヒテ見タガ豫想程ノ奏効
モ見エナカッタ蕃菽ノ事ニ就イテハ私ニ偶然ノ實驗ガアル之ハ今ヨリ
拾餘年前ノ事或ル學生ノ老母ガ長ク「トラホーム」ニ罹ッテ居ッタ視力モ
餘程犯サレテ居ッタガ或ル時漬物ヲスルトテ生青蕃菽ヲ刻ンデ其ノ手
デ目ヲ擦ッタ其ノ夜カラ烈シキ眼炎ヲ起シテ十日程ノ後炎症ガ去ツタ
ラ其以前ヨリ遙カニ善良ノ視力ヲ得タト云フノデアル其ノ話ハ既ニ醫
學的知識ヲ持ッテ居ル人カラ聞イタノデ夫レヨリ蕃菽ヲ壓搾シテ其ノ
汁ヲ薄メ又ハ丁幾ニ製シテ最初ハ動物ニ用ヒ後ニハ注意シテ人ニモ用
テ見タガ往々急性ノ結膜炎ヲ起シタ之レハ悪性ノモノデハ無ク悉ク二
三日ニシテ治シタガ豫期シタ効果ハ認メラレナカッタカラ其後ハ止メ
テ仕舞フタ

「エルリシゲルト」云フ人ハ或ル鰻ノ一種「モールアール」ノ血液ヲ取ツテ點
眼シテ「トラホーム」ヲ二週間デ治シタト云フタ元ヨリ信ジラレヌ事デハ
アルガ如何ニ本病ノ藥液的療法ニ對シ社會ガ注目研究シタカト云フ事
ガ解ルデハ無イカ

結膜下注射

同シク藥劑的療法ノ中デモ其使用法ノ變ッテ居ルモノヲ舉グレバ
結膜下注射 ○五%ノ石炭酸ヲ穹窿部ニブラワツ氏注射器ニテ半—
 筒注射スルノデ隔日或ハ三日毎ニ行フテ著効ヲ見タト云フ人ガアル又
 市原氏ハ一種ノ藥液注射針ヲ製造シタガ私ハ未ダ多ク使用セヌカラ俄
 カニ批評ヲ下スコトハ出來ヌ石炭酸ノ注射ハ幾分ノ奏効ガアル様ニ思
 ハレルガ他ノ療法ニ著シク優ル所ガアルトハ思ハレヌ

撒霧法

撒霧法ハ 硫酸銅水、單寧酸水、硼酸水等ヲ眼瞼上ヨリ或ハ直接結膜面ニ
 溫蒸氣トシテ撒霧スルノデ大イニ賞用スル人モアルガ自分ニハ餘リ有
 効トハ思ハレヌ

内服藥

内服藥 刺戟症狀甚ダシキ時ニハ「アンチピリン」「アスピリン」等ヲ與ヘル
 ガ普通アルカロイド劑ヲ用ウル必要ハ無イ其他便秘アル時ニモ藥劑ヲ
 用ユル等適宜ノ處置ヲ取ルノデアアル

器械的療法
(手術的)

器械的療法(手術的)

1. **摩擦法** 之ハ隨分古キ時代ヨリ行ハレテ中古一旦捨テラレテ近時
 又タ大ニ賞用サレテ居ル昔ハ無花果、ノ、葉之レヨリ「トラホーム」ノ名稱

摩擦法

ガ出タト云フ説モアル、輕石、烏賊ノ、甲、海綿等ヲ用ヒタガ日本デモ何時
 ノ頃ヨリカ燈心ヲ以テ結膜面ヲ摩擦スル方ヲ行フテ居ル
 當夏青森縣ノ八戸ト云フ所デ或ル老婆ガ芳ノ篋ノ如キモノニテ結膜
 面ヲ摩擦サレタ爲メニ其結果激烈ノ膿性炎症ヲ起シテ居ルモノヤ角
 膜ガ既ニ破潰シテ不正ノ虹彩脱ヲ生ジテ居ルモノヲ三人ホド見タ

カイニング氏
法

カイニング氏ノ摩擦法

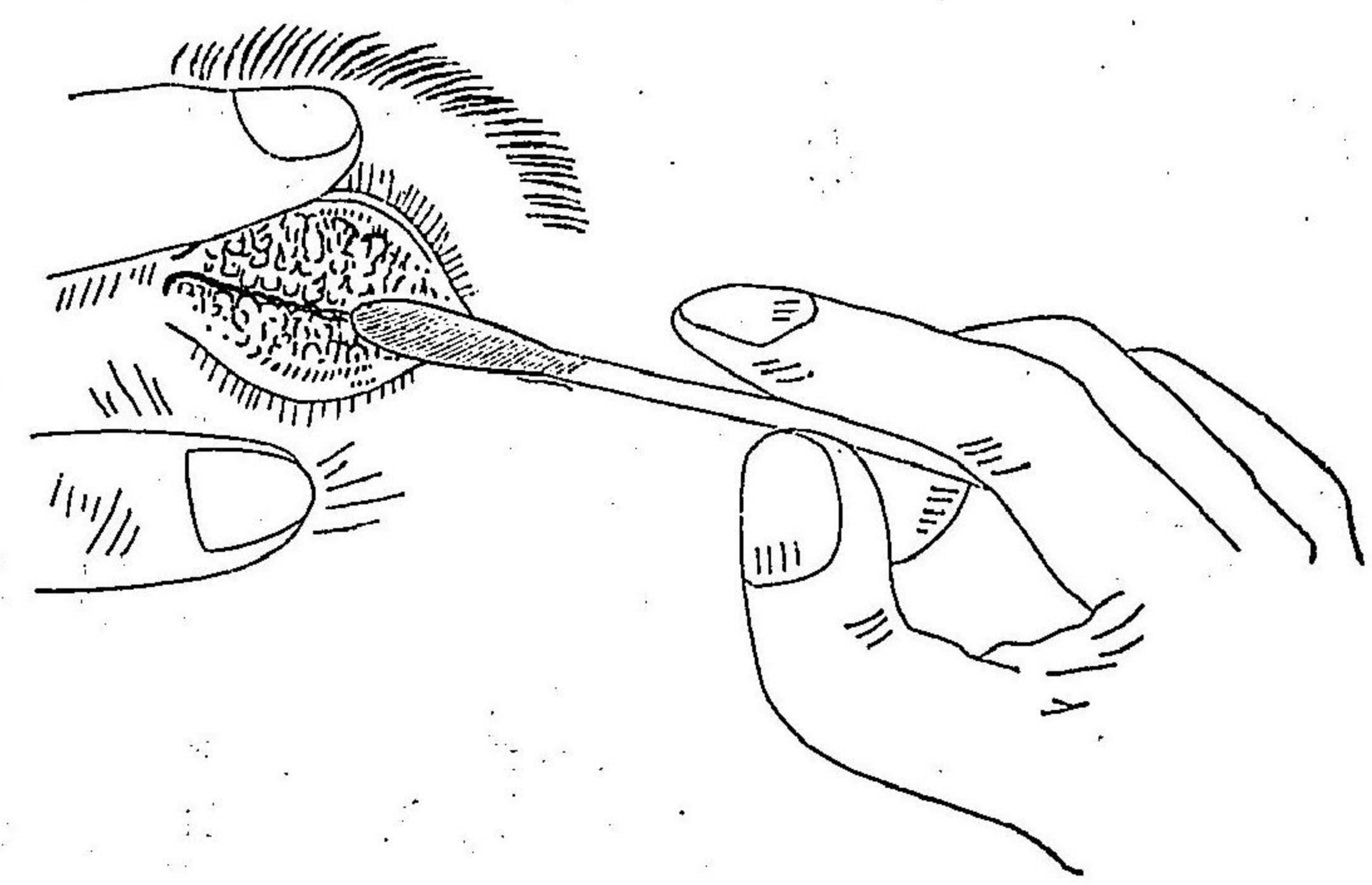
氏ニヨツテ大イニ賞用サレタ法デ氏ハ「ピン
 セット」又ハ硝子桿へ昇汞水ニ浸セル綿ヲ卷テ數回輕ク結膜面ヲ摩擦
 スルノデアアル先ツ「コカイン」水ノ點眼(四%)又ハ穹窿部ニ注射(〇五—一
 〇%半筒)ヲ行ウ、昇汞水ハ千倍—五百倍トス摩擦ノ度ハ綿ニ微カノ血
 痕ガ染ル位ヲ以テ止メ日々之ヲ行フ氏等一派ハ確カニ此ノ方法ニ依
 リ慢性「トラホーム」ヲ治スル事ヲ得ルト云フ自分ノ經驗デハ此法ヲ以
 テ全治セシムルニハ隨分長キ時日ヲ要シ且ツ廣イ癢痕ガ出來ルカラ
 格別良法トモ思ハレヌ只極メテ輕症ニハ確カニ効ガアル
 此法ハ誰ニモ行ハレ易ク且ツ強キ消毒法デアアルカラ隨分賞用セラレ
 ルノデアアル

硼酸末

療法

七八

第五圖



カニイシケン氏按摩療法

硝子桿

黃隆赤軟膏

硼酸末ヲ眼内ニ散布シ
 眼臉上ヨリ按摩スルモ
 慢性「トラホーム」及「バン
 ス」ニハ効ガアルト云
 フ、私ハ後チニ眼瞼ヲ翻
 轉シ指頭ニ同粉末ヲ附
 ケ静カニ按摩シタガ格
 別ノ効モナカツタ、同様
 ノ法ヲ「朱ト食鹽」ノ混合
 末デ試ミタガ矢張格別
 ノ効モナカツタ
 「パーゲンス」テ「ヘル」氏ハ
 黃隆赤軟膏點眼按摩ヲ
 賞用シタ
 「リキール」ニ「ク」氏ハ平滑

「アトラミン」

指腹按摩

手術的療法
藥治的療法ト
ノ比較

療法

七九

ナル細、硝子桿ヲ眼瞼ト眼球トノ間ニ穹窿部マデ挿入シテ種々ノ方面
 ニ回轉シテ結膜按摩ヲ行フタガ此法ハ大ニ顆粒吸收ニ効ガアルト云
 フ人モアル此ノ法ハ患者自身ガ何時デモ隨意ニ行ハレルダケノ便利
 ハアルガ然シ又之ニ伴フ危険モアル
 以上述べタ療法ノ多數ハ按摩ト藥液ノ作用ト合シタモノデアル、眞壁氏
 ノ「アトラミン」療法モ其ノ一種デアアルガ事實ハ藥液ノ働キハ殆ンドナク
 器械的作用ガ其ノ効ヲ奏スルノデアアル、私ハ「コカイン」ヲ點眼シタル結膜
 ヲ翻轉シテ單ニ指腹デ按摩シテ見タガ毎日之ヲ行フテ輕症ノモノハ治
 シタ然シ何レモ二ヶ月以上ノ日數ヲ費シタガ藥品共用ト同効ガアルト
 信ズル
 2. 器械的(手術的)療法) 目的ハ結膜ノ損失少クシテ可成多ク刺傷セヌ様
 ニ顆粒ヲ除去スルノデアアル手術的療法ガ漸時盛ニ行ハレテ來タノ
 ハ確カニ「トラホーム」療法ハ一大進歩デ諸家ノ實驗上「トラホーム」單
 ニ藥劑的療法ニ依ツテ全治セシムルニハ非常ニ長キ時日ヲ要スルノ
 デ時ニ全ク不可能ノ事ガアル、デネッ「フエ」氏ノ經驗デハ藥劑療法ノミ

デハ輕症ト、ラ、ホ、ム、デモ三年—五年ヲ費シ既ニ角膜ニ、パンヌス、ノアル場合デハ七年—八年ノ時日ヲ待タテバ全治ハ六ケシイ、若シモ患者ガ耐忍持續ノ治療ヲ施サヌニ於テハ其ノ長キ事殆ンド無限ナリト云フテ居ル、患者ノミナラズ醫士モ非常ノ耐忍力ガ必要デ又患者ニハ資力ガ無ケレバ如此長キ間治療ヲ繼續スル事ハ出來ヌ、反之器械的療法ヲ行ヘバ難症ト見ヘタル者モ短時日ニ全治スル事ハ屢々認ムル所デ殊ニ器械的療法ニ、藥劑的ノ療法ヲ兼用スレバ一層ヨロシイ、手術ノ適當ナル場合ハ概シテ結膜ノ炎症ガ尠ナク顆粒ハ結膜面ヨリ隆起シ或ハ汚灰白ニ軟化セル時デア、然ラザル場合ニ於テモ手術ニ依リ症狀大イニ輕快シ患者自ラ進ンデ二次ノ手術ヲ請求スル事ガ往々アル然シ場合ニヨツテ手術ノ方法ヲ彼是撰擇スルハ最モ大切ナル事ト思フ、手術ニ先チテ四〇%ノ「コカイン」水ヲ三四回點眼シ後チ眼險ヲ翻轉シ三千倍ノ昇汞水他ノ殺菌藥ヲ用ユルモ可「ヲ以テ結膜面ヲ洗滌シ—%ノ「アドレナリン」加「コカイン」水或ハ「シュライヒ氏第二液」ヲ「ワツツ」氏注射器ニ半筒程穹窿部ニ注入スルガヨイ、鎮痛ノミデナク之ハ穹窿

適應症

手術執行前ノ處置

部ハ膨脹シテ顆粒ガ一層明ラカニナリ大ニ手術ノ便利ニナル、河本博士ハ「トラホーム」顆粒ヲ明ラカニスル爲メニ結膜面ニ食鹽ノ粉末ヲ塗摩サレタガ此ノ法デ顆粒ガ暫時ニシテ白色隆起トナリ明ラカニ顯ハレルノダ然シ之ハ食鹽ニ限ラズ那篤留膜鹽類又ハ「カリウム」鹽類ナレバ何ンデモ同シ事デ重曹、剝那等ニテモ大シタ違イハナイ

〔處方例〕「アドレナリン」加「コカイン」水

鹽酸「コカイン」 一〇〇

鹽化「アドレナリン」千倍液 一〇

蒸餾水 一〇〇〇

右混和注射料

「シュライヒ氏第二液」

鹽酸「コカイン」 〇.1

鹽酸「モルヒネ」 〇〇.15

食鹽 〇.11

蒸餾水 一〇〇〇

右混和溶液ヲ煮沸シ使用

療法

「コカイン」注射ノ害

現今私ハ消毒セル一萬倍ノ昇汞水ヲ以テ注射液ヲ作ツテ居ル、コレナレバ都度煮沸セズニ使用シテ居ルガ未ダ一度モ障害ヲ認メタ事ハナイ或ル論者ハ「コカイン」水注射ハ大ニ組織ノ榮養ニ故障ヲ來シ創ノ治癒ヲ妨害スルト云フ事デ多數ノ手術ニ於テ「コカイン」水注射ノ有害ナル事ヲ主唱シテ居ル

結膜亂切

結膜亂切 古法ニシテ淺ク穹窿部及險結膜ニ於テ軟骨上縁ニ平行シテ數多ク切開スルノデアアル、コレハ患者ニハ瀉血ノ爲メニ緩解セル如キ感アルモ奏効ハナイ

顆粒搔抓法

顆粒搔抓法 小銳匙ヲ以テ顆粒ノ個々又ハ全面ヲ搔把スル法デアアル顆粒ノ數ガ少ナキ時ハ大イニ宜シイ殊ニ陳舊「トラホーム」デ癩痕間ニ散在スルモノニハ最モヨイ穹窿部及第三結膜ハ「ピンセット」ヲ以テ固定シテ置カネバ脱レテ行ヒ難イ又顆粒ガ結膜面全部分又ハ大部分ニ蔓延シテ居ル時ニハ銳匙或ハ「キウレット」ヲ以テ全面ヲ搔把スルハ餘リニ結膜ヲ傷害スル事ガ廣イカラ宜シク無イ

顆粒擦過法
楊子

顆粒擦過法 「ダリエル」氏ノ創始ニシテ之ニハ毛ノ短キ軟弱ナラザル

楊子ヲ用ユ普通ノ楊子デモヨイガ特ニ此目的ニ調製シタ者ガヨロシイ之ヲ煮沸消毒シテ千倍ノ昇汞水中ニ浸シテ置キ用ニ臨ンデ之ヲ結膜面ヲ限ナク擦過スルノデアアル、河本博士ハ主モニ之ヲ賞用サレテ居ル出血ハ隨分甚シイ又勢ヒ眼險縁ヲ共ニ擦過スル様ニナルカラ自然痛モ割合ニ強イ譯デアアル、ダ氏ノ近時賞用スル法ハ甚ダ複雑デアアル、ハ此法ハ「トラホーム」治療ニ於テ他ノ總ベテノ法ニ卓越スト云フテ居ル、即チ充分眼險翻轉ノ出來ル様ニ多クハ豫メ外眥ニ切開ヲ行ヒ動脈鉗子様ノモノヲ以テ穹窿部ヲ横ニ插ミ翻轉シテ後チ結膜ヲ圓刀或ハ復重刀ヲ以テ充分亂切シ露出セル顆粒ノ内容ハ綿及銳匙ヲ以テ丁寧ニ除去シタ後チ更ニ楊子ヲ以テ擦過スル、外眥切開ヲ行フタ場合ニハ之ヲ縫合スルノデアアル、此ノ法ハ單純ノ擦過ニ比シテ奏効著シキモノト思フガ我々ノ如キ日々多數ノ「トラホーム」患者ヲ扱フ者ニハ繁多ニ耐ヘナイ

擦過法ハ乳嘴ノ肥大ノ著シイ時殊ニ急性症ニ用ヒテ著シク奏效スルガ其他ノ者ニハ他ノ方法ガ寧ロ優ツテ居ル

鯨ノ皮
フンベルク氏

顆粒壓出法

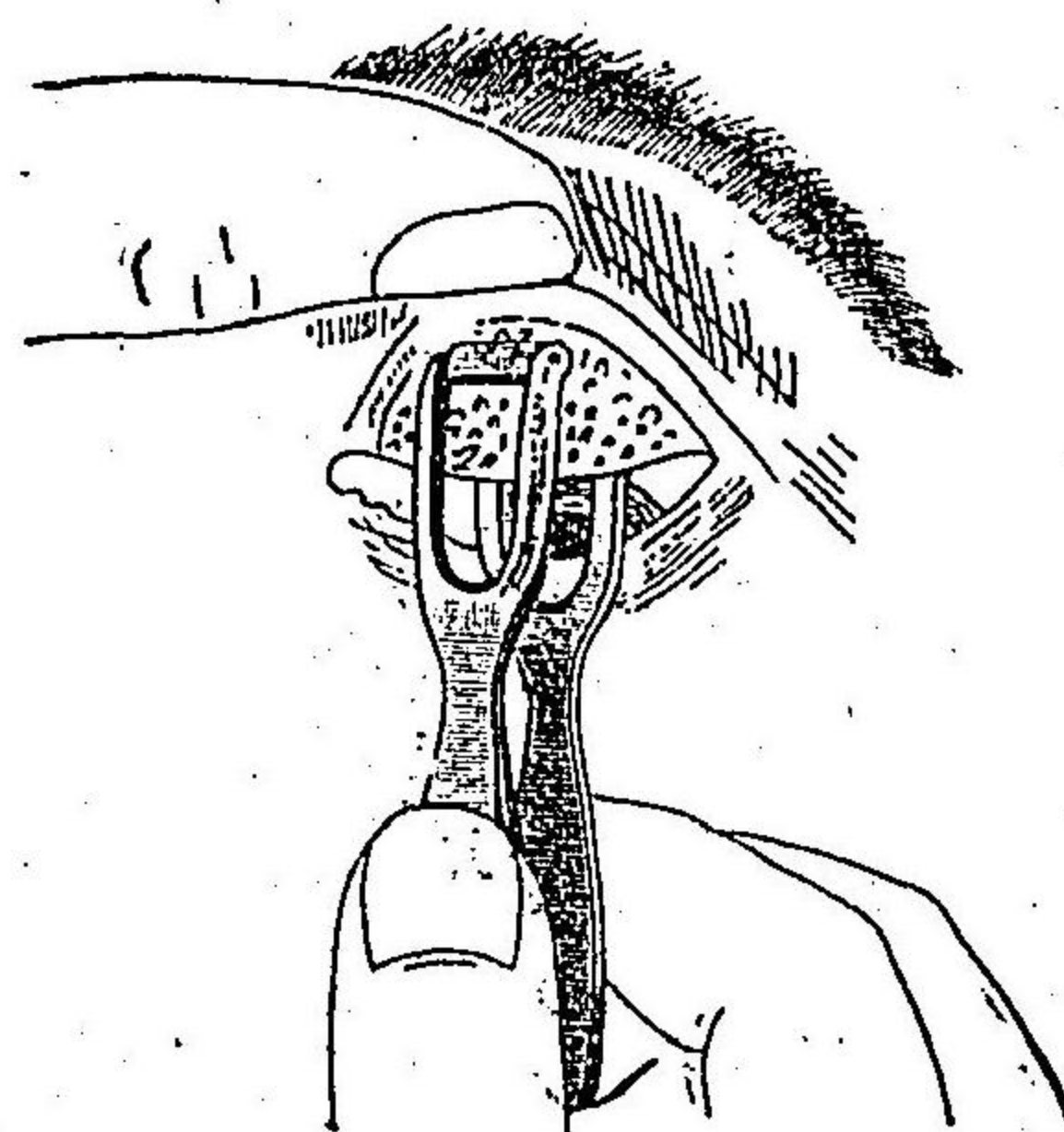
爪

彎曲「ピンセ
ツト」毛抜キ
ツト

クナツブ氏車
轉鉗子

楊子ノ代ハリニ鯨ノ皮ヲ用ヒ又露西亞デハドーンベルグ氏ガ金屬性
鏃ニ順逆ノ二種アリノ如キモノヲ用ヒタ之等ヲ使用スルニ屢々穹
窿部ヲ消失險球癒着等ヲ起ス恐レガアル
顆粒壓出法。之ニハ種々ノ方法ガアル最モ簡單ナルハ顆粒ヲ兩拇指
ノ爪端デ壓シ潰シテ杜舞ノテ穹窿部ニ少數ノ顆粒ガ限漏シテ居ル時
ニ用ヒラレル爪デナク彎曲セル「ピンセツト」毛抜キ或ハ輪狀「ピンセツト」ヲ
用ウルモヨロシイ一般ニ廣
ク使用セラルハクナツブ
氏ノ車轉鉗子デアル上眼險
ニ在ッテハ眼險ヲ旋轉シテ險
緣部カラ鞅骨上緣ノ方ヘ絞
リ出スノデアアル三四回ニテ
全結膜ニ及ボズ事ガ出來ル
下眼險ニアッテモ同様ニ或ハ
眼險ヲ旋轉セズ鉗子ノ一葉

第六圖



顆粒壓出法

ノ一葉ヲ眼險ト眼球トノ間ニ挿入シテ穹窿部ヨリ險緣ニ向
ヒ絞ルノモ宜シイ
下眼險ニ於テモ顆粒ガ主ニ穹窿部ニ限局シテ居レバ旋轉シテ絞ル方
ガヨイ(鉗子購入ノ際齒車ヲ固定スル脚部ノ小サイノヲ撰バネバ絞ボ
ル際ニ結膜ニ線狀ノ傷ヲ附ケル事ガアルカラ注意セテバナラヌ)手術
モ殆ンド無痛デ反應モ決シテ甚ダシクハナイ眼險ノ腫脹及溢血ノ生
スルトモ冷器法ヲ施シテ置ケバ暫クニシテ全ク消散スルモノデア
ル
ホッペー氏ノ鉗子ハクナツブ氏鉗子ニ改良ヲ加ヘタモノデ良イ點モアル
ガ形ガ餘リ大き過ギルフアルタ氏ノ無齒車轉鉗子ハ回轉カ宜シクナ
イホイトニー氏ノ鉗子ハ甚ダ巧ミナ出來デ鉗子ヲ容シ換ヘズニ何レ
ノ方向ヘモ壓搾ヲ行フ事ガ出來ルガ其働ク力ガ不足ニ思ハレル
此壓出ハ顆粒ガ表面ニ近ク且ツ軟クカクナッダ時ガ最モ適當デア
ルガ
大低ナラバ時期ト場合トヲ問ハズ用ヒテ宜イノデアアル只初期ニシテ
顆粒ガ深部ニ在ル時ハ壓搾ニヨツテ顆粒ハ壓出サレヌバカリデナク
却テ病源ヲ組織内ニ擴汎スル様ナ事ニナルカラ寧ロ有害ダト云フ人

ホッペー氏鉗
子
フアルタ氏鉗
子
ホイトニー氏
鉗子

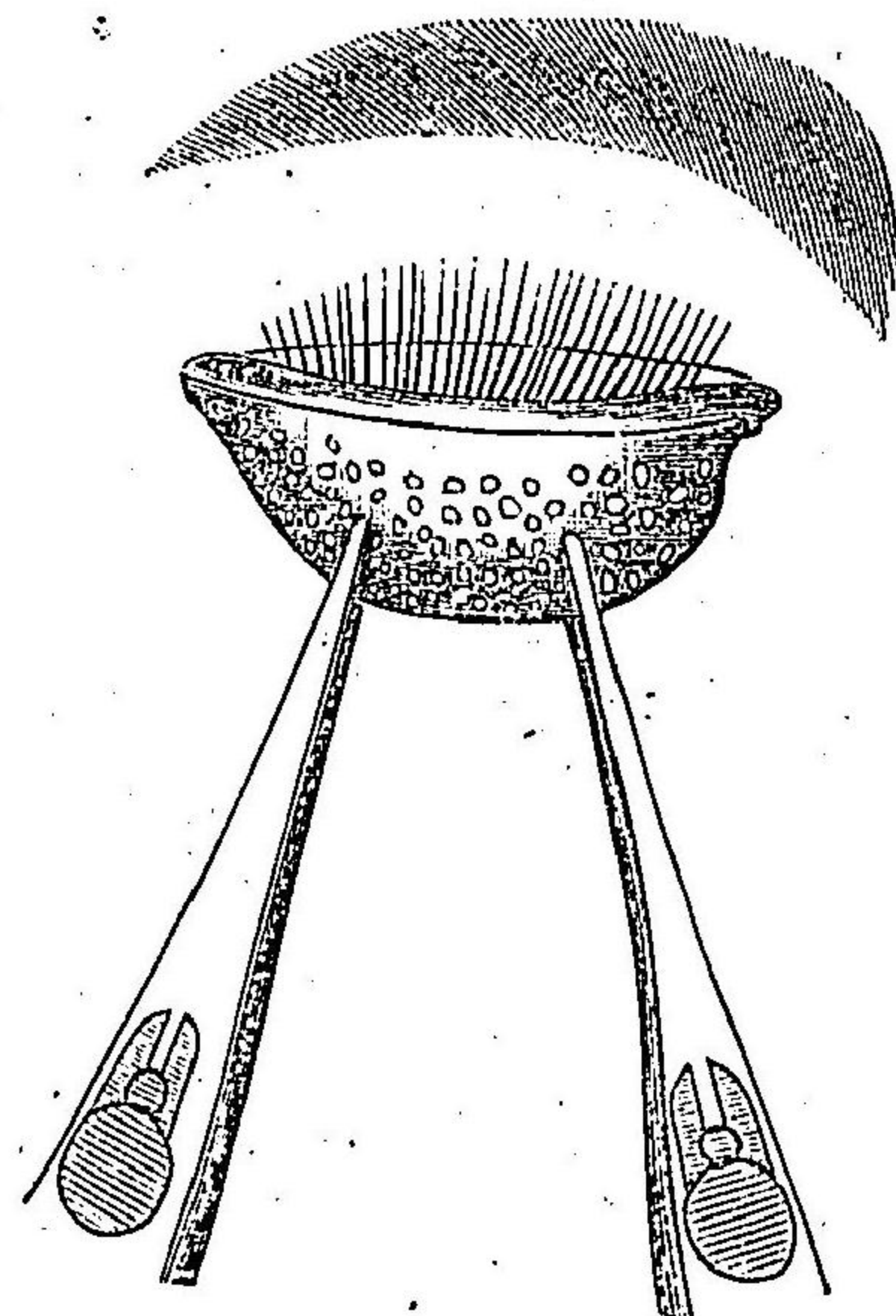
壓碎法

穹窿部切除法

モアル、自分モ初期ノ症ニ於テ小顆粒ガ俄カニ増加シテ結膜ノ充血腫脹スル事ヲ見タ然シ之ハ一時的ノモノデ暫クノ後ニハ吸收サレテ案外效果ガアル決シテ手術ノ價値ヲ下ルモノデナイ

壓碎法 クーント氏ノ壓搾鉗子ヲ以テスルノデ種々ノ形状ノモノガアル膠様潮蔓性ノ者ニ用ヒテ奏效ガ著シイ
穹窿部切除法 大イニ賞用スル人ガアル手術ハ仲々六ヶ敷シイ先ヅ穹窿部ヲ「ピンセット」

第七圖



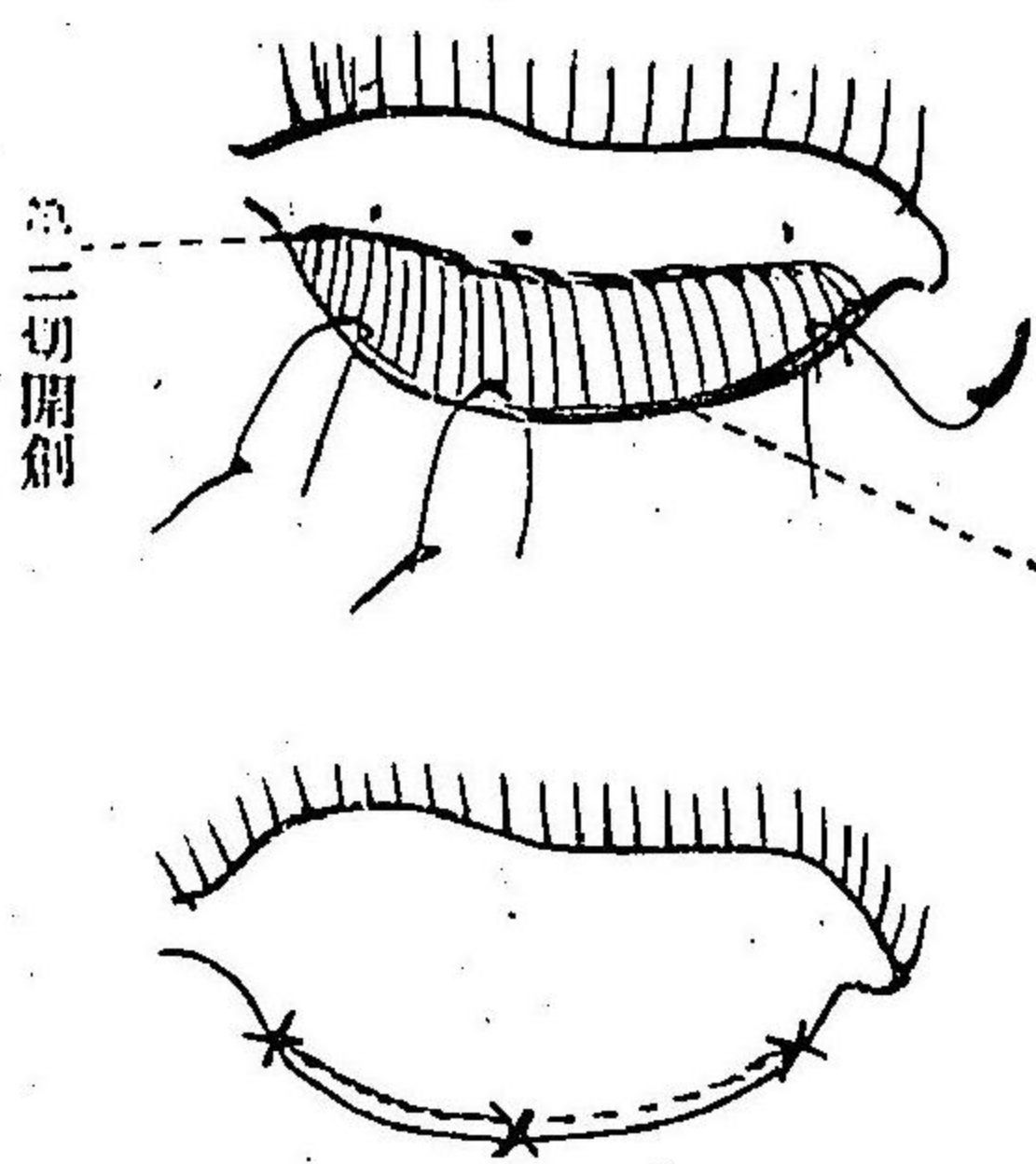
穹窿部切除術

デ高ク舉ゲ(二重繻)轉球結膜ヲ穹窿部ニ近キ所ニ於テ固定鉗子デ狭ミ眼球ヲ下方ニ壓シ(上眼瞼ニ施術ノ時)穹窿部全體ヲ克ク見ヘル様ニシテ置イテ

顆粒存在部ヨリ少シク健康部ニ這入テ結膜ヲ内眥カラ外眥ニ向ツテ圓及刀ヲ以テ切開シ上創縁ニ三糸ヲ貫キ結膜ヲ軟骨ヨリ剝離シテ後チ軟骨上縁ニ於テ同ジク内眥ヨリ外眥ニ向ヒ適宜創ヲ作ル次デ創面ノ結膜ハ刀或ハ彎剪刀ヲ以テ切除スルノデアアルガ必要ニ應ジテ軟骨ノ上縁ノ一部ヲ切除シテモ宜シイ然ル後前ノ三糸ヲ下創縁ニ貫キ克ク縫合スルノデアアル

此法ニハ種々改良シタ新法ガ澤山アル元來此法ハ新ラシイ病症デ顆粒ガ穹窿部ニ限局シテ居ル場合

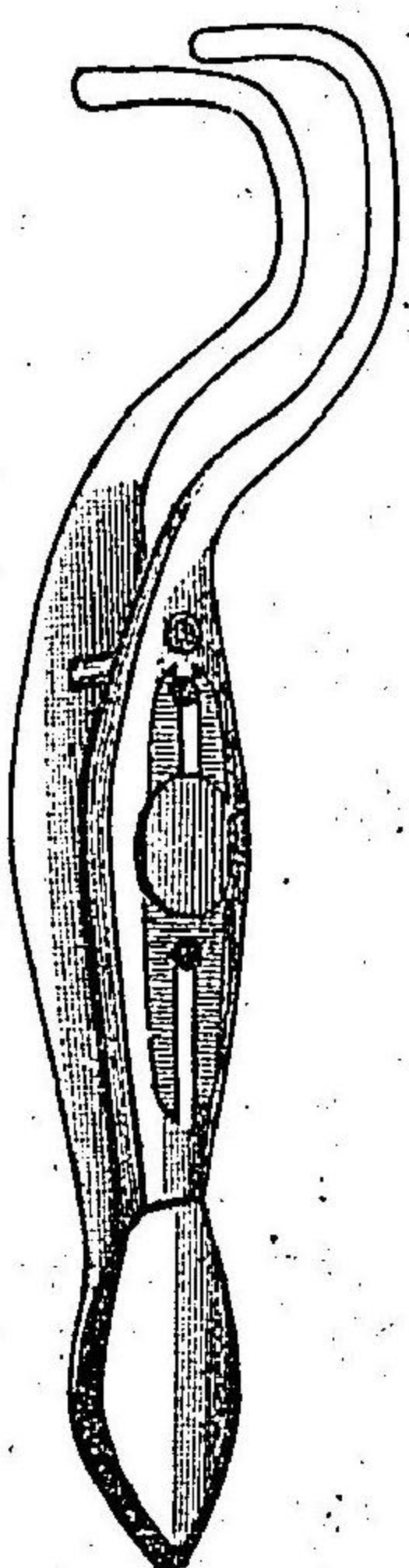
第八圖



第一切開創

ニハ宜イガ手術ノ面倒ナ割合ニ效果ガ少ナイカラ多ク用ヒラレヌ此手術ヲ主張スルモノハ病竈ノ根本タル穹窿部ヲ除ケバ自然他ノ部ニアル少許ノ顆粒ハ吸收セラル、ト云フテオ、結膜ノ肥大ガ高度デ顆粒ガ穹窿部ニ局在

余ノ内齧鑷子



シテ居ル時ニ私
ハ單ニ剪刀ヲ以
テ穹窿部ノ一部
ヲ横形ニ切除シ
テ縫合セズニ置

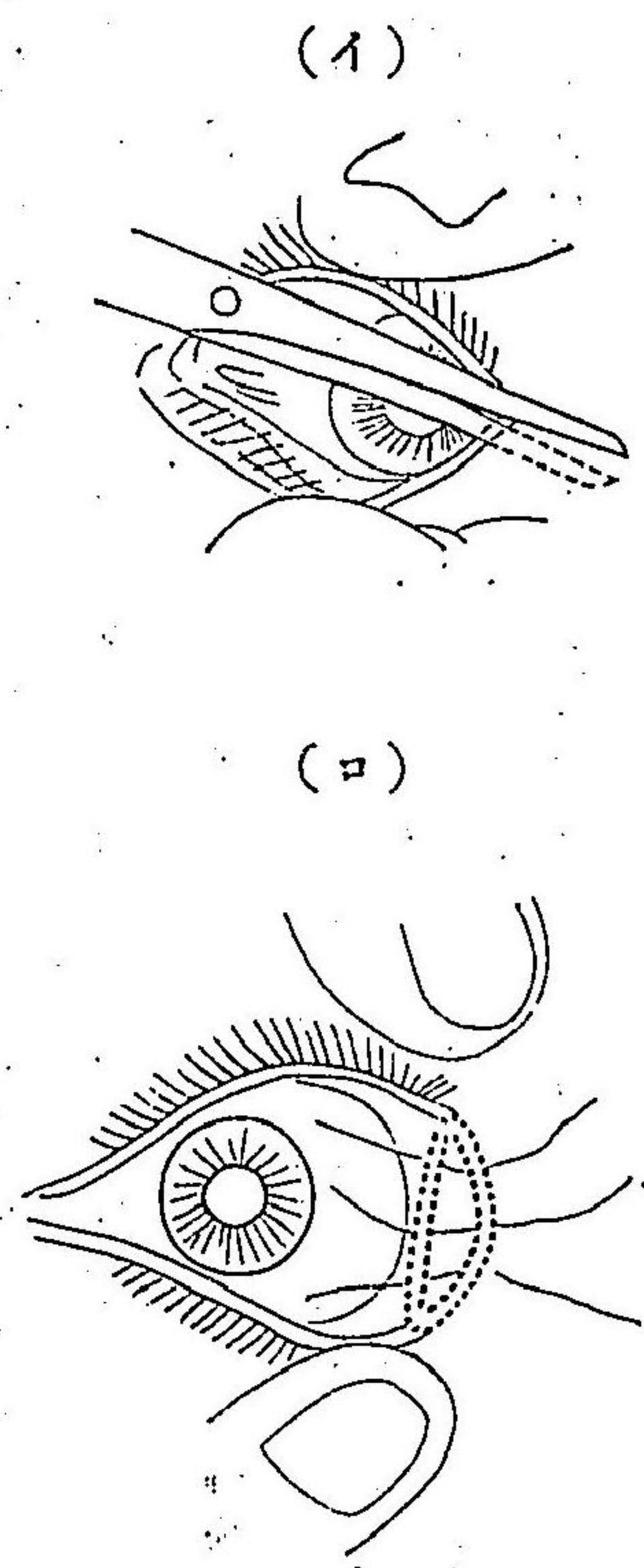
第九圖

イテ炎症ハ速カニ減退シテ、トラホームヲ全治セシメタ事ガアル
此手術并ニ穿刺、銳匙擦過等ヲ行フ場合ニハ私ハ圖ノ如キ自家ノ鑷子
ヲ用ヒテオル、極メテ簡單デ使用ニ便利デ他ノ類似ノ器械ヨリモ比較
的ニ苦痛ガ少ナイ
顆粒燒灼法、燒灼電氣或ハバクレン氏熔白金ノ尖端ヲ以テ顆粒ヲ個
々ニ燒灼スルハ其數ノ少ナイ時デ無ケレバ行ハレヌ、バクレーン熔白
金ヲ以テ結膜全面ヲ淺ク燒灼スル事ハ乳嘴肥大ノ高度ナル時ニ用ヒ
テ有効デアアル

以上顆粒壓出、壓搾、結膜擦過、燒灼等ヲ施シタル後ハ防腐性ノ冷器法ヲ行
ハシメ尙充血アル時ハ硝酸銀等ヲ用ヒ其他藥治的療法ヲ行ヒ全治ニ至

ルヲ待チテ止メルノデアアル手術ハ時ニ二回三回之ヲ反覆スルガ其ノ種
類ノ選擇ハ人々ニ好ミモアレモ其性質ト時期トニ應ジテセチバナラヌ
ノデアアル、又手術的療法ノ奏効ガ著シイカラト云フテ適症不適症ヲモカ
マハズニ手術殊ニ烈シキ手術ヲ無暗ニ反復スルハ甚ダヨロシクナイ、本
病ノ初期ノ如キ顆粒ガ小サク深ク組織内ニ在ル時ハ手術的ニ依テ容易
ニ除去スル事ハ出來ヌ若シモ強イテ行ヘバ大ナル深キ癩痕ヲ造ル事ニ
ナルガ初期ニ在ツテハ顆粒ハ随分藥治療法デ全ク吸收セラレ殆ンド癩
痕ヲ留メヌ事モアル、癩痕トラホームニ於テモ既ニ癩痕ヲ形成セルモノ
ニ手術的即チ擦過壓出燒灼等ヲ行ヘバ益々癩痕ガ大キク厚クナリ從ツ
テ其害ハ著シクナル、克ク注意セテハナラヌ點デアアル
眼瞼成形術、總テトラホームヨリ起リタル眼瞼内齧症、睫毛亂生症等ハ
眼瞼ノ切除縫合デ大低ハ治癒スルガ然シ之ヲ行フニハ將來醜貌ヲ起サ
ヌ様考慮セネバナラヌ、過大ノ皮膚切除ハ殊ニ幼年者ノ緊張セル皮膚ニ
ハ輕度ノ外、翻ヲ起シ又ハ眼瞼閉鎖ニ障害ヲ貽ス事ガアル、假令皮膚ニ許
多ノ皺壁ガアルトモ片眼ノミ滑澤トナルノモ亦タ醜形デアアル、又タ眼瞼

第十圖



ノ創ハ可成
皮下筋纖維
ノ方向ニ并
行セザレバ
創口ハ意外
ニ哆開スル
モノデア
ル

外眥切開

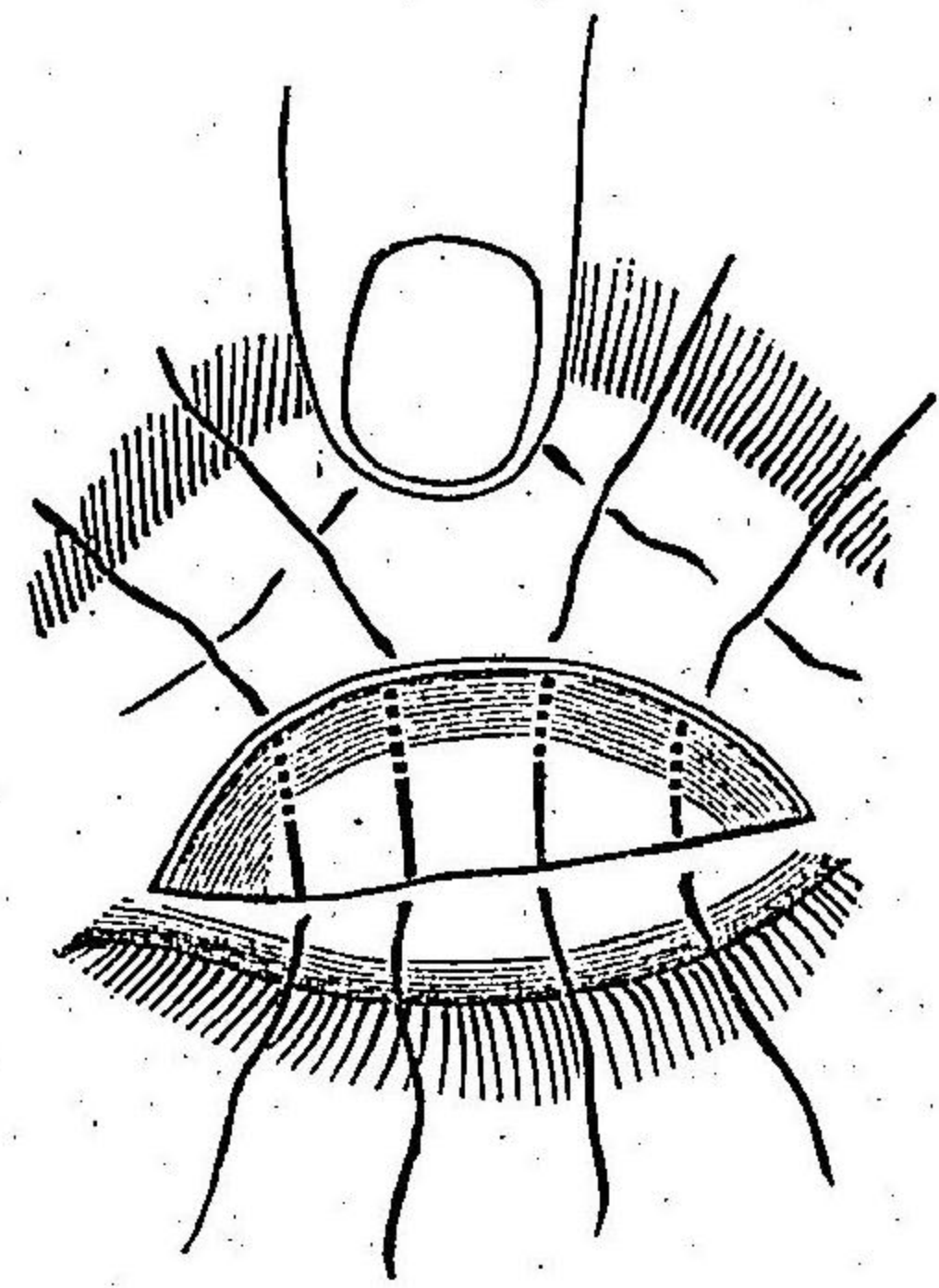
「トラホーム」後ニ於テハ屢々單ニ外眥部ノ上下眼瞼縁ノ癒着即チ瞼裂狹小症ノ爲メニ瞼縁及結膜ノ慢性炎症、内瞼症、睫毛刺戟ナドヲ起スカラ其ノ場合ニハ外眥切開ヲ行フテ諸症ヲ去ラシムルノデア
ル。外眥切開ニハ先ツ眼瞼皮膚及ヒ結膜面ヲ法ノ如ク消毒シタル後チ穹窿部ノ皮下ニ「アドレナリン」加「コカイン」水ヲ注射シ、一葉鋭尖ナラザル強キ剪刀ヲ取り鋭尖ナラザル方ヲ深ク外眥ノ結膜嚢内へ水平ニ挿入シ一頓ニ切開スレバ創ハ圖ノ如ク菱形トナル
止血ヲ待テ三、四箇所即チ外角上下眼瞼ニ於テ結膜ト皮膚ヲ縫合スルノデ

皮膚片切除

ホッツ氏法

アル縫合糸ハ四日ノ後チ除去スル此手術ハ次ニ述ブル内瞼症ニ對スル手術ト共ニ行フ事ガ屢アル
「トラホーム」ノ結果癢痕ニ因スル内瞼症ニ對シテ屢々瞼縁ニ沿フテ單ニ皮膚ノ一片ノミヲ切除縫合スル方法ガアルガ此効果ハ多クハ持續性デナイ遲キモ一二年早キハ三ヶ月ニシテ内瞼症ハ再發スルモノデア
ル。皮下輪匝筋ノ一部又ハ軟骨ノ變形ノアル時ハ其一部ヲ横楔狀ニ切除スル時ハ多少其効果ヲ奏スルモノデア
ル。ケレモ茲ニ私ノ常ニ賞用スルニニ式ヲ擧ゲテ置カウ
ホッツ氏手術法 ハ上眼瞼ニ行フモノデア
ル。法ノ如ク消毒麻醉ヲ行ヒ術者左手ノ示指ト拇指トノ間又ハ鑷子ヲ以テ上眼瞼縁ノ中央部ヲツマミ強ク下方ニ牽引シ助手ヲシテ上眼瞼皮膚ヲ眉毛部ニ於テ輕ク上方ヘ引カシメ術者ハ有腹刀ヲ取りテ内眥部角ヲ去ルニ密迷ノ部ニ刀ヲ下シ水平ニ外方ニ引キ外眥部角ヲ去ル同ジクニ密迷ノ部ニ止メル左スレバ創ハ軟骨凸縁ニ適スルノデア
ル。然ル後チ兩指又ハ鑷子ノ固定ヲ廢スレバ創ハ皮膚全層ヲ斷タレタカラ高度ニ哆開シ創面ニハ赤色輪匝筋層ガ現ハレ

第十圖



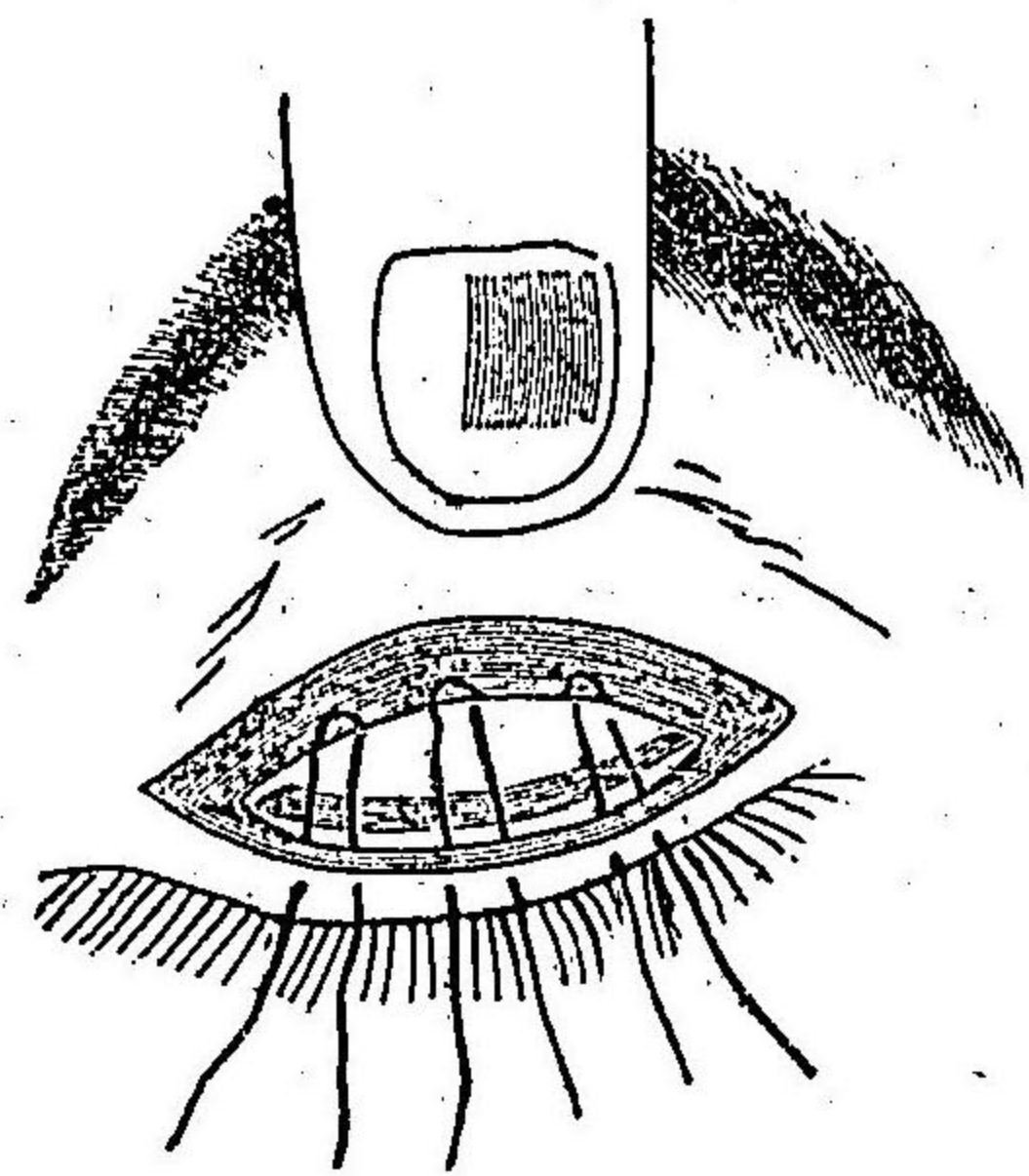
ホツツ氏法

メ之ヲ貫キ軟骨凸縁ヨリ少シク下方ニ於テ靭帶ヲ掬ヒ靭帶上部ニ刺出シ上創縁ヲ裏面ヨリ表面ニ貫キ兩糸端ヲ縫合スルノデアアル如此糸ハ三四條デ足ルガ靭帶又ハ皮膚ト共ニ筋層ヲ掬ヒ取ラヌ様注意ヲ要スルノデアアル

又ス、**ホツツ氏法** 前法ニ依ッテ充分軟骨ノ露出シタ後チ之ヲ一部水平楔狀ニ切除スルノハ圖ノ如ク行フノデ有腹刀ヲ以テ稍平ラニ上及下方ニ向ケ水平ニ引クノデアアル

ホツツ氏法

第二十圖



スチレン氏法

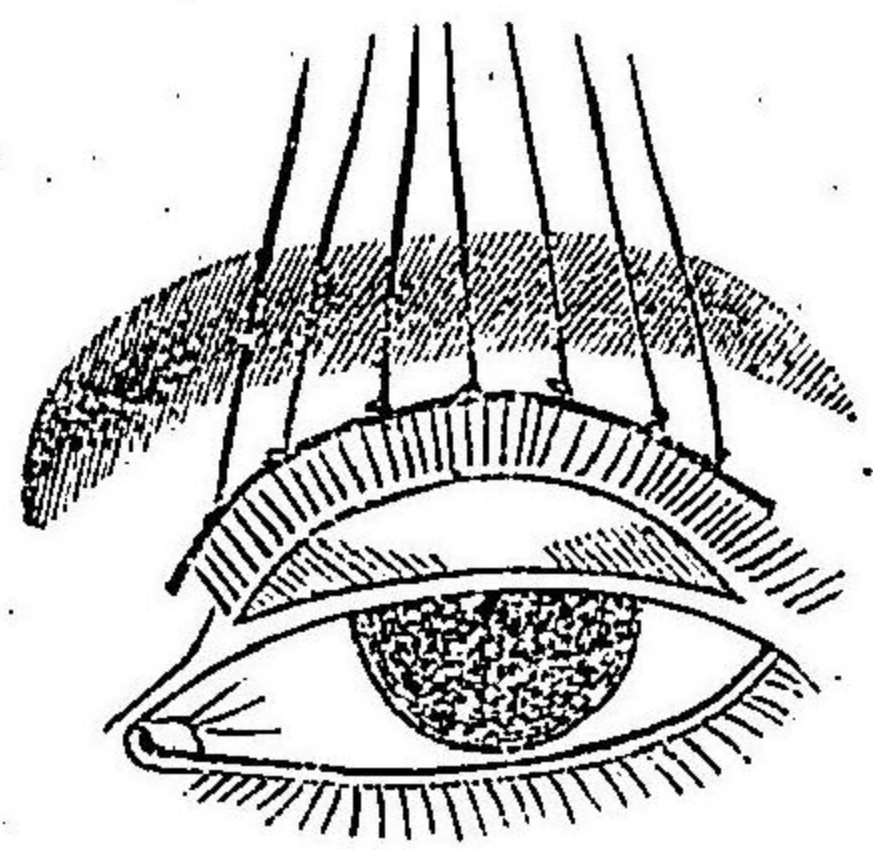
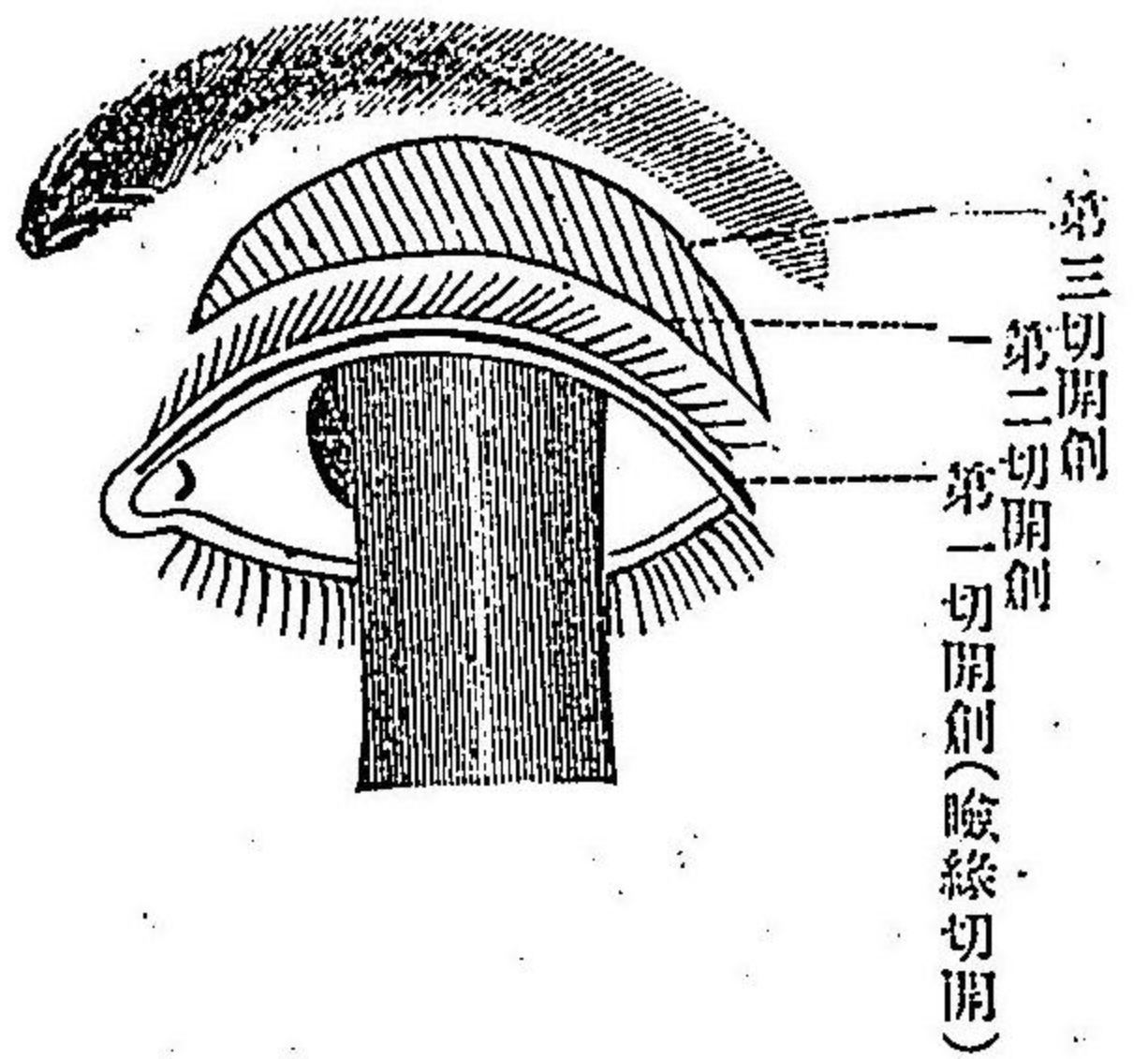
先ッ險縁切開ヲ行フニハ險球ノ間ニ角板ヲ挿入シ普通切開刀ベール氏ノ刀又ハ強キ兩鋸ヲランセットヲ取り内嚙部又ハ外嚙部ヨリ睫毛ノ後方ニ於テ險縁ヲ二葉ニ切割スルノデアアル而シテ前板ハ皮膚ト筋層デ睫毛囊ヲ伴ヒ後板ハ軟骨ト結膜ヨリ成ルノデアアル

前板ハ容易ク下板ノ上ヲ移動スル様中央部ニ於テハ四乃至五密迷引キ上ケ得ル様上眼險デナケレバ不充分デアアル掬テ險縁切開ガ充分ト見タナラバ有腹刀ヲ取り險縁ニ平行シテ之ヨリ二乃至四密迷上方ニ於テ險

スチレン氏法

療法

第三十圖



法氏トルア、エシッエイ

縁創ヨリ兩端ヲ越ユル事一五乃至二〇密迷ナル皮膚切開ヲ行ヒ而シテ後チ此皮膚創ノ兩端ヲ結合スル第二ノ皮膚創ヲ作ル此兩皮膚創ノ中央ニ於ケル距離ハ眼瞼皮膚弛緩ノ度内瞼症ノ度ニ依リ差アルモ大畧四ニ密迷トスルノデアル皮膚創ハ六一七糸ヲ以テ縫合シ絲ハ四―五日目ニ抜キ去ル、險線ノ創面ハ其儘放置スルカ或ハ皮瓣ヲ以テ植皮スルモヨイガ其術ハ甚ダ手數デアル即チ上眼瞼ヨリ切除シタル皮膚片ヲ手術ノ際ニ一時内眥部ニ溜溜セル血液ノ中又ハ温食鹽水中ニ入レテオキ手術

光線療法

X光線療法

ラヂウム光線療法

「ラヂウム」ロミット

「イオン」療法

ノ最後ニ植皮スルノダガ屢此ノ植皮シタ皮膚カラ細毛ヲ發生シテ再ビ刺戟ヲ醸シ後日此植皮瓣ヲ切除セネバナラヌコトガアル

光線療法 之ニハX光線療法ト「ラヂウム」光線療法トノ二種類アル

X光線療法 ハ現時ノ説デハ「トラホーム」顆粒ノ幾分ヲ徐々ニ吸収スル事ハ出來ルガ全治セシムル事ハ出來ヌ此ノ療法ハ疼痛モ無ケレバ惡結果モナイ癩痕ニハ更ニ効ヲ奏セヌ

ラヂウム光線療法 諸家實驗ノ結果デハ疼痛モ危險モナクテ顆粒ノ吸收ニハ効果ガアル「バンヌス」角膜浸潤等ニ對シテモ奏功スルガ再發ノ傾ガアルト云フ事デアル、輕症ノ「トラホーム」ハ治療スルガ癩痕「トラホーム」ニハ更ニ効ガナイ、然シ未タ實驗說ハ一定シナイ、兎ニ角一回ニ一二密瓦ヨリ五密瓦程ヲ用ヒ一週二回又ハ月三四回ヲ用ヒ全治迄ニハ數月ヲ要スルノデアアルカラ其ノ費用ハ莫大デアアル一密瓦ノ「ラヂウム」ロミットノ價ハ大凡二十五圓デアアル

其他「スインゼン」氏光線ヲ用ユル療法ガアルガ茲ニハ畧ス
イオン療法 ナルモノハ組織内ニ電氣ヲ通ズレバ組織液ヲ陽陰「イオン」

ニ分解スル働ヲ應用スルノデ組織内食鹽水ガ酸素ト鹽素トニ分解シ酸
素ハ飛散シ鹽酸ガ治療的作用ヲ爲スト云フ理由ノ許ニ行ハレルノデ而
シテ陽陰イオン各自ニ屬スル藥品ガアル其レヲ適宜分解シテ結膜ニ働
カセルノダガ未ダ此ノ療法ノ効果ニ就イテハ確カナ定説ガナイカラ之
モ畧シテ置ク

附 學校教員ニ「トラホーム」治療

ヲ托スルノ可否

「トラホーム」ノ治療ヲ小學校ノ教員ニ托スル事ノ可否ニ就テハ元來藥治
的療法以外ハ勿論委託スベキモノデハナイ藥治的療法ハ如何ニスルカ
ト云フ事ハ現今社會ノ問題デアアル一昨年三月頃德島縣ヨリ内務省へ伺
ヒ出テ内務省ハ文部省ト協議ノ上デ生徒ニ藥品ヲ點眼スル事ハ差支ヘ
ナキ旨ノ指令ヲ與ヘテアル該指令ノ如ク單ニ教員ヲシテ藥液ヲ點眼セ
シムル事ハ決シテ障害ハナク往々無知識ナ父兄達ガ不潔ノ手デ點眼ス
ルヨリハ教員ニ行ツテ貫ツタ方ガ遙カニ宜イノデアアル之レダケナレバ

私モ決シテ異論ハナイ又德島縣ヨリモ敢テ伺ヒ出ル必要モナイト思フ
ガ其ノ實點眼ト云フ意味ハ中々廣イノデ眼、險、ヲ、翻、シテ藥液ヲ塗布シ
或ハ藥品ヲ以テ結膜ヲ摩、撫、シ且ツ洗、滌、スルノデアアル或ハ猶一步進ンデ
ハ醫者ノ指揮ノ許ニ種々ノ藥液ヲ時ヘテ一々症狀ニ從テ治療ヲ行フノ
デアロウ先年千葉縣ノ或ル郡長カラ郡内學校教員ニ點眼洗眼ノ方法ヲ
講習セシムル爲メ專門醫員ノ派遣ヲ懇請シテ來タイガアッタガ其當時私
ハ醫者トシテノ立場カラシテ左様ノ事ハ出來ヌ強イテト云フナラ洗眼
杯ハ素人ノ行フベキ事テナイト云フ理由ヲ話サウトノ答ヘヲ爲シタガ
已ニ其ノ時ニ郡内教員へ講習ノ件ヲ布達シテ仕舞ツタソウデ其爲ニ開
業醫ヲ頼ンダソウデアアル私ノ回答モ少シ過劇デアッタカモ知レヌガ技術
ヲ重ンズル精神カラ出タノデアアル諸君ノ知レル如ク現時ノ有様デハ學
校醫ハ實際年一二回學校へ行ッテ生徒ノ健否ヲ見ルノミ而モ校醫ノ内ニ
ハ眼科的知識ノ餘リ富ンデ居ラヌ人モアルカラ斯カル醫者ノ指揮ノ許
ニト云フハ只名義斗リデアアルカラ只一度「トラホーム」ト診斷サレタ眼ニ
ハ數週十數月教員ガ勝手自儘ニ治療ヲ施ス様ニナル抑モ治療上ニ就イ

學校教員ニ「トラホーム」治療ヲ托スルノ可否

地方學校、衛生、經濟、術

獨逸國

テハ言フニ及ハズ我々醫者ノ信ズル程度ノ消毒ヤ清潔上ノ觀念ヲ非醫者ナル教員ニ要求スル事ハ到底不可能ノ事故私ハ教員ヲシテ「トラホーム」治療ヲ爲サシムル事ハ徹頭徹尾不同意デアツタ然ルニ其後段々地方ノ小學校ノ情況ヤ衛生思想又ハ經濟ノ有様ヲ見且ツ縣衛生課員部長杯ノ話ヲ聞イテ見ルニ種々事情ガアルノデ私モ一步ヲ讓ラネハナラヌ様ニナツタ此ノ事タルヤ彼ノ文明ノ中心タル獨逸國ニ於テスラモ醫師不足ノ村落ニ於テハ小學教員ニ醫者ノ嚴シイ監督ノ許ニハ「トラホーム」治療ノ一部ヲ委任シテ居ルノデアアル日本デモ現時ノ有様デハ點眼、洗眼ハ時宜ニ依リ教員ニ委ネバナラヌノデアアロウ然シ此ノ場合ニハ私ハ是非次ノ條件ヲ要求スル考デアアル

醫者ノ監督

第一、醫者ハ充分ノ監督ヲ爲サネバナラヌ一週一回少クモ二週一回ハ學校ニ臨ミ總テノ患者ヲ診察シ同學生ノ健康者中少シニテモ異常アル者ハ診察セネバナラヌ萬止ムヲ得ザル場合ニ於テハ患者ヲノ必ズ一週一回ハ學校醫ニ就イテ診察ヲ受ケシメ處置ヲ定ムル事ニセネバナラヌ第二、患者中異變アル時ハ直チニ教員ハ醫者ニ其旨ヲ告ゲ診察ヲ乞ハシ

教員ノ通告

メネバナラヌ

處置ノ視察

第三、二週又ハ一月ニ一回ハ醫者自ラ學校ニ臨ミ教員ノ患者ニ對スル處置ヲ實見シ且ツ使用セル藥品ヲ検査セネバナラヌ

校内備附藥品

第四、學校ニ備ヘ付ケノ藥品ハ少數ニ止ドメ又藥液ハ必ズ醫師又ハ醫師ハ處方ニ隨ッテ藥劑師ノ調劑ヲ要ス

教員ノ練習

第五、醫師ハ教員ニ對シ豫メ治療ノ方法ハ勿論治療着手ノ前ニ於ケル清潔法、消毒法、殺菌法等ヲ充分了解スル様教授練習セシムルヲ要ス日本ノ如キ流行地デハ只一人ノ教員ガ時ニ三四十ノ病者ヲ取り扱フノデアアルカラ教員ノ手が傳染ノ媒介ヲスル事ハ決シテ無イトハ云ハレヌカラ充分注意セネバナラヌ消毒藥中ニハ随分劇藥、毒藥杯ガアルカラ是又余程注意ヲ要スル事デアル管テ私ノ聞ケル或ル小學校デハ教室ノ一隅ニ昇汞水ヲ盛リタル器ヲ置テオルガ實ニ危險千萬デアアル元ヨリ豫メ生徒ニハ日頃其毒藥ナル事ハ示シテモアロウガ頑是ナイ小供ノ事デアアルカラ如何ナル間違ノナイト云フ事モナイ既ニ私ノ病院デ昇汞水ノ洗眼料ヲ内服藥ト間違ツテ飲ンダモノガアル又看護婦ガ昇汞水ヲ手桶ニ入レテ

藥品取締リ

學校教員ニトラホーム治療ヲ托スルノ可否

使用シタ殘分ニ杓子ヲ附ケテ室ノ前ニ置キ一寸室ノ内へ這入ツタ間ニ
 通リカカッタ患者ガ之ヲ飲用シタ事ガアル此昇水ハ二回共フクシンデ
 着色シテアッタ二回共直チニ處置シタガ何レモ大人デアッタカラ大事ニ至
 ラナンド又私ハ或ル獨逸國ノ病院デ病室ノ廊下ノ一隅ニ大キナガラ
 付キノ器ガ構ヘテアツテ毒ト大書シテアルヲ見タコレ程注意スベキモノ
 デ殊ニ相手ガ小供デアルカラ學校デハ余程注意ヲ拂ハネバ遂ニ大事ヲ
 惹起スル事ガアルカラ諸君モ治療ノ一部ヲ教員ニ托スル場合モアラバ
 篤ト此ノ邊ニ注意シテ油斷ナカラン事ヲ希望スルノデアアル

豫防

本病豫防ノ方法ハ總ベテノ傳染病ニ於ケルト同ジ事デアルケレモ前ニ
 述べタル如ク「トシテ」ノ病毒ハ未ダ不明デアルガ其傳染病デアルト
 云フ事ハ確認サレテ居ル又分泌物ガ傳染ノ媒介ヲ爲スト云フ事モ分ツタ
 ノデアアルカラ豫防法モ他ノ傳染病ニ於ケルト少シモ違ハヌノデアアル患
 者ノ用ウル器殊ニ洗面器手拭ノ類ハ直接ニ局部ニ觸レルモノデアアルカ

洗面器手拭

ラ特別注意セテバナラヌ

故ニ豫防ノ第一着トシテハ洗面器手拭ハ患者ノ専用トセテバナラヌ高
 價ノモノデア行ハレヌカラ私ハ成ル丈ケ廉價ノモノデ瀬戸引ノ金盥ヲ
 用ウルノガ宜シイト思フ又其ノ金盥中ニ漆デ大キク患者ノ名前ヲ書イ
 テ置クカ或ハ見易キ印ヲ附シテ他人ノ使用セヌ様ニスル手拭モ亦其ノ
 通りニスル近頃大分西洋手拭タオルヲ用ウル人ガアルガ私ハ從來ノ日
 本手拭ガ宜シイト思フ其ノ譯ハ第一乾燥シ易イ使用後擲ケテオケバ三
 四時間デ充分ニ乾燥スル乾燥スレバ大抵普通ノ細菌ナレバ傳染ノ勢力
 ヲ失フ第二在來ノ日本手拭ニハ種々ノ模様ガ畫イテアツテ決シテ使用ノ
 爲メ消退セヌカラ期セズシテ所有者ノ目印ガ附イテオル又經濟ノ點ヨ
 リスルモ價ガ廉デ且ツ長ク使用ニ耐ユルカラ利益ガアル然シ之等ハ一
 定ノ場所ニ置キ健康者ノ物ト混同セヌ様注意ヲ要ス殊ニ病眼ニ分泌物
 ノアル場合ニハ一層嚴重ニ取り締リ手拭洗面器ノ外總ベテ患者ノ所持
 品使用品ヲ別ニサセネバナラヌ寢具杯モ特別ノ場所ニ置キ可成ハ居室
 ヲ別ニスルガ宜シイガ然シ之ハ中々六ケシイ器具ダケスヲ別ニスル事

寢具、居室

豫防

モ容易ニ行ハレヌ事デアアル之ガ他ノ傳染病ニ於ケルガ如ク一ヶ月二ヶ月デ濟ム事ナラバヨイガ本病ハ先ツ多クハ一年二年カ、ルカラ其ノ間ノ別居別投ハ中々難イ事ナレモ出來ルダケハ行フテ患者ノ自體殊ニ顔面手指並ニ衣服所持品ヲ清潔ニシ衣服ハ屢々日光ニ洒シテ消毒シ速カニ適當ノ治療ヲ施ス事ヲ獎勵スルノガヨイ、其他學校生徒杯ニ對シ細キ注意ハ夫レソレ當局者ガ行フカラ細カイ事ハ略シテオク

傳染ニ就テ最近諸家ノ說ハ「トラホーム」ハ特別理由ノ存スル外學校傳染ニ依ラズ家族傳染デアアルト云フテ居ル、寄宿舎、兵營等ニ於ケル流行ハ家族傳染ト認ルガ至當デアアル故ニ専ラ家族傳染ヲ豫防セテバナラナイ、然ルニ私ノ考デハ普通日本ノ家庭ハ從來ノ慣習カラ衛生思想ノ程度ヤ、又生活狀態ニ於テ完全ノ豫防法ハ到底遂行シ能ハヌト思フ、出來ヌ事ヲ「八ッ釜マシク云フヨリモ早ク一般人民ノ腦裡ニ「トラホーム」ハ斯ク々々ノ恐ルベキ病氣デアアルト云フ觀念ヲ注入スルノガ第一ノ必要點デアアル、又斯ク斯クノ場合ニハ容易ク傳染スルト云フ事ヲ良ク解得サスルガ我々ノ急務デアアル、其ノ上ハクド〜云ハズトモ患者及周圍ノ人ハ自分カラ進

ンデ其豫防法ヲ講ズルニ相違ナイト思フ、要スルニ清潔ト云フ觀念ヲ強ムル事ガ豫防法ノ基礎ニナルデアアル、一例ヲ舉グレバ私ガ昨年青森縣ニ行ッテ見タガ同地方ノ多クハ山間ノ僻地ガ多ク、馬ノ本場デアアルカラ馬ハ隨分大切ニ取り扱ッテ居ルガ衛生上ノ觀念ハ極メテ幼稚デ單ニ町村小學校ノ生徒ヲ診檢シタノミデモ良クワカル「トラホーム」患兒ハ他縣ニ比スレバ甚ダ多ク統計上同縣人ノ「トラホーム」數ハ全國ノ一二位ヲ占メテオルト云フ事デアアル、同縣三戸郡長ノ談話ノ一節ニ面白イ例ガアル

同郡八戸町ト云フハ縣下第二ノ都會デアアルガ其處カラ三里程ノ山間ニ猿邊村字貝守トテ縣下第一ノ不潔地ガアル然ルニ今カラ廿餘年前川森田良爾ト云フ先生ガ其ノ小學校長ニ赴任シテ村内ノ不潔不整備殊ニ小學兒童ノ甚ダ不潔ナルニ驚イタ、勿論兒童許リデハナク冬期ハ大人デモ殆ンド入浴セヌト云フ事デアッタノダ、同氏ハ赴任後直チニ清潔法ヲ講ジ先ッ校舎ノ一室ヲ改造シテ浴場ヲ設ケ、毎土曜日ノ放課後ニ生徒ニ當番ヲ定メテ風呂ヲ焚カシメ順次入浴サセテ歸ス事ニシタ所ガ後ニハ生徒ノ家族達モ入浴ヲ希望シ來ル様ニナリ、從ッテ一般ニ清潔

ノ觀念ガ盛シニナリ一昨年ノ小學兒童ノ體格檢査ニハ同校生徒七十餘名中「トラホーム」患者只二名ニ過ギナカタ、日露戰役ニハ僅々八十戸ニ充タヌ同地カラ七人ノ殊勳者ガ出タノミナラズ、最近十四年間ニ人ノ犯罪者モ無カタト云フ事デアル、其レ故ニ今モ同地方デハ川森田氏ノ德ヲ懷ヒ毎年々末ヲ期シテ師恩會ヲ開イテ氏ノ爲メニ盛宴ヲ張ルソウデアアル之ハ只一例デアアルガ美談デアアルカラ煩ヲ厭ハズ舉ゲタ次第デアアル

學校内注意

扱テ家庭ノ注意モ必要ダガ學校側ニ於テモ必ズ怠ル事ハ出來ヌ學校内デハ隨分嚴格ナ豫防法モ行フ事ガ出來ルカラ學校ニ於ケル注意ヲ極ク簡單ニ云フテ見レバ

- 第一「トラホーム」デ分泌物ノアル患生徒ニハ斷然登校ヲ禁ズル事
- 第二、分泌物ガ止マテ傳染シナイト云フ醫者ノ證明ガアツタ時ニ至ツテ登校ヲ許ス但シ椅子、机ハ別ニシテ特ニ別席デ授業スル事
- 第三、患生徒ノ使用スル器具ハ健康生徒ノモノト混同セヌ様ニスル事
- 第四、患生徒ヲ共同遊戯ニ加ヘザル事

- 第四項ハ中々行ヒ難イノミナラズ、此ノ事ガ兒童ノ精神發育上如何ナル影響ヲ及ボスカハ教育家ノ一問題デアロウ、兒童ヲ最モ樂シムトシテオル共同遊戯ニ加ヘズ汝ハ眼病ダカラ遊戯ヲ止メヨ、他生徒ト一所ニ遊ブナト云フタラ面白カラヌ一種ノ感情ヲ起スニ相違ナイ、然ルニ心身共ニ大切ナル發育時期デアアルカラ遂ニ「トラホーム」ノ豫防ハ出來ルガ變ナ人間ガ出來ハセヌカト思フ、又或ハ自然本病ヲ隱蔽シテ初期ニ於ケル治療ヲ障グル事ニナリハヒマイカ之等ハ我々が直接關係スル事デナイガ注意ヲ要スル事ト思フガ故ニ寧ロ可成兒童ノ密接セヌ様ナル遊戯ヲ撰ム方ガ宜シイト思フ
- 第五、小供ヲ診察シテ其ノ容體ヲ父兄ニ報告スル事
- 第六、「トラホーム」ノ生徒ノ家ニ就イテ其ノ家族ヲ檢診シ且ツ其ノ撲滅ヲ勸誘スル事

以上五六項ノ外ハ一般傳染病ノ豫防ニ就イテノ注意デアアルカラ茲デハ畧シマス
 學校生徒ノ事ニ就テハ私ハ主ニ歐羅巴ノ書物ニ依ツテ述ベタノデ歐羅

報告

巴デハ日本ノ様ニ患者ガ多クハナイカラ生徒百人ノ内二三人モアレバ大騒キラスル然ルニ日本デハ多キハ五十%以上モアルカラ之レト同一ニ論ズル事ハ出来ヌガ併シ豫防法ノ土臺ハ同ジコトダカラ其ノ土臺ニ則リ夫レカラ先キノ細目ハ諸君ガ適宜ニ定メラル、カ宜シイ一般豫防法ニ就イテ特ニ必要ノ一二點ヲ述ブレバ先ツ八種傳染病ノ如ク「トラホーム」罹病者ヲ當局ニ報告スル事デア
此ノ事ハ容易ノ様ナレモ日本デハ患者ガ人口ノ何十%ト云フ多數デア
ルカラ到底一々之ヲ報告スル事ハ出来ヌ、集メテ統計ヲトツテヤルト云フ位ノ事ハ出来ヤウ此ノ事ハ豫防上ニハ直接役ニ立タ、ヌガ出来ルナラ左様シタイモノデア
總テ豫防法ヲ勵行スルニハ我々醫者ト官當局者ト共同一致シテ仕事ヲセネバ出来ヌ、又此ノ間ニハ隨分實施ニ當ツテ見ルト實地醫者ノ云フ所ト役人ノ卓上論トハ數々意見ノ合ハヌ事ガアル、衛生課杯ノ人ハ醫者ノ事モ隨分知ツテ居ルカラ宜シイガ夫レデモ時々衝突スル事ガアル、其ノ外ノ役人ハ全ク素人デア
ルカラ隨分無理ナ事ヲ云ツテ居ル否無理デナクモ規則ニ依ツテ處理スルノダカラ兎角實地ニ

民間醫者ト當局者

講習

演説

合ハヌ事ガアル、又民間側デハ何事モ御上ノ定メタ事ニ反對スルヲ偉イ者ノ様ニ考ヘル傾モアル、何レニセヨ喧嘩ヲシテハ仕方ガ無い、互ニ熟議シテ成績ヲ擧ゲタイモノデア
次ニハ「トラホーム」ノ講習デア
ル之ハ日本デハ近頃始ツタノダガ歐羅巴デハ餘程以前カラアル、傳染病ノ流行ニ際シ其ノ都度盛ンニ其ノ疾病ニ就イテ講習ヲ催スノデア
ル、講習ニハ新シイ事實モ話スノダガ多クハ既ニ成書ニアル古イ知レキツタ事柄ヲモ話スノデア
ル、之ハ講習ヲ受クルモノガ書物ヤ雜誌デ調ヘルヨリハ便利デ殊ニ開業シテ多忙ナ實地醫者ハ非専門醫ニハ書物ニ就イテ取り調ベル暇ガナイ、旁々至極便利ナモノデア
ルカラデア
ル
次ニハ衛生演説即チ素人ノ講習デア
ル之ハ素人ヲシテ病ノ危険ナル事其豫防法等ヲ解得セシムル唯一ノ手段デ最モ大切デア
ルケレモ、衛生演説ト云フ事ニ就イテハ世間ノ様子ヲ見ルトドウモ普通ノ人ガ演テハ聽衆ガ澤山ニ集マラヌ故ニ有名ナ大家ヲ遠方カラ招聘シテ、多數ノ聽衆ヲ集メル事ニ盡力シテ居ル之ハ結構ナ事デア
ルガ、私ノ考デハ敢テ偉大ナ

人ヲ呼ンデお祭り騒ギヲシナクトモヨイト思フ、専門大家ヲ遠方カラ招
イテ來テ素人ノ前デ専門ノ話ヲ聞ガセテモ左シタル効用ハ無カロウ、專
門大家ガ自家ノ研究シタ事ヲ演説シタ所デ素人ニハ少シモ判ラズ、要ス
ルニ欠伸ノ種子ノミ素人ニハ平易ニシテ判ル話デナケレバナラス、通俗
デ判リ易イ話ナレバ誰ニデモ出來ル何モ専門大家ノ必要ハナイ、故ニ長
ク其ノ地方ニ居住シテ其ノ地ノ風俗、習慣等ヲ熟知シテ居ル人ガ何等カ
ノ方法デ(一度お祭り騒ギヲスル費用デ)二度モ三度モ、其ノ土地ノ老人小
供ニ至ル迄ヲ集メテ親切ニ話ヲシタナラバ寧ロ其方ガ餘程利益効果ガ
多イト思フ、其他通俗講話ノ一種トモ云フベキ所謂衛生相談人ナルモノ
ヲ置イテ素人ヲ導ク方法モ甚ダ面白イト思フ、即チ一町一村又ハ數村通
ジテ一人ノ相談人ヲ置イテ時々受ケ持チ區内ヲ巡回シテ、最寄ノ便宜ノ
所ニ於テ適當ノ場合ト認メタラ直チニ講話ヲ始メル事ニスル、或ハ不潔
ト見ヘタ家ガアツタラ立チ寄ツテ煙草話ニ直接、間接ニ其衛生上ノ不利
改良法ヲ話シテ注意ヲ促ス事モ至極宜シイト思フ、外國デハ産婆カ此
ノ役ヲ兼テ居ル所モアルソウダ

衛生相談人

終リニ政府及民間ノ當局者ニ望ム事ハ種々アルガ第一ニ此豫防ノ事ニ
ハ費用ヲ可成餘計ニ出シテ貰イタイノデアアル、金ガナケレバ到底充分ノ
事ハ出來ヌ、金ト云フ事ニ就イテハ日本デハ他ニ出費ガ多イカラ防疫、
事、杯ニ多額ヲ支出シテ吳レヌガ普魯西亞杯デハ先年同國東北ノ一小部
分ニ「トラホーム」ガ流行シタ時ニ政府ハ直チニ三十萬マルク(十五萬圓)ノ
支出案ヲ議會ニ出シテ議會ハ直チニ可決シタ事ガアル、猶現今ニ於テハ
二人ノ大家ヲ選ンデ「トラホーム」ノ病原ヲ研究スル事ヲ命ジ莫大ノ費用
ヲ支出シテ居ル、又枝葉ニ涉ル様ダガ今カラ十年程前ニ獨逸デ全國ノ人
口ガ六千萬以上ノ内デ僅々十八人ノ癩病患者ガアッタタメ、政府ハ萬國癩
病會議ヲ召集シテ其撲滅方法ニ就テ攻究ヲシタ、其ノ費用ハ莫大ナモノ
デアアル、此ノ萬國會議ニハ皇帝ガ御自身出御ニ成ツテ參會者ニ丁寧ナル
御挨拶ト、饗應ガアツタ僅カ十八人ノ患者ニ對シテスラ夫レ程ニ力ヲ入
レテ居ル、然ルニ日本ハ今日如何カト云フニ一昨年初メテ脚氣病調査會
ヲ置クト云フ様ナ事デ、財政上ノ關係カラ止ムヲ得ヌノデアロウガ政府
モ出來ル限リヲ盡シテ、議會デモ充分骨ヲ折ッテ貰イタイノデアアル、云フ迄

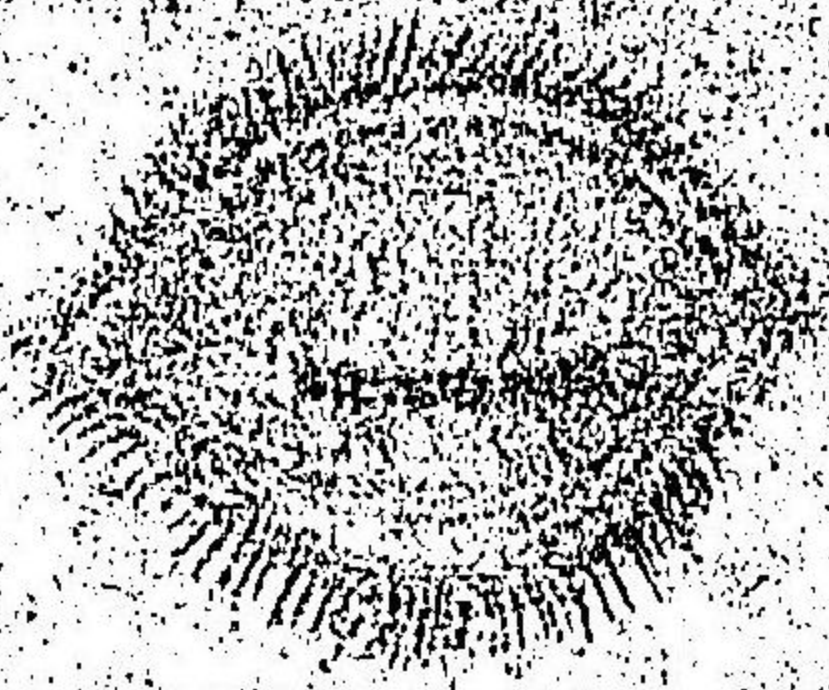
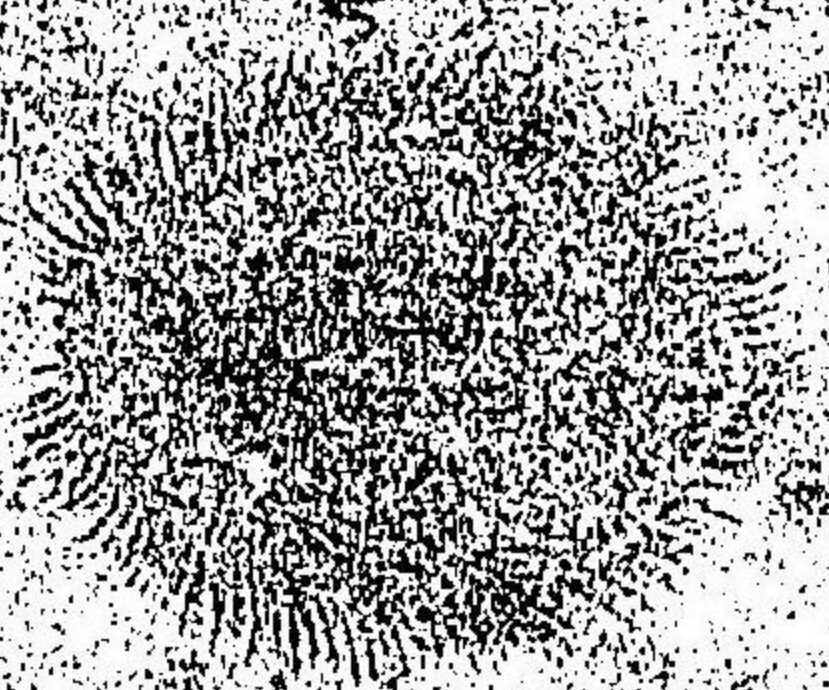
モナイガ吾々モ醫者トシテ十二分ニカヲ竭シテ此トラホームヲ迅速ニ撲滅セシバナラヌトトラホームノ多クアル國ハ野蠻國デアアル即チトラホーム患者ノ數ヲ以テ其ノ國ノ文明ヲトスルコトガ出來ルト言ハレテアル位デアアルカラドウカ日本ニモ早クトラホームノ跡ヲ絶チタイモノデアアル

近世トラホーム講話終

第一圖

第四圖

第一圖

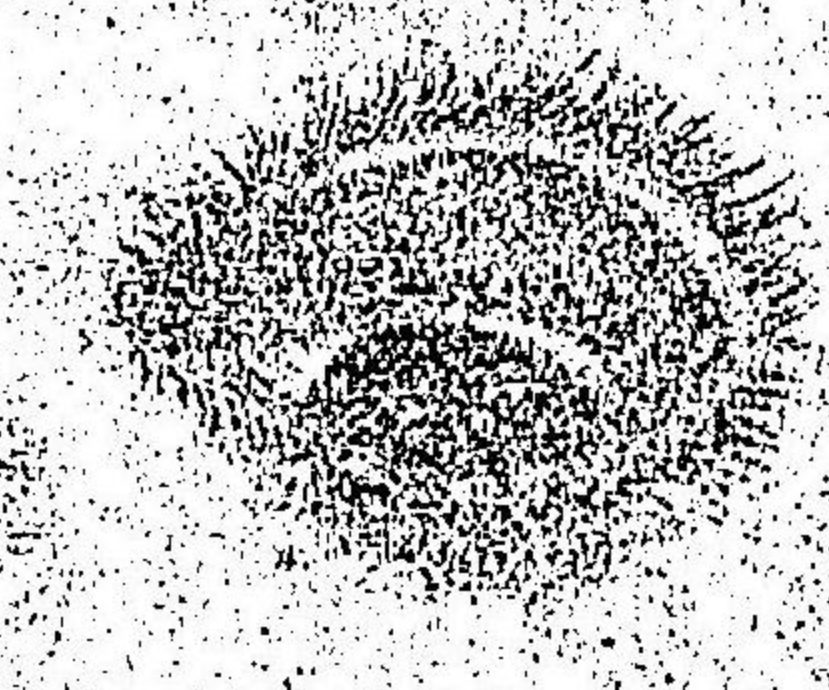
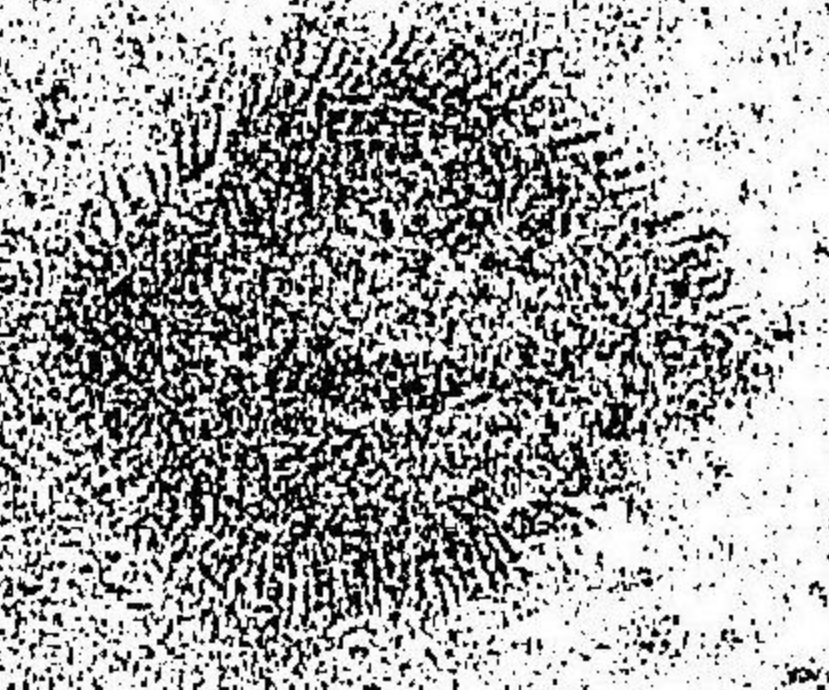


第一圖下標

第一圖結晶

第五圖

第二圖

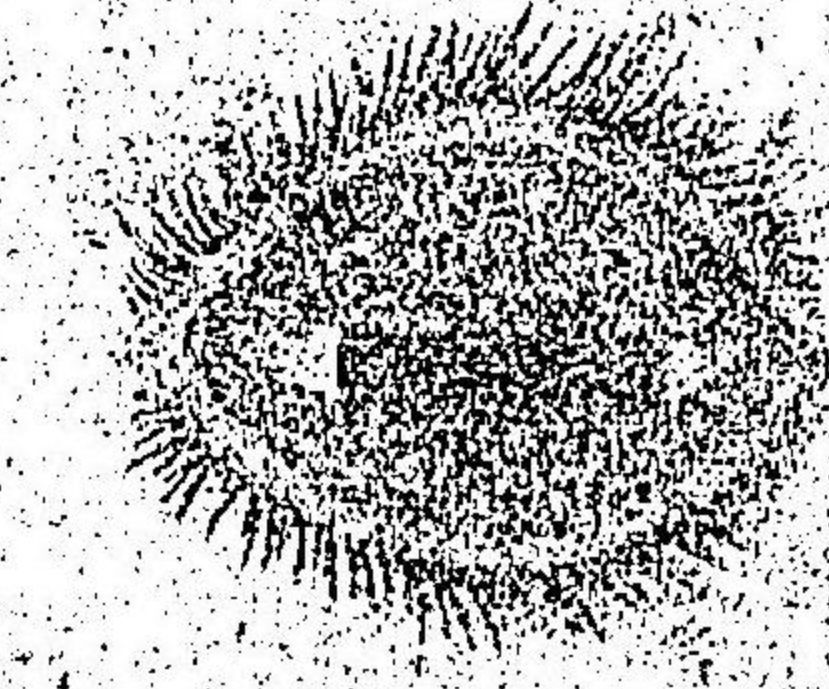
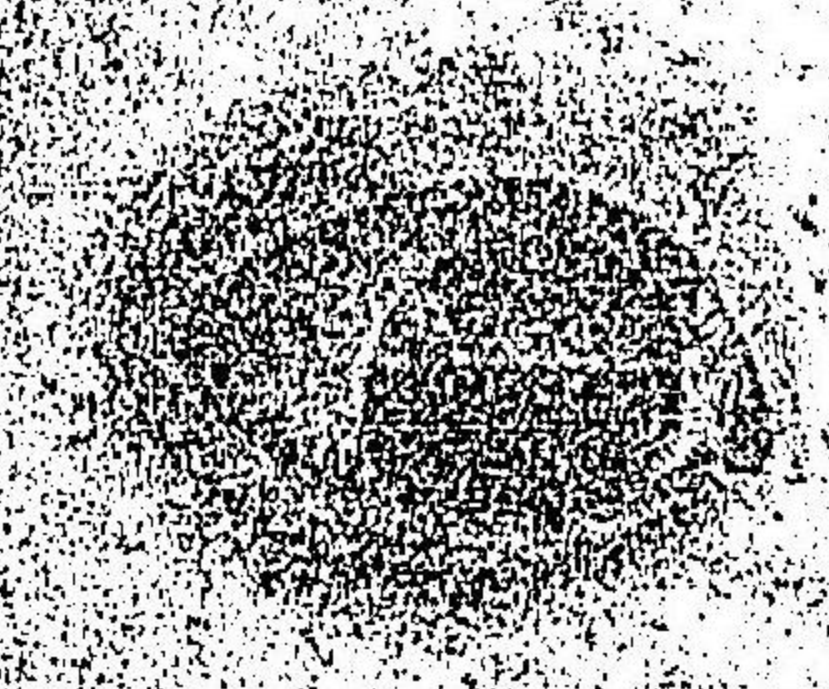


第三圖上標

第一圖上標

第六圖

第三圖



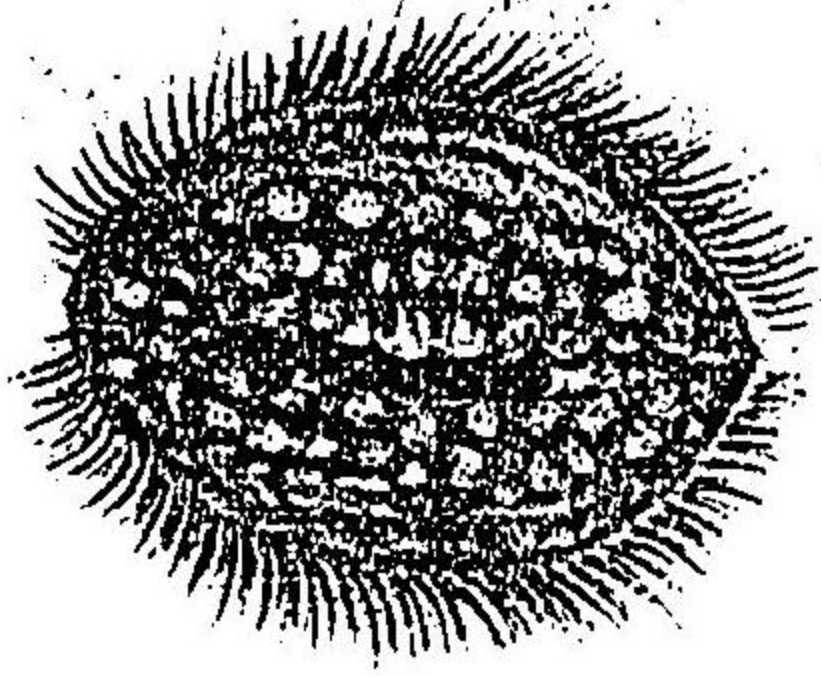
第三圖下標

第二圖下標

第一圖下標

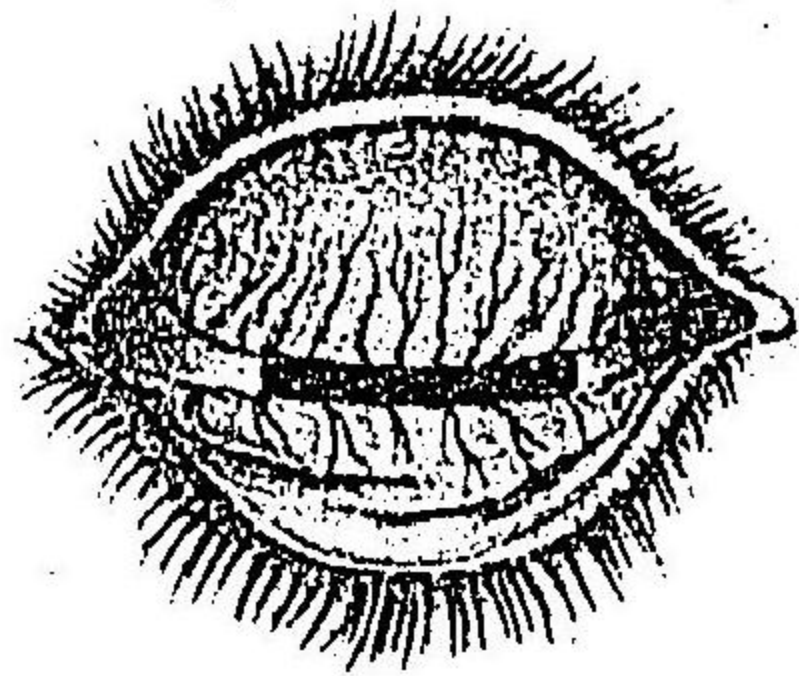
表 一 第

圖 四 第



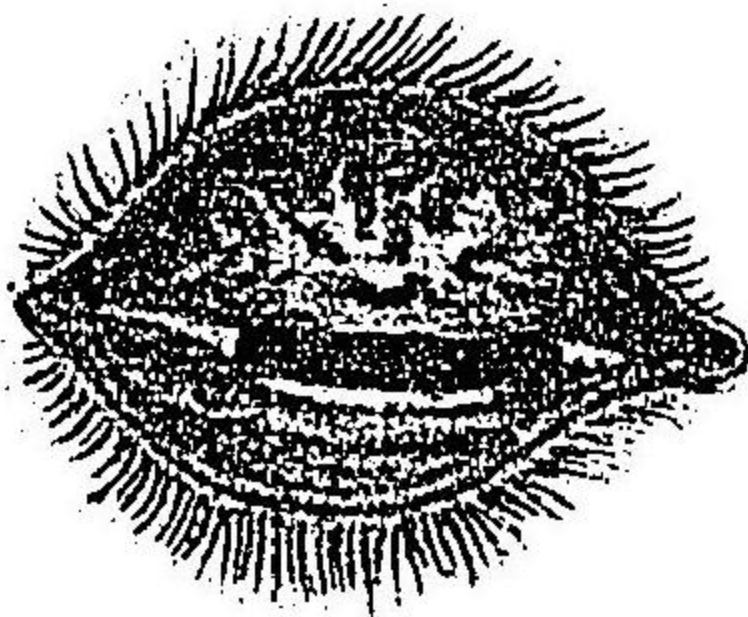
ムーホラト様膠

圖 一 第



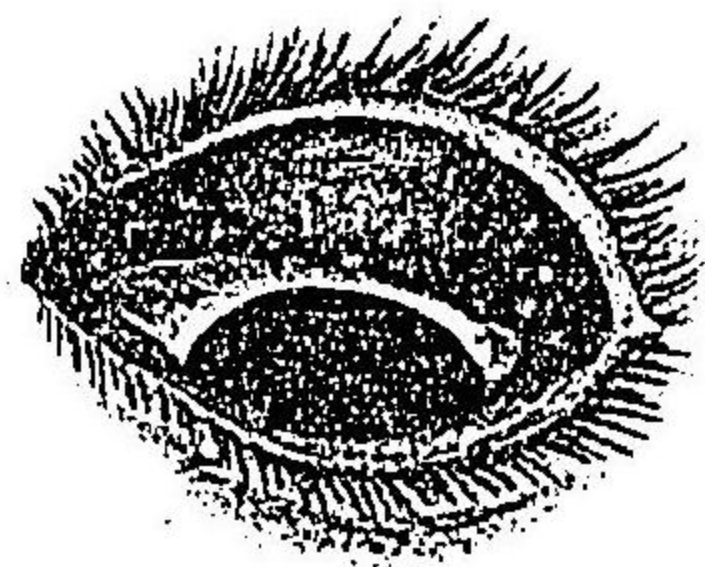
膜 結 康 健

圖 五 第



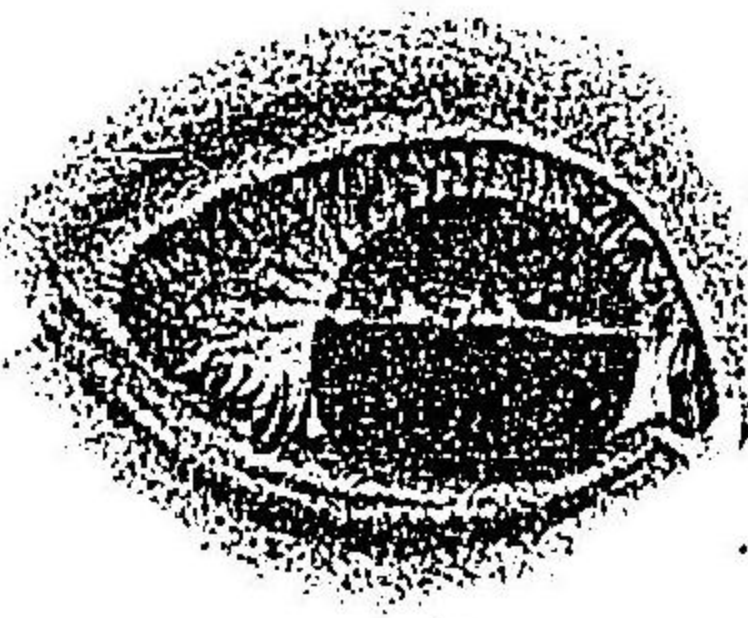
期 三 第 ムーホラト

圖 二 第



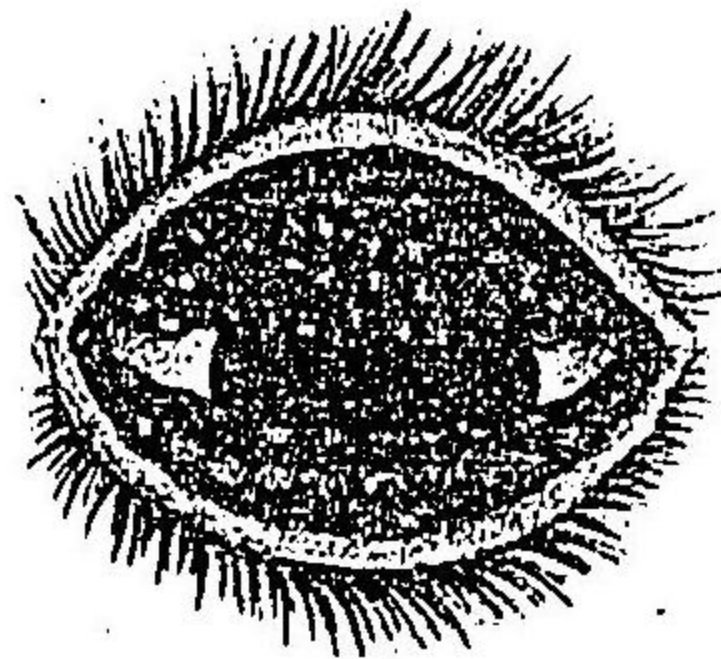
期 一 第 ムーホラト

圖 六 第



スノンバ性 ムーホラト
症 小 狭 裂 眼 ・ 症 障 内

圖 三 第



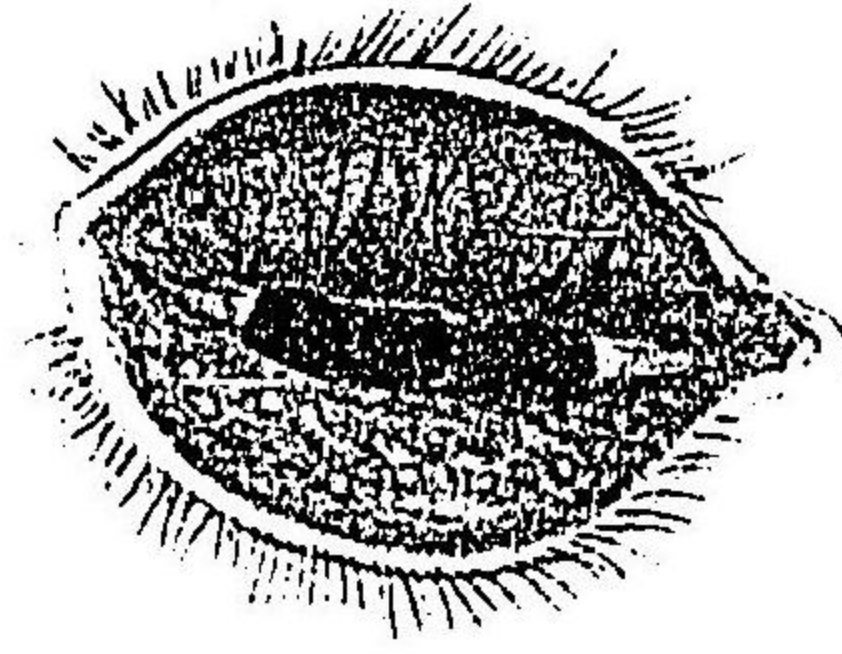
期 二 第 ムーホラト

近 世 ト ラ ホ ー ム 講 義 終

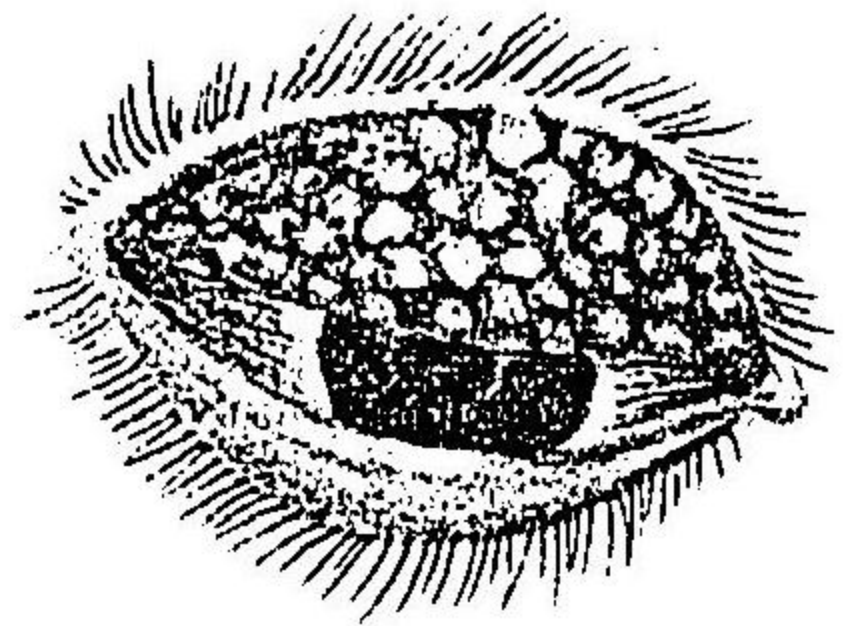
モナイリガ内々モ爾者トシテ十二分一ガヲ竭シテ此トヲホトムヲ迅速ニ
 撲滅セキニナラヌトラホームノ多クアル國ハ野蠻國デアアル即チトヲホ
 一ニ患者ノ數ヲ以テ其ノ國ノ文明ヲトスルニトガ出來ルト言ハレテオ
 ル位ニアラカラドウカ日本ニモ早クトヲホームノ跡ヲ絶チヌイモノテ
 アル

第 二 表

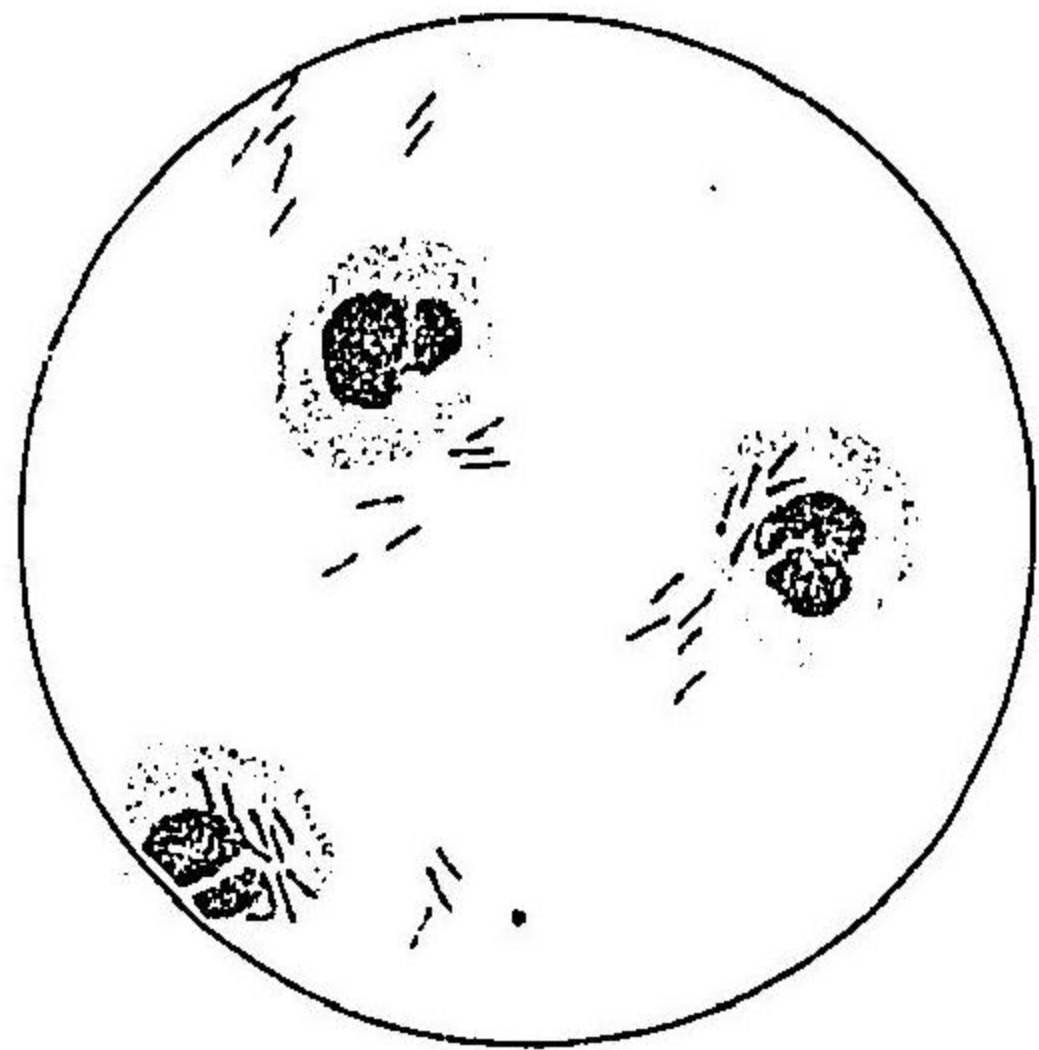
第一圖
濾泡性結膜炎



第二圖
春季加答兒



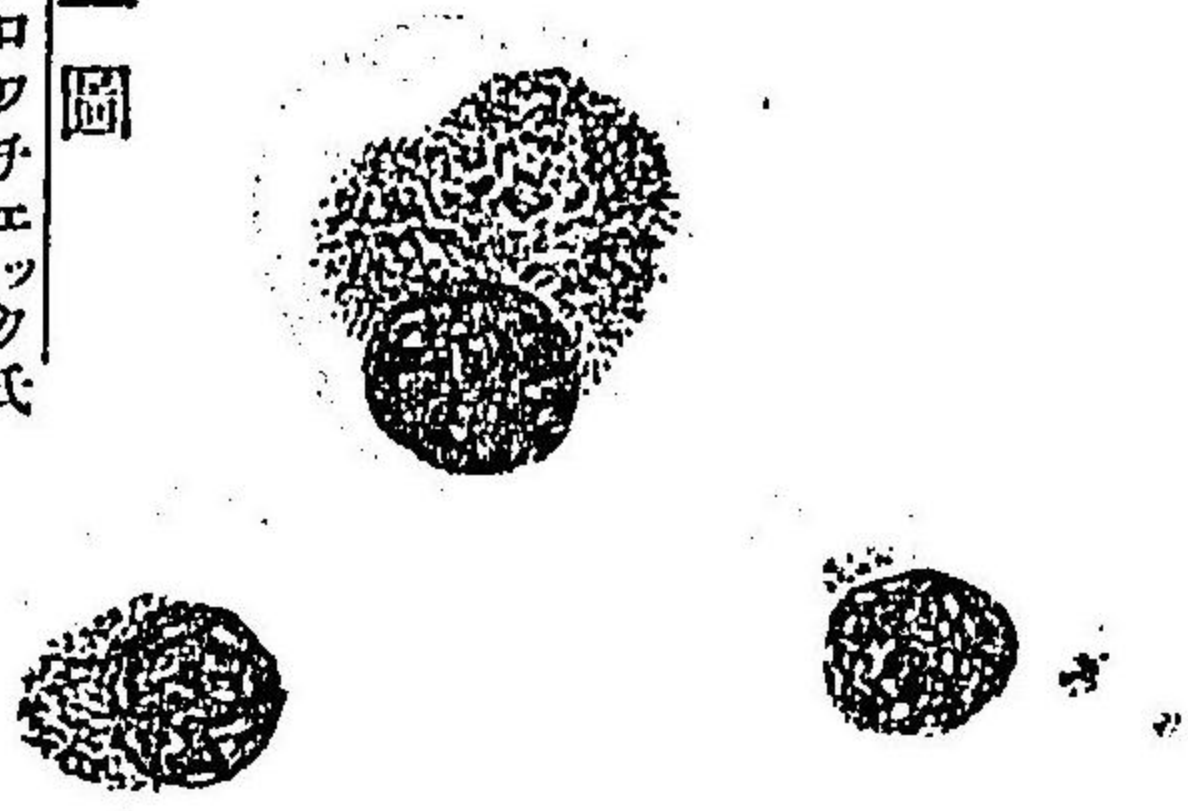
第四圖
コッホ、ツァーグ氏
急性結膜炎菌



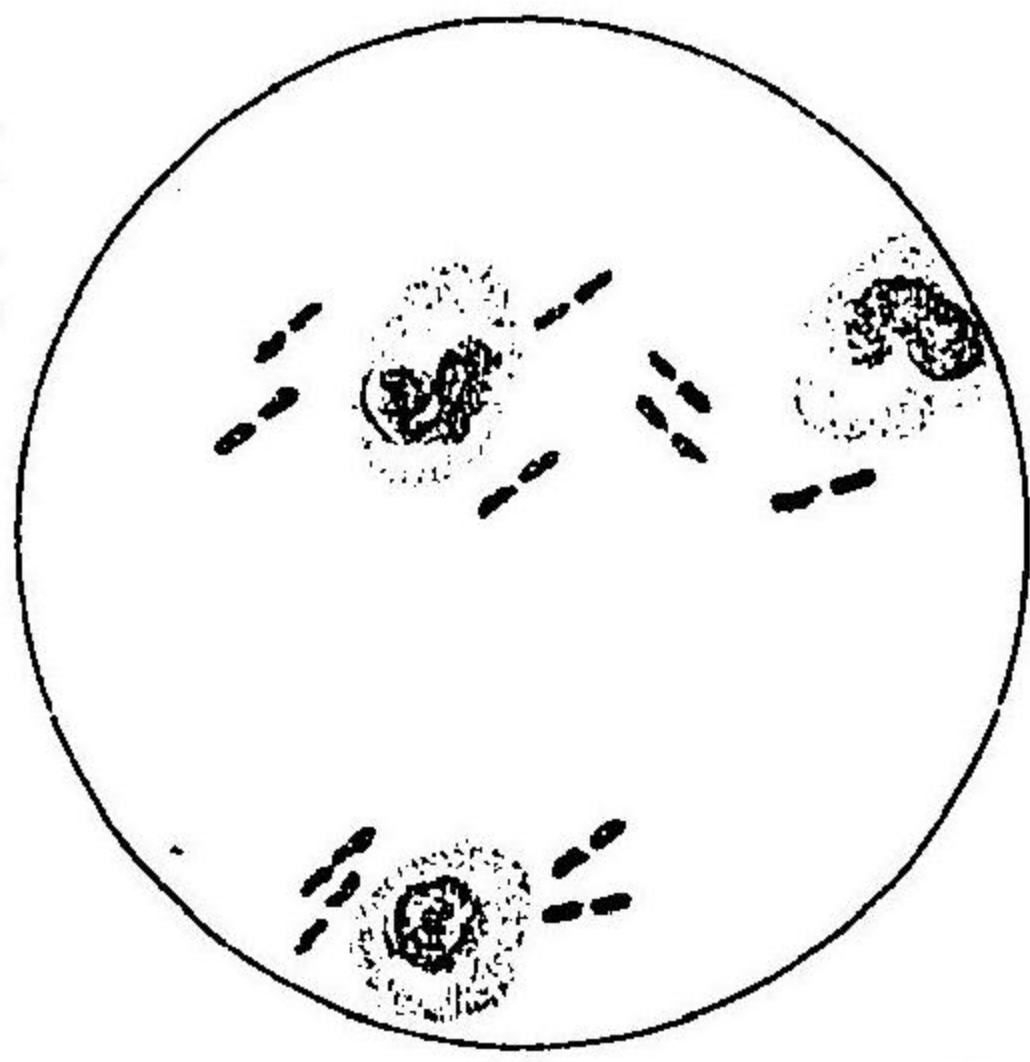
第六圖
肺炎菌



第三圖
プロワチエック氏
トラホーム小體



第五圖
モラー、アクセンフェルド氏
重桿菌



第七圖
淋毒球菌

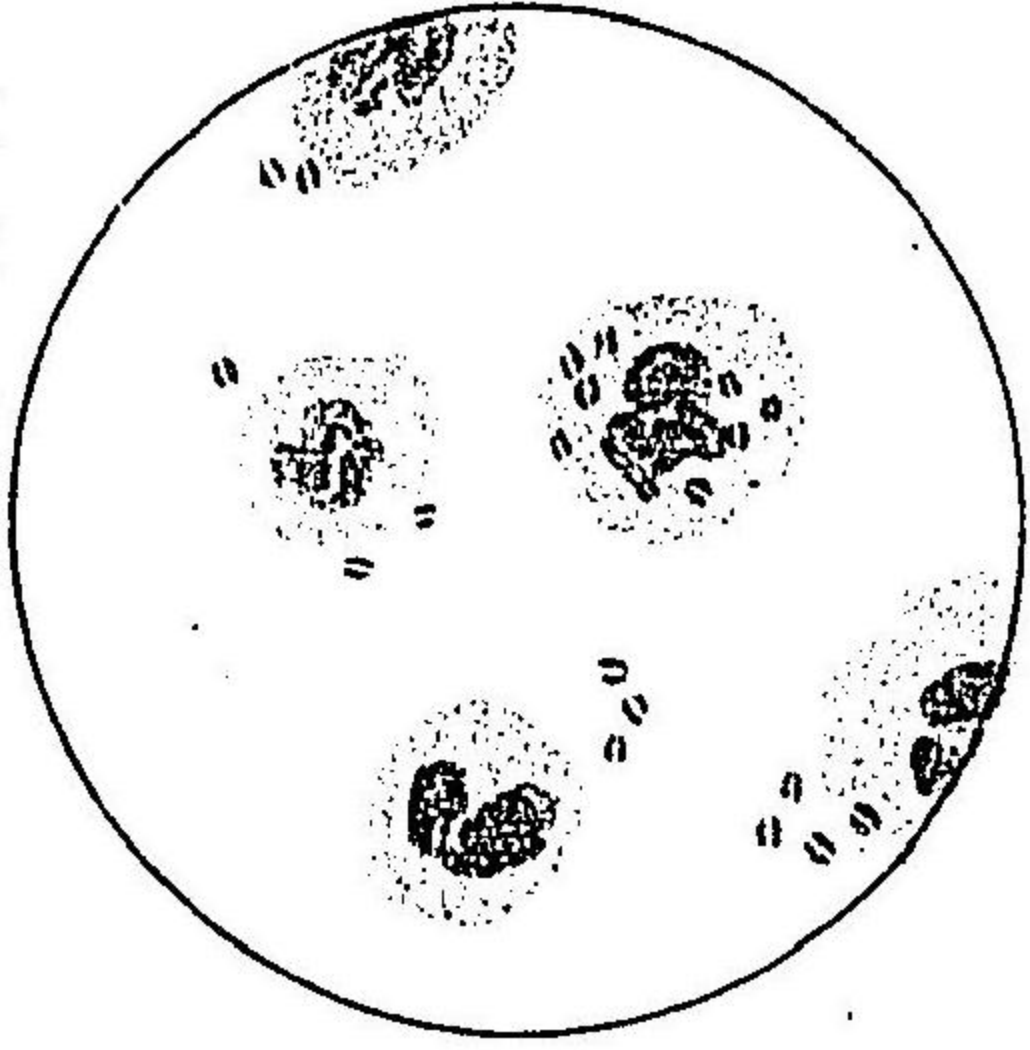
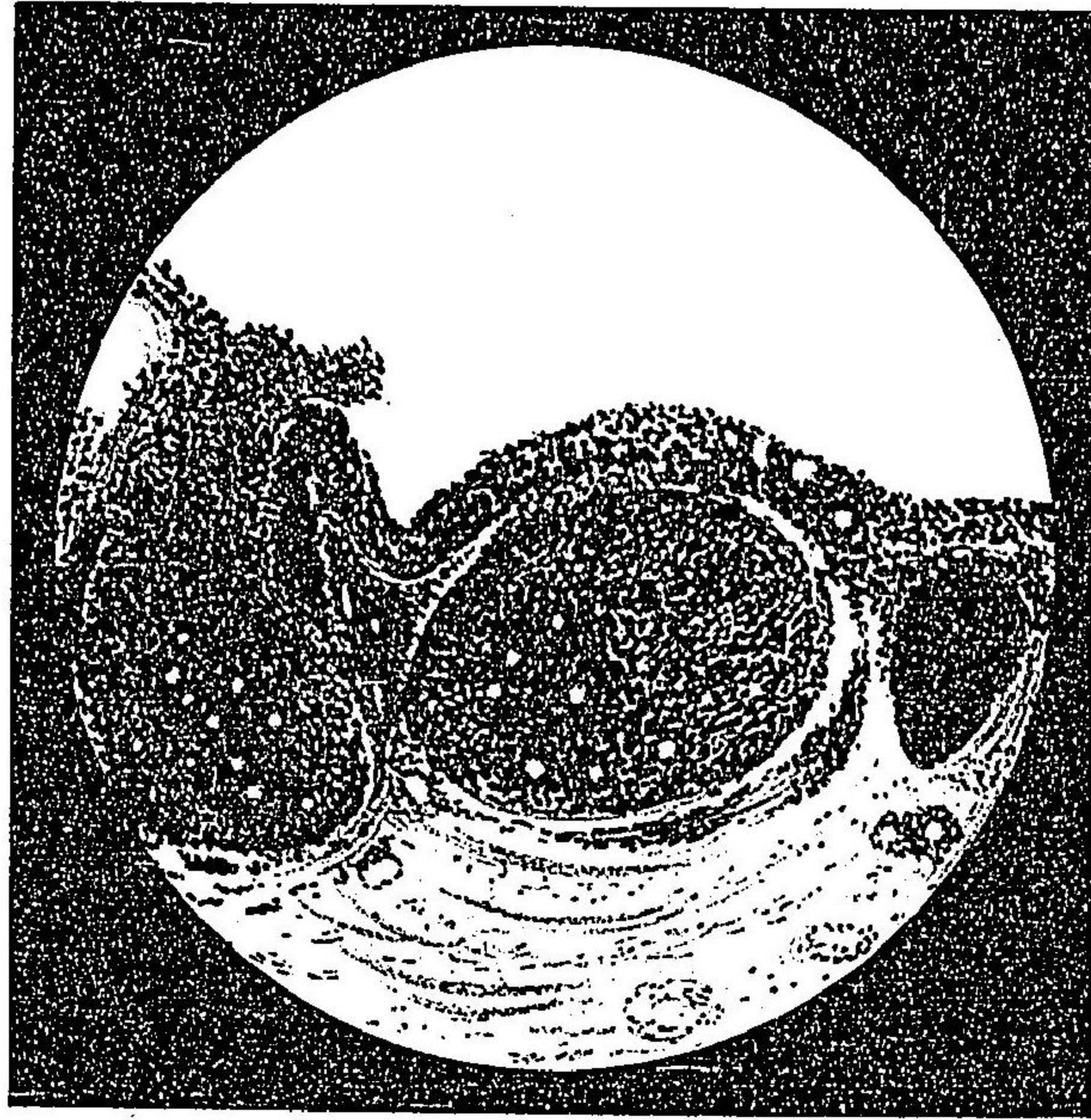


表 三 第



ト ラ ホ ー ム 顆 粒

右ハ幼稚ナル顆粒即チ原發顆粒ナリ

中央ハ發育シタル顆粒ニシテ白點狀ニ見ユルモノハ喰細胞ナリ

左ハ末期ノ顆粒ニシテ一部分崩壞シツ、アルモノ

明治四十四年六月十日印刷

明治四十四年六月十五日發行

(正價金八拾錢)

編者 林 角 吉

發行者 河 野 幸
東京市本郷區本富士町二番地

不許複製

印刷者 矢 部 政 吉
東京市本郷區湯島切通坂町五十一番地

印刷所 正 文 舍
右 同 所
(電話下谷一三六〇)

發兌元

東京市本郷區本富士町二番地 明文館書店
東京市芝區愛宕町三丁目 明文館支店
千葉縣千葉町市場 明文館支店

肆 書 捌 賣

本郷區春木町二丁目	同 區湯島切通坂町	日本橋區通三丁目	神田區鍛冶町	本郷區龍岡町	本郷區湯島切通坂町	本郷區春木町三丁目	本郷區本富士町	本郷區本富士町	本郷區龍岡町	本郷區湯島切通坂町	大阪市中心齋橋筋博勞町	大阪市中心齋橋筋一丁目	大阪西區羽子板橋	名古屋市本町三丁目	京都市三條寺通町	長崎市引地町	熊本市新地二丁目	金澤市片町	岡山市上ノ町	仙臺市新傳馬町
半田屋書店	南江堂書店	丸善書店	朝香屋書店	吐鳳堂書店	金原書店	南江堂支店	文光堂書店	豐文堂書店	朝陽堂書店	宮澤書店	丸善書店	松村九兵衛	角屋書店	丸善書店	南江堂京都出張所	安中集榮堂	長崎次郎	宇都宮書店	渡邊宗次郎	金榮堂書店

新刊廣告

千葉醫學專門學校 教授 押田德郎先生著 (上卷總論發行)

近世細菌學 全三冊

洋裝本綴類美木 上卷 正價金參圓五拾錢 小包料金貳拾四錢 清、朝、壺、權、金四拾五錢

醫學士 長尾美知先生著 (前編增訂再版)

近世兒科學 全二冊

洋裝本綴類美木 正價金四圓八拾錢 小包料金貳拾四錢 清、朝、壺、權、金四拾五錢

醫學博士 金杉英五郎先生校閱
ドクトル 佐藤敏夫 講述

耳鼻咽喉氣管病學 全一冊

洋裝本綴類美木 正價金貳圓八拾錢 小包料金拾八錢 清、朝、壺、權、金四拾錢

慈惠會醫學專門學校講師醫師柴田榮試驗委員

森田齊次先生纂著 (增補再版)

解剖學講義 全四冊

洋裝本綴類美木 正價金八圓 小包料金參拾錢 清、朝、壺、權、金五拾錢

醫學博士 三輪德寬先生校閱
ドクトル 田村六三郎先生 著

外科鑑別診斷學 全二冊

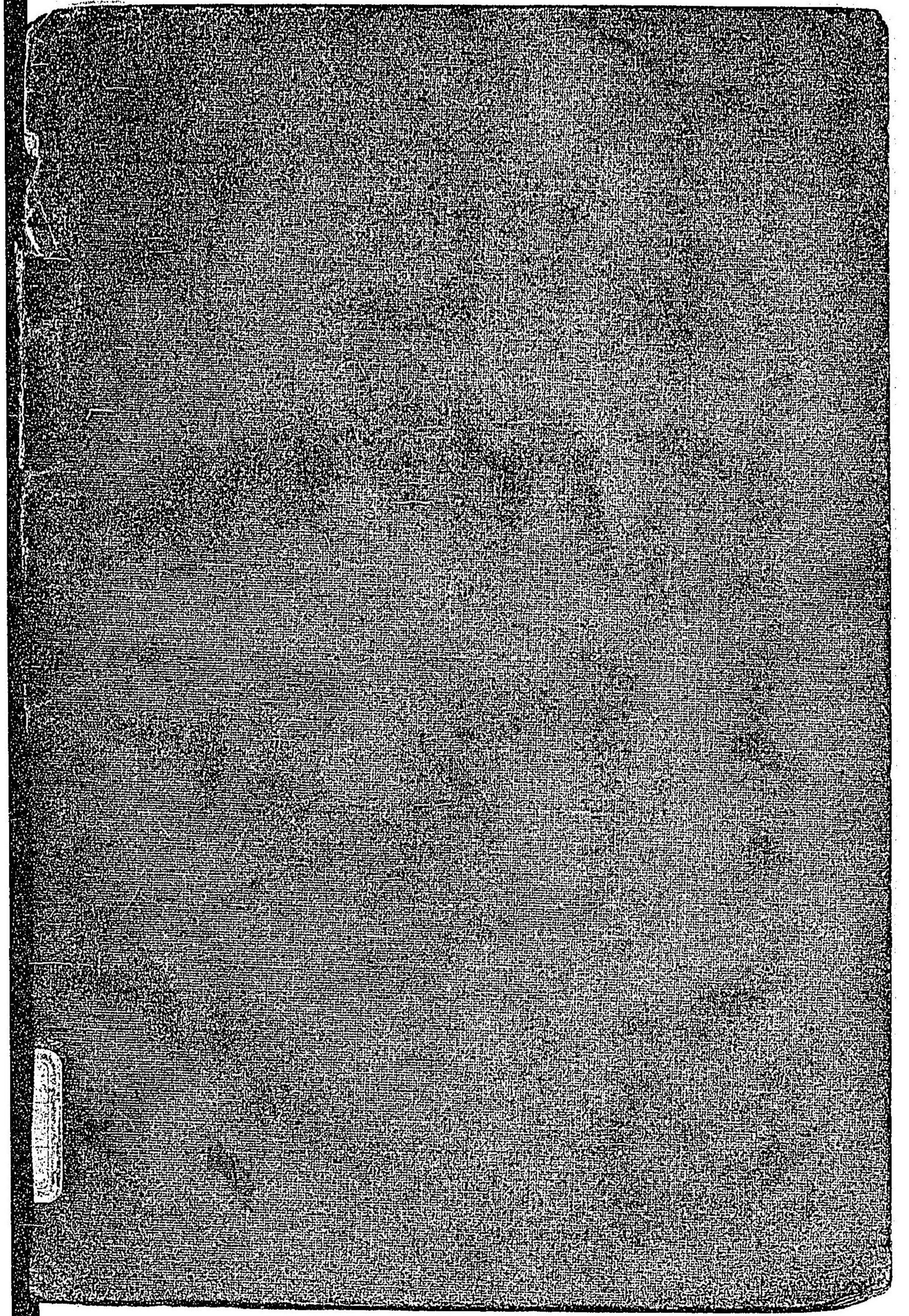
洋裝本綴類美木 正價金參圓七拾錢 小包料金貳拾四錢 清、朝、壺、權、金四拾五錢

藥學士 藤本 理先生 著

簡明調劑術 全一冊

袖珍洋裝本綴 正價金壹圓貳拾錢 小包料金拾貳錢

551
72



近世
話講ム|ホヲト
全



售發館文明

060045-000-1

55-72

近世トラホーム講話

荻生 録造 / 述

M44

CBJ-0112

